

和歌山信愛女子短期大学
2022 年度自己点検・評価報告書

2023 年 6 月
自己点検・評価委員会

目次

目次	1
はじめに	3
第1章 本学の自己点検・評価の体制と組織図	4
1) 自己点検・評価の体制	5
2) 法人及び短期大学の組織	7
第2章 2022年度の各部の目標と課題	9
1) 運営会議	10
2) 自己点検・評価委員会	12
3) 生活文化学科	14
4) 保育科	15
5) 宗教部（宗教委員会）	16
6) 教務部（教務委員会、FD・教学IR委員会）	17
7) 入試部（入試委員会）	20
8) 学生部（学生委員会）	21
9) 事務部（SD委員会）	22
10) 学務委員会	24
11) 図書館（図書館委員会）	24
12) きょう育の和センター	25
13) キャリアセンター（進路・就職委員会）	26
14) 学生相談センター	26
第3章 各部の活動・評価報告書	27
1) 運営会議	28
2) 自己点検・評価委員会	31
3) 生活文化学科	40
生活文化学科全体	40
生活文化専攻	51

食物栄養専攻	57
4) 保育科	65
5) 宗教部（宗教委員会）	71
6) 教務部（教務委員会、FD・教学 IR 委員会）	73
7) 入試部（入試委員会）	88
8) 学生部（学生委員会）	92
9) 事務部（SD 委員会）	98
10) 学務委員会	101
11) 図書館（図書館委員会）	105
12) きょう育の和センター	109
13) キャリアセンター（進路・就職委員会）	116
14) 学生相談センター	120
第 4 章 定員充足の状況と学生募集の見通し	122
第 5 章 短期大学及び法人の収支決算書の概要と評価	125
1) 短期大学	126
2) 法人全体	128
第 6 章 短大の中期事業計画（経営改善計画）	129

はじめに

本報告書は、和歌山信愛女子短期大学（以下、本学という。）の学則、並びに内部質保証の方針に基づき、2022年度に本学が実施した自己点検・評価活動について報告するものです。本学の自己点検・評価活動は、本学の建学の精神、教育目的および社会的使命を達成するために、教育研究活動等の状況について自ら点検・評価を行い、その結果を踏まえて、質の向上に向けた恒常的な改善・改革を推進するためにあります。本学では、自己点検・評価委員会が中心となり、全教職員が自己点検・評価活動に参加する体制を整え、毎年度全学的に実施しています。

本学では、2023年度に7年に1度の外部評価機関による認証評価を受けることになっております。2022年度の自己点検・評価では、認証評価を受けるにあたって必要な報告書の作成ならびに根拠資料の確認を念頭に置いた総括的 point check 評価を実施しました。自己点検評価委員長（ALO）の指揮のもと、ほぼ2ヵ月に1回のペースで会議を重ね、問題点を共有しながら各部署の点検・評価を続けてきました。本学が置かれた厳しい状況に鑑み、2021年度の自己点検・評価において浮き彫りとなった課題の改善状況を点検・評価することに力を注いでいます。

また、年度末には外部評価委員会を立ち上げ、学外の有識者に委員を委嘱しています。本学における自己点検・評価の結果を第三者によって客観的に再評価してもらうことにより、課題の解決に向けた取り組みをより確実にしていくことが目的です。

さらに、自己点検・評価委員会では、本報告書に加え、昨年度に引き続き「FD 活動報告書」「教学 IR 報告書」も合わせて取りまとめています。「FD 活動報告書」では、全教員による教育活動の自己点検・評価と改善の姿を、「教学 IR 報告書」では、本学のアセスメントポリシーに基づき、学生の学修成果を可視化するために行われた卒業生調査、卒業生の就職先調査、学生生活調査、学生の自己評価に基づく DP 達成度調査や授業評価等、各種アンケート調査の結果に加え、成績の GPA 分布や単位取得率など、各種教学データを取りまとめ、その傾向を分析し、報告しています。

本学の「自己点検・評価報告書」は、「FD 活動報告書」「教学 IR 報告書」と合わせ、本学ホームページ上で広く公開しています。この情報公開により、学外の多くの方々に本学の課題と、それに向けた取り組みを知っていただくことで、地域に貢献する教育・研究機関としての責任を果たしていきたいと思っております。

和歌山信愛女子短期大学
副学長
伊藤 宏

第 1 章 本学の自己点検・評価の体制と組織図

1) 自己点検・評価の体制

本学の自己点検・評価に関する規定には、「内部質保証の方針」「アセスメントポリシー」「自己点検・評価委員会規程」がある。これらの方針・規定に従い、学長・副学長・学長補佐・学科長・主任・事務長・宗教部長・教務部長・入試部長・学生部長・学務委員長・図書館長・キャリアセンター長、きょう育の和センター長及び学長が指名する教職員からなる自己点検・評価委員会を組織編成し、全学的な自己点検・評価にあたっている。

本学「内部質保証の方針」では、「自己点検・評価委員会による点検・評価は、アセスメントポリシーに示す定性・定量的データを用いた毎年度のモニタリングと5～7年毎に行う総合的なレビューによって行う。(実施頻度)」としている。この方針にもとづき、自己点検・評価委員会を、原則として2ヶ月に1回(年度6回)、定期的に開催し、自己点検・評価を行っている。自己点検・評価活動の内容は、「自己点検・評価報告書」、「FD活動報告書」、「教学IR報告書」にまとめ、本学ウェブサイト「情報公開」にて公表している。

本学の自己点検・評価活動は、年度当初の学院全体会における理事長の当該年度活動方針表明により始まる。各法人はこの活動方針に基づき、機関レベルでの活動方針を決定し、その活動方針に基づき、短期大学では各学科・専攻、部、委員会、センター等において活動目標及び計画を定め、事業を行うと共に、その進捗状況について点検・評価を実施している。

本学の「内部質保証の方針」には、各組織並びに教職員の自己点検・評価活動における役割及び自己点検・評価の結果を改革・改善につなげる仕組みを明示している。各学科・専攻・部・委員会・センターのいずれかには、専任の全教職員が所属しており、その活動を通じて、全教職員が自己点検・評価活動に参加できる体制を整えている。また、全専任教員には、年度末にFD実践報告書の作成・提出を義務づけ、全ての専任教員が定期的に、授業に関して自己点検・評価を行える仕組みとしている。

本学の自己点検・評価では、外部ステークホルダーからの意見聴取に積極的に努めている。入試委員を中心に、学校訪問や高等学校主催の説明会等において高等学校等の関係者から聞き取った内容を、出張報告書とは別に文書化し、委員会内にて共有すると共に、「自己点検・評価報告書」を通じて学内で共有し、自己点検・評価に反映させている。また、オンラインを活用した教員向けセミナーを実施し、意見の聴取に努めている。さらに、地元産業界からは、キャリアセンターが中心となり、意見聴取に努めている。

自己点検・評価の結果は、運営会議を中心に各学科・専攻・部・委員会・センター等での活動に反映され、以下のように改革・改善に活用している。まず、前年度の自己点検・評価の結果を元に、運営会議が新年度の運営目標を定めている。これら運営会議が定めた方針の下、各学科・専攻・部・委員会・センター等の各部署は年度の活動目標と行動計画を作成し、当該年度の教育・研究・学生支援・地域貢献活動の推進に努めている。さらに、年度末には、各部署は、当該年度の活動について年度目標・計画の達成状況を中心に点検・評価し、その結果を事業活動報告書として自己点検・評価委員会に提出する。自己点検・評価委員会は、提出された報告書を下に、年度目標の達成状況を点

検・評価し、その結果を「自己点検・評価報告書」に取りまとめ、運営会議に報告する。最後に、運営会議は「自己点検・評価報告書」の結果を元に、新年度事業の運営方針を定め、各部の目標の進捗状況に問題がある場合は、その部署に改革の実行を指示できる体制となっている。

和歌山信愛女子短期大学 内部質保証のための PDCA サイクル

自己点検・評価委員会

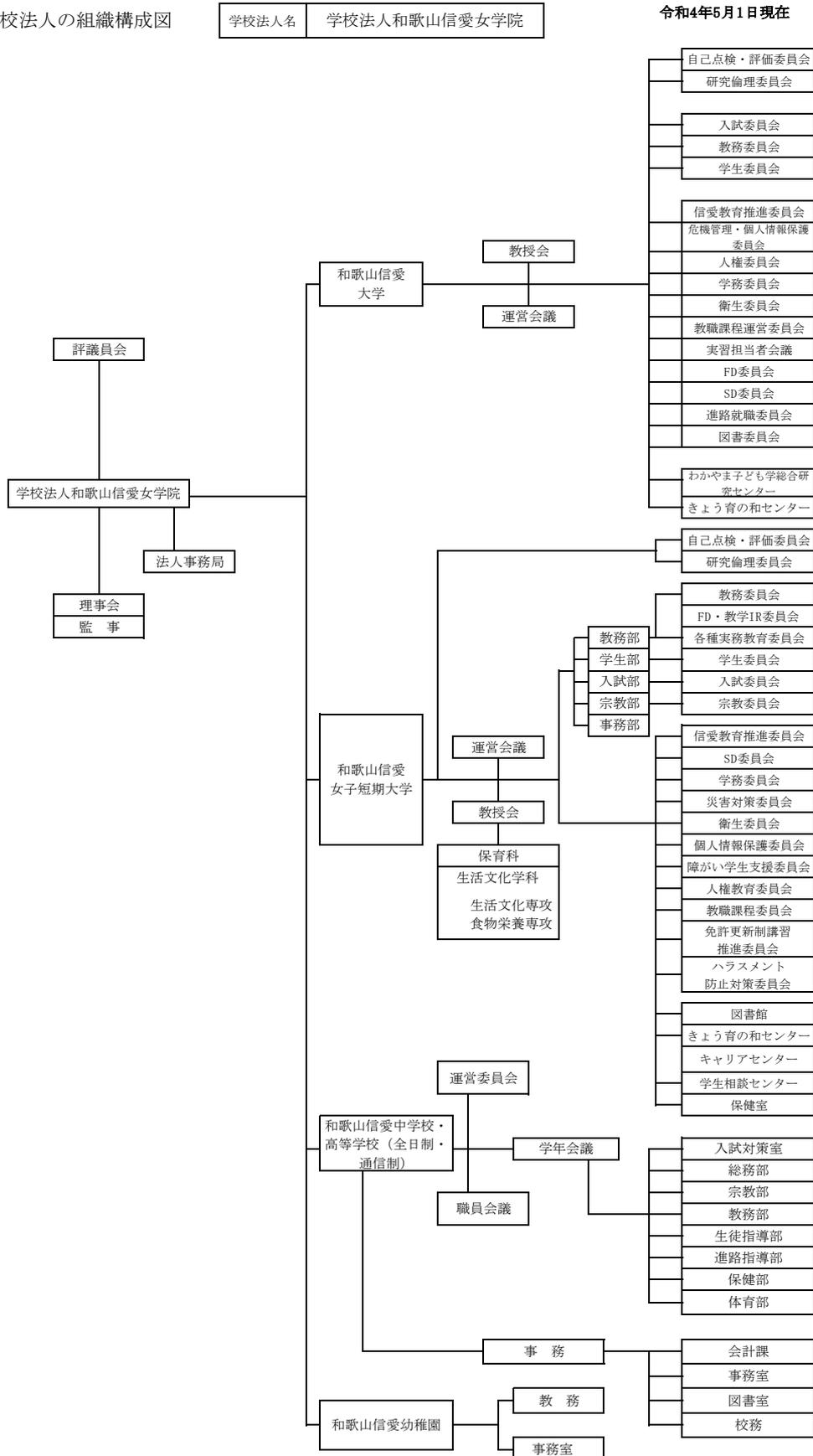
和歌山信愛女子短期大学では、本学内部質保証の方針及びアセスメントポリシーに基づき、以下の PDCA サイクルを通して、教育の質を保証し、恒常的な改革・改善の実現を目指します。



2) 法人及び短期大学の組織

以下に、学校法人和歌山信愛女学院及び本学の組織図を示す。

学校法人の組織構成図



和歌山信愛女子短期大学（以下、本学という。）を有する、学校法人和歌山信愛女学院は、本学の他、和歌山市内に和歌山信愛幼稚園、和歌山信愛中学校・高等学校（全日制・通信制）、和歌山信愛大学を有している。本学には、生活文化学科及び保育科（入学定員 80 名）を設置し、生活文化学科には生活文化専攻（入学定員 40 名）及び食物栄養専攻（入学定員 50 名）の 2 専攻を配置している。

本学では、運営管理に関する重要事項を審議し、理事会との連絡調整を図る組織として運営会議を置き、学長、副学長、学長補佐、学科長、事務長をもって組織している。また、本学の教育及び研究等に関する事項について審議する組織として、学長、副学長及び専任の教授で組織する教授会を設置している。運営会議及び教授会の役割は、本学学則並びに運営会議規程、及び教授会規程に規定されており、平成 26 年度「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律及び学校教育法施行規則及び国立大学法人法施行規則の一部を改正する省令について(通知)」に基づき、学長に意見を述べる審議機関としての役割を担っている。

学長は、本学の教育研究体制、施設設備、学校運営における最高責任者として、その権限と責任において、運営会議・教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。短期大学の学長に加え、併設校の和歌山信愛大学学長、並びに法人理事長を兼務している学長が不在の場合、副学長がその職務を代行している。副学長は、運営会議や教授会の意見を学長に伝えて判断を仰ぎ、学長が最終判断を行う体制を整えている。また、学長は、副学長・学長補佐・事務長等との事前打ち合わせにより、短期大学運営が円滑に進むように努めている。

学長は、教授会の下に教育上の各部(教務部・学生部・入試部・宗教部)及び委員会、センター等を設置している。各部署には教員及び事務職員を配置し、主要な部・委員会については毎月一回の定例会議を開催するなど、規程に基づいて適切に運営している。

第 2 章 2022 年度の各部の目標と課題

1) 運営会議

○ 2022年度 和歌山信愛女子短期大学 運営方針

【経 営】定員充足に向けた募集対策と聖域なき経費削減

【教 学】多様な学びを可能とする教育と学生支援

【研 究】地域と連携した研究推進と外部資金の獲得

【地域貢献】地域社会への学びの場の提供

【SD・FD】学内オンラインシステムの有効活用

【自己点検】目標管理および外部評価に基づいた自己点検評価と情報公開の推進

○ 2022年度の課題と改善計画

基準Ⅰ-A（建学の精神）

- 和歌山県、和歌山市、有田市と大学を交えて包括連携協定を結んでいるが、和歌山市と連携した木のおうちの運営以外、具体的な成果があまり上がっていない。今後は、本学の自己点検・評価に定期的参画を求め、連携強化を図る。

基準Ⅲ-A（人的資源）

- 短期大学設置基準の規定への理解が足りず、教授数が足りなくなっていた。今後は、運営会議を中心に、設置基準の確認を行い、計画的な人事を行う。
- 教員の研究活動が活発ではない。学術研究会による奨励金の積極的活用を若手に促す。
- 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みについて、教員の自主的な取組に任せているところがあった。研究倫理規定を見直し、倫理教育への定期的な受講を義務づける。
- 授業評価や学生生活調査の結果を組織的なFD活動につなげる流れが不明瞭である。運営会議において授業評価の結果を共有し、課題がある教員には改善計画の提出を求めるなど、具体的な対応を検討する。

基準Ⅲ-D（財的資源）

- 2022年度入試においても、大幅に定員を下回り、来年度も支出超過の見込みである。生活文化学科をコース化や通信高校との提携強化による募集強化と、計画的な人事計画により、経営改善を図る。

基準Ⅳ-A（理事長のリーダーシップ）

- 2020年度に中期計画を策定したが、その進捗状況の評価するとともに、状況の変化に対応できるよう、適切な見直しを行う。
- 理事長の総理状況を、より具体的に見える化していく。
- 理事会における審議の活性化を図ると共に、理事会の決定内容について、口頭のみならず資料として全教職員が共有できるシステムを確立する。
- 文部科学省による私立学校ガバナンス改革の審議の方向性を注視し、理事長及び理事会の在り方について検討を行う。

基準IV-B（学長のリーダーシップ）

- 学長が短期大学に不在の場合が多く、業務の多くを副学長が代行している。教授会に学長が常時出席できるように調整すると共に、学長不在の場合に副学長が判断できる内容を明確化する。
- 学長不在の場合の連絡体制や副学長・学長補佐・事務長との役割分担を明確化し、運営上緊急を要する場合の意思決定や校務について、より円滑な遂行体制を整える。
- 議題の決定がどうしても教授会当日にならざるを得なかった。各部・委員会との連絡体制を明確にし、議題や資料の取りまとめを速やかに行えるシステムを構築する。
- 学修成果及び3つの方針に対する運営会議・教授会での共有は適切に行われたが、議論については十分になされなかった。三つの方針に沿った大学運営がなされているかの議論を定期的に設定し実施する。
- 教授会の開催形態について改善を検討する。准教授以下の陪席や、全体会議との関連付けを明確にすること等を進めていく。
- 議事録のデータを全教職員が共有できるようなシステムを構築する。
- 学長の決定・判断が教授会の意見を聴取したものであることを、より明確化できるシステムを構築する。
- 大学と短大が合同で審議すべき事項の明確化を図っていくと共に、議事録を整備し、審議事項の共有と具体化を図る。
- 委員会規程見直しに必要な現状把握を行った。今後、具体的な見直しを行う。

基準IV-C（ガバナンス）

- 文部科学省による私立学校ガバナンス改革の審議の方向性を注視し、評議員会、監事の構成や役割について検討していく。

2) 自己点検・評価委員会

○ 2022 年度の目標

目標：課題改善進捗状況の点検・評価とエビデンスの蓄積

◎ 2021 年度自己点検・評価で見出された課題

- ・和歌山県・和歌山市・有田市との連携強化
- ・3 方針の見直し
- ・外部ステークホルダー（行政・教育委員会・産業界）からの意見聴取
- ・高等学校関係者からの意見聴取
- ・PDCA サイクルの実質化
- ・試験による成績評価
- ・事務規定の整備
- ・組織的な SD
- ・経営改善計画の策定と実行
- ・中・長期計画進捗状況の評価と見直し
- ・学長・副学長・学長補佐による連携体制の構築
- ・情報公開

◎ エビデンスの蓄積

- ・学修成果の可視化
- ・活動記録の蓄積
- ・根拠資料の整理

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準 I -B（教育の効果）

- 育成を目指す学修成果が、今の地域・社会のニーズに合致しているのか、エビデンスに基づく検証が必要である。来年度は、行政や教育委員会からの意見聴取、高校教育現場や地元産業界を対象としたニーズ調査を実施し、点検を行う。さらには、生活文化学科及び保育科の教育課程の見直しを行う予定である。

基準 I -C（内部質保証）

- 内部質保証の方針及びアセスメントポリシーを策定したが、学内での共通理解が不十分である。また、学修成果を査定し、PDCA サイクルを回して教育の向上・充実に計る流れが全教職員間で共有化されていない。今後は、本学の内部質保証の方針及びアセスメントポリシーの確認を年度初めの全体会議にて行うとともに、PDCA の内容を整理、視覚化し、教職員の理解向上を図る。

基準 II -A（教育課程）

- 測定した学修成果を学内で共有し、教育改善につなげる仕組みが全学的なものになっていない。また、学外への公表方法も組織的に共有化されていない。今後は、全体会議等を通じて内部質保証の方針、アセスメントポリシーへの学内理解

を深めるとともに、「教学 IR 報告書」を通じて学修成果の獲得状況を教職員が共有し、その結果を公表することで教育改善につなげる仕組みを構築する。

基準Ⅱ-B（学生支援）

- 大学全体の運営や教育内容について、直接学生から意見を聴取する仕組みがない。副学長・教務部長などと学生代表との懇談の機会を設ける。

基準Ⅲ-A（人的支援）

- 短期大学設置基準の規定への理解が足りず、教授数が足りなくなっていた。今後は、運営会議を中心に、設置基準の確認を行い、計画的な人事を行う。
- 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みについて、教員の自主的な取組に任せているところがあった。研究倫理規定を見直し、倫理教育への定期的な受講を義務づける。
- 授業評価や学生生活調査の結果を組織的な FD 活動につなげる流れが不明瞭である。運営会議において授業評価の結果を共有し、課題がある教員には改善計画の提出を求めるなど、具体的な対応を検討する。

基準Ⅳ-A（理事長のリーダーシップ）

- 認証評価における理事会の役割を具体的に共有し、認証評価に備える。

基準Ⅳ-B（学長のリーダーシップ）

- 委員会規程見直しに必要な現状把握を行った。今後、具体的な見直しを行う。

基準Ⅳ-C（ガバナンス）

- 新しいホームページの運用等を通して、情報公開の促進をさらに進めていく。

3) 生活文化学科

○ 2022 年度の目標

- 生活文化学科のコース編成に向けた取り組みとして、学生のニーズに応じた対応を行い、資質の向上を目指す。
- 今日的なジェンダー平等概念の下、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、社会に貢献することのできる真に強く優しい女性を育成する。
- グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。
- 幅広い知識・教養と語学力を備え、あらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力・思考力を備えることを目指す。
- 効率的な会議化を目指す。
- 昨年度の目標の反省を生かし、改善する。
- 学生の地域交流の機会を増やす。

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準 I -A (建学の精神)

- 栄養ワンドー以外にも地域産業界と連携した取組を充実させていく。

基準 II -A (教育課程)

- 育成を目指す学修成果が、今の地域・社会のニーズに合致しているのか、エビデンスに基づく検証が必要である。来年度は、行政や教育委員会からの意見聴取、高校教育現場や地元産業界を対象としたニーズ調査を実施し、点検を行う。さらには、生活文化学科及び保育科の教育課程の見直しを行う予定である。
- 本学の3方針、各学科・専攻の教育課程が育成を目指すところの学修成果が、現代社会や地域のニーズに合致しているのかを検証し、改善に取り組んでいく必要がある。今年度実施した卒業生調査、就職先アンケート調査の結果及び今後行うニーズ調査の結果を踏まえ、3方針の見直しを行うと共に、基礎教養科目群及び学科・専攻の専門教育科目群が目指す学修成果と教育課程について抜本的な見直しを図る。
- 生活文化学科生活文化専攻では多様な職場で個性を發揮できる人材育成を目指してきたが、高校生にとって卒業後の進路がイメージしにくいという課題がある。今後は、高等学校教員からの意見を聴取し、高校生の今のニーズを把握することで、生活文化学科の改編につなげていく。

基準 II -B (学生支援)

- 学生の基礎学力向上のため、これまで以上に少人数制の指導について力を入れる。

4) 保育科

○ 2022 年度の目標

- 教職課程「領域」における「領域に関する専門的事項」の対応について、2022 年 9 月末までに文科省に申請する。
- 教育訓練給付制度（専門実績教育訓練）が導入されたことを広報し、社会人入学者増につなげる。
- 養成校としての使命を意識し、質の高い保育者を育成するために、学生一人ひとりに適切な支援を行う。

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準Ⅱ-A（教育課程）

- 育成を目指す学修成果が、今の地域・社会のニーズに合致しているのか、エビデンスに基づく検証が必要である。来年度は、行政や教育委員会からの意見聴取、高校教育現場や地元産業界を対象としたニーズ調査を実施し、点検を行う。さらには、生活文化学科及び保育科の教育課程の見直しを行う予定である。
- 本学の3方針、各学科・専攻の教育課程が育成を目指す学修成果が、現代社会や地域のニーズに合致しているのかを検証し、改善に取り組んでいく必要がある。今年度実施した卒業生調査、就職先アンケート調査の結果及び今後行うニーズ調査の結果を踏まえ、3方針の見直しを行うと共に、基礎教養科目群及び学科・専攻の専門教育科目群が目指す学修成果と教育課程について抜本的な見直しを図る。
- 生活文化学科生活文化専攻では多様な職場で個性を発揮できる人材育成を目指してきたが、高校生にとって卒業後の進路がイメージしにくいという課題がある。今後は、高等学校教員からの意見を聴取し、高校生の今のニーズを把握することで、生活文化学科の改編につなげていく。

5) 宗教部（宗教委員会）

- 2022 年度の目標
 - 建学の精神の具現化について考える。
 - 命の大切さ、学生生活を支援してくれている方々への感謝の気持ちを育てる。
 - 建学の精神の一環として、学生の聖母委員を中心に募金活動に取り組む。

 - 2022 年度の課題と改善計画
- 基準 I -A（建学の精神）
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、今年度も仁川の幼きイエズス修道会本部での信愛教育研修会を実施することができなかった。修道会における研修は、本学のルーツを知る上で重要であり、新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しながら、再開時期を検討する。
 - 新型コロナウイルス感染症流行により、今年度全学生・教職員が参加する全学ミサを実施できたのは1回だけであった。今後、感染症流行の状況を注視しながら、全学ミサの機会を通常に戻していく。
 - 聖母委員（学生）の活動内容や募金活動について見直しを図る。

6) 教務部（教務委員会、FD・教学 IR 委員会）

○ 2022 年度の目標

【教学】 多様な学びを可能とする教育と学生支援

- 教養改革の具体化
- 多様なメディアを利用した授業の充実
 - オンライン対応可能な授業科目を選定
- 基礎学力が不足する学生を対象とした教育を組織的に行う体制の整備
- 長期履修制度の検討
- 感染症と共にある学修支援の向上
 - 配慮を要する欠席の在り方や、感染症流行下における学修支援内容について検討
- 『Google Classroom』と『学生ポータル』による教学支援の充実（継続）
- 学修成果の可視化と教学情報の提供（継続）
 - 各種アンケート調査の実施（授業評価、学生生活調査、DP 達成度調査、学修計画と振り返り、科目到達目標達成度調査、卒業生調査（2019 年度卒業生））
 - 教学 IR 報告書の作成

【地域貢献】 地域社会への学びの場の提供

- 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実
 - 社会人学生を対象とした学修プログラムや学修支援の検討・実施
- 履修証明プログラムの検討

【SD・FD】 学内オンラインシステムの有効活用

- 学生ポータルの活用方法に関する研修と情報提供
- FD のテーマ： 授業改善に生かす学生ポータルの活用法

【自己点検】 目標管理および外部評価に基づいた自己点検評価と情報公開の推進

- 教学情報の公開（継続）

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準 I-B（教育の効果）

- 育成を目指す学修成果が、今の地域・社会のニーズに合致しているのか、エビデンスに基づく検証が必要である。来年度は、行政や教育委員会からの意見聴取、高校教育現場や地元産業界を対象としたニーズ調査を実施し、点検を行う。さらには、生活文化学科及び保育科の教育課程の見直しを行う予定である。
- 地域・社会のニーズを把握し、本学の 3 方針の妥当性について、再度点検する必要がある。今年度実施した卒業生アンケート調査、就職先アンケート調査の結果及び今後行うニーズ調査の結果を踏まえ、3 方針の見直しを行う。

- 教育課程編成・実施の方針において、文部科学省のガイドラインが示す、教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等が示されていない。2022年度中の改訂を目指す。
- 入学者受け入れの方針において、卒業認定・学位授与の方針との対応関係が不明瞭になっている。2022年度中の改訂を目指す。

基準Ⅱ-A（教育課程）

- 本学の3方針、各学科・専攻の教育課程が育成を目指す学修成果が、現代社会や地域のニーズに合致しているのかを検証し、改善に取り組んでいく必要がある。今年度実施した卒業生調査、就職先アンケート調査の結果及び今後行うニーズ調査の結果を踏まえ、3方針の見直しを行うと共に、基礎教養科目群及び学科・専攻の専門教育科目群が目指す学修成果と教育課程について抜本的な見直しを図る。
- 今年度は、講義・演習科目の一部に試験による評価を行っていない科目も見られた。来年度は講義・演習科目は例外なく期末試験を行うように、「シラバス作成のためのガイドライン」を通じて全教員に通知し、徹底を図る。
- 測定した学修成果を学内で共有し、教育改善につなげる仕組みが全学的なものになっていない。また、学外への公表方法も組織的に共有化されていない。今後は、全体会議等を通じて内部質保証の方針、アセスメントポリシーへの学内理解を深めるとともに、「教学 IR 報告書」を通じて学修成果の獲得状況を教職員が共有し、その結果を公表することで教育改善につなげる仕組みを構築する。

基準Ⅱ-B（学生支援）

- 学習成果可視化システム **Assessmentor** を通じて学生個々の学習成果の獲得状況を把握できるようになったが、担任等が把握した結果を学内で共有できていない。教務部を中心に、**Assessmentor** を通じて、課題のある学生をいち早く見だし、その情報を学科・専攻内で共有する手順を明確にし、学内共有を図る。
- **Google Classroom**、学生ポータル、サイボウズ、学内無線 LAN 環境と教育や学務に ICT を活用できる環境が整ったが、学生・教職員がまだ、その環境を十分に活用できていないのが現状である。学生ポータルの使用方法の見直しを行い利用について再検討すると共に、ICT の活用法に関する情報を積極的に教職員に提供し、活用技術及び学生への指導力向上を図る。
- 非常勤教員との専任教員が意見を交換する機会が少ない。FD 研修会への非常勤教員の参加を積極的に促し、意見交換の場を設ける。
- 学生の基礎学力向上のため、これまで以上に少人数制の指導について力を入れる。
- 基礎学力が不足する学生への補習授業の実施は、教科担当者の裁量にゆだねている。今後は、教務部や学科・専攻会議を通じて、組織的に補習を計画する仕組みを検討する。

- 社会人入学生特有の課題に対応できていない。社会人学生のニーズを把握し、学生支援につなげる仕組みの構築が不可欠である。

基準Ⅲ-C（技術資源をはじめとするその他の教育資源）

- Google Classroom、学生ポータル、サイボウズ、学内無線 LAN 環境と教育や学務に ICT を活用できる環境が整ったが、学生・教職員がまだ、その環境を活用仕切れていないのが現状である。ICT の活用に関する情報を積極的に教職員に提供し、活用技術に加えて学生への指導力向上を図る。

7) 入試部（入試委員会）

○ 2022年度の目標

- 保育科の志願状況が厳しいことを踏まえて、関係部署に同科の改革などを働きかけていくと同時に、広報的に様々な工夫を凝らしていく。
- 生活文化学科生活文化専攻の今年度改革と次年度以降のコース化について、広報的観点から留意していくと同時に、必要な対応を適宜行っていく。
- 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の広報について、前年度委員会決定の事業所への周知に加え社会人への訴求強化を行っていく。

○ 2022年度の課題と改善計画

基準Ⅰ-C（内部質保証）

- コロナ渦のため、各高校の入試担当者を本学に招いての大学説明会は、今年度も実施できなかった。高等学校からの意見聴取は、募集における学校訪問の機会に限定されていた。今後は、大学説明会の場を利用したり、アンケート調査を実施することで、高等学校関係者の意見を聴取し、自己点検・評価活動に生かす仕組みを構築する。

基準Ⅱ-A（教育課程）

- 入学手続者に与えた課題に関して、その成果を把握・評価できる方法が不十分である。次年度の学生募集要項の入学者受入れの方針に、入学前の学習について記載する。入学前の学習評価を把握し、入学後、学生に応じた支援を行う。
- コロナ渦で、高等学校関係者を招いての大学説明会を開催することができなかった。次年度は高校説明会を開催すると共に、webによるアンケート調査を活用し、高等学校の進路担当者からフィードバックを得やすくする方法を検討する。本学の概要や入学者選抜方法ごとの特徴や選抜基準について、一目でわかるパンフレット等を作成し、高等学校の進路担当者へ送付するとともに、説明会やオープンキャンパスで高校生に配布する。

基準Ⅱ-B（学生支援）

- 入学手続者への情報発信について、大学生活に興味を持てるような内容への改定と、発信方法の多様化（YouTube等の活用）について検討する。

8) 学生部（学生委員会）

- 2022 年度の目標
 - 学内での文具等の販売
 - アメニティの充実（継続目標）
 - パウダールームの設置
 - 手ごろな価格のランチメニューの追加と内容の充実
 - アイスの自動販売
 - ICT の更なる活用（各 HR での同時授業など）
 - プロジェクターの多重放映による学生への配慮
 - 学生証の ICT 化
 - 女子短期大学らしい環境づくり（フラワーガーデンの増設など）
 - 学食のカフェ化

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準Ⅱ・B（学生支援）

- 学生ポータルへの導入で授業の出席確認など便利にはなったが、学生指導の改善には、学生ポータルと並行して対面的な学生とのコミュニケーションによる学生意見の情報の収集を行う必要がある。
- 遠隔地から来る学生に対して、宿舎のあっせんの強化、自動車通学の充実を検討する。
- キャンパス・アメニティの改善が必要である。
- 社会人入学生特有の課題に対応できていない。社会人学生のニーズを把握し、学生支援につなげる仕組みの構築が不可欠である。
- 新型コロナウイルス感染症流行の状況を見ながら、クラブ活動など、課外活動の再開を目指す。

9) 事務部 (SD 委員会)

○ 2022 年度の目標

事務業務の効率化

SD：学生ポータルを活用方法に関する研修と情報提供

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準Ⅱ-B (学生支援)

- Google Classroom、学生ポータル、サイボウズ、学内無線 LAN 環境と教育や学務に ICT を活用できる環境が整ったが、学生・教職員がまだ、その環境を十分に活用できていないのが現状である。学生ポータルの使用方法の見直しを行い利用について再検討すると共に、ICT の活用法に関する情報を積極的に教職員に提供し、活用技術及び学生への指導力向上を図る。
- 全館 LAN 環境の整備を行った今年度は、導入に不具合がないかを確認した。来年度以降、学内どこでも学生ポータルや規則等の確認ができるよう、タブレットの導入を検討していく。
- 留学生の受け入れや派遣の実績は無いが、対応はできるよう、情報収集に努める。
- 遠隔地から来る学生に対して、宿舍のあっせんの強化、自動車通学の充実を検討する。
- キャンパス・アメニティの改善が必要である。

基準Ⅲ-A (人的資源)

- 事務職員の仕事の配分を見直し、個々のセクションが責任を持ち業務に取り組むように環境の整備を整える。
- 就業時間外電話対応についてはダイヤルインを導入したが、今後は日常についても代表+ダイヤルインをとりいれ少人数での事務対応を検討する。
- 現在、実施している事務朝礼についてサイボウズを導入したことによって日常のスケジュールや連絡が密となった。毎日実施から週 2 程度に変更することによって午前中業務効率をねらう。
- 就業に関する諸規定を教職員が閲覧できていない。サイボウズ上に規定を掲載し、閲覧できるようにする。
- 文章の管理・処理に関する規程など、事務関係諸規定の一部に未整備の部分がある。新たな規定作成を含め、対応を検討する。
- 教員・職員を含めた全学的 SD の実施体制が不明瞭であった。今後、運営会議及び SD 委員会を中心に、組織的な SD の実施体制の構築を図る。

基準Ⅲ-B (物的資源)

- 校地、校舎について面積は充足している。今後、運動場の一部に学生駐車場を設ける事を検討する。

- 新型コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら、ラーニングコモンズの設置を検討する。
- コロナ禍でタブレットを用いたオンライン授業を経験している高校生の受け入れに対応し、タブレットの導入を今後検討する。
- カメラ等の設備の制約により、学内からリアルタイムでオンライン配信できる場が限られていた。Web カメラやスクリーンなどの整備を行い、配信できる環境を整える。
- コロナ禍のため避難訓練等の行事を自粛延期している中、自衛組織の見直しを行っている。今後の予定は職員を中心（班長）とした実践に近いフローを作成し教職員の訓練を実施しその後全体訓練を検討している。日常的に起きる地震についても学内放送で現状報告等をスムーズに行えるよう取組を検討する。
- 校舎内での車いす移動には、概ね対応できているが、聴覚視覚障害を持つ学生に対応できていない。今後、対応方策について検討する。

基準Ⅲ-C（技術的資源をはじめとするその他の教育資源）

- Google Classroom、学生ポータル、サイボウズ、学内無線 LAN 環境と教育や学務に ICT を活用できる環境が整ったが、学生・教職員がまだ、その環境を活用仕切れていないのが現状である。ICT の活用に関する情報を積極的に教職員に提供し、活用技術に加えて学生への指導力向上を図る。

基準Ⅲ-D（財的資源）

- 人材育成のための教育・研究機関として地域コミュニティーに貢献するための支出を充実させる。そのために学生生徒納付金収入をはじめとする収入の強化を計る。また、寄付金募集を積極的に行う一方、資金の運用は安全性の高い運用を進める。
- 経費支出については既存の支出の中で不要な支出がないかどうかをチェックし、無駄な経費の削減に努める。これら日々の活動において監査法人、評議員会、理事会と緊密に連絡し、安定した学院運営を行う。

10) 学務委員会

- 2022 年度の目標
 - 工夫しながら（動画配信等）コロナ禍における
 - 式典（卒業式・入学式）を進めていく。
 - 式典のスムーズな進行のため、
 - 学生部・宗教部・教務部等と連携を図る。
 - 公開講座、コンソーシアム和歌山関係事業は、きょう育の和センターと連携をとり実施していく。

- 2022 年度の課題と改善計画
特に無し

11) 図書館（図書館委員会）

- 2022 年度の目標
 - 学生・教職員のニーズを把握し、資料を充実し、図書館の利用促進を目指す。

- 2022 年度の課題と改善計画
基準Ⅱ-B（学生支援）
 - 新型コロナウイルス感染症の流行状況を見ながら、可能であれば、ブックハンティングを実施する。
 - 図書リクエストのアンケート調査をするのであれば、リクエスト内容について説明する時間を設け、調査期間をもう少し長く設定する。

- 基準Ⅲ-B（物的資源）
 - 図書館の利用者が必要な情報にスムーズにアクセスできるよう、利用向上を図るための配架について検討していく。
 - 学生ポータルや Google Classroom を通じて、コロナ禍のもとでも図書館の情報を得られるようにしていく。
 - 図書の適切な整理のための廃棄を進めていく。
 - 教職員や学生に対して図書のリクエストを募集していく。
 - 授業や実習に関する図書のコーナーや、資格関連の図書を充実させる。

12) きょう育の和センター

○ 2022 年度の目標

- 感染症対策を徹底した学生への学びの場の提供及び地域社会への貢献を目指す。

○ 2022 年度の課題と改善計画

基準Ⅰ-A（建学の精神）

- コロナ禍の一年であったため、ボランティアなど教職員や学生による参加型の活動には多くの制限がかかった。しかし、感染対策を整備したうえで、できる限りの活動を行った。インターネット環境が整備されたことでオンラインによる活動が多く用いられた結果、活動の幅の広がりも見られた。今後、オンラインも活用した活動を広げることで地域や他機関との連携を強化するとともに学内においても、きょう育の和センターを地域活動の拠点窓口として一元化を図っていく。また、新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しながら、再開の目処を立てる。

基準Ⅱ-B（学生支援）

- 学生のボランティア活動について、現行ではボランティア論による成績評価、子育て・子育て支援論による成績評価と本学独自の資格付与といった授業と紐づけた評価が存在するが、今後、更なる発展のためには評価基準を設定する必要がある。

基準Ⅲ-A（人的資源）

- 教員の研究活動が活発ではない。学術研究会による奨励金の積極的活用を若手に促す。

13) キャリアセンター（進路・就職委員会）

- 2022 年度の目標
- WEB による就職活動に対する支援の充実。
- 就職活動の円滑化のため、学生のキャリア支援システム（キャリアタス UC）の利用促進を図る。
- キャリタス UC やサイボウズを有効に利用し、教職員間の連携を強化する。
- 卒業生への就職支援の充実を図る。

- 2022 年度の課題と改善計画

基準Ⅱ-A（教育課程）

- 卒業生に対する支援において、求人や相談内容の情報共有がキャリアセンター委員間で不十分であったため、支援実績が乏しい状態である。今後対応できるような情報共有の仕組みの構築に努める。

基準Ⅱ-B（学生支援）

- コロナ禍において、多くの企業が Web（オンライン）による採用活動を取り入れ、定着しつつあるが、本学では Web による就職活動への支援が不十分である。「Zoom」によるオンライン面談を取り入れ、充実を図る。

14) 学生相談センター

- 2022 年度の目標
- 総合的な学生支援と専門的な学生支援の連携・協働

- 2022 年度の課題と改善計画

特になし

第3章 各部の活動・評価報告書

1) 運営会議

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

運営会議

今年度の改善目標

2022年度は、運営方針として以下のことを掲げた。

【経 営】

定員充足に向けた募集対策と聖域なき経費削減

【教 学】

多様な学びを可能とする教育と学生支援

【研 究】

地域と連携した研究推進と外部資金の獲得

【地域貢献】

地域社会への学びの場の提供

【S D ・ F D】

学内オンラインシステムの有効活用

【自己点検】

目標管理および外部評価に基づいた自己点検評価と情報公開の推進

実施内容

定例運営会議（原則的に毎月第1月曜日）12回に加え、運営上の必要に応じて不定期に12回の臨時運営会議を開催した。

定例運営会議については、開催前に運営会議メンバー以外の各部門の責任者（部長、センター長、委員長）に審議事項や報告事項を募り、副学長が取りまとめて議案を作成した。審議事項の内容によっては、該当部門の責任者に会議に参加してもらい説明等を求めた。

臨時運営会議については、2022年度は特に新型コロナウイルスの感染拡大防止への喫緊の対応を迫られた際に招集した。年度後半には、急な退職希望者が出たことによる人事案件のための招集もあった。

※審議内容の詳細については、運営会議議事録を参照。

評価

- ・ 「定員充足に向けた募集対策と聖域なき経費削減」については、まず学費の改訂に着手し2024年度入学生から入学金、授業料、教育充実費を値上げする方針を決めて理事会の承認を得た（実験実習費については廃止）。入試部に対しては社会人受験生を増加させるための施策実施を指示し、「大人のためのオープンキャンパス」等の企画・広報活動が実現した。また、入試部から提案された沖縄・九州島嶼部へのアプローチを承認し、リサーチ作業に着手した。経費削減については、予算の執行状況などを適宜確認しながら、可能な限りの削減を試みた。さらに2025年度までに短大の収支決算を黒字にすることを目標に掲げた「和歌山信愛女子短期大学 経営改善計画」を策定し、理事会に提出して大まかな方向性について

て承認を得た。

- ・ 「多様な学びを可能とする教育と学生支援」については、教務部を中心にオンラインによる受講を可能とする「メディア授業対応科目」を整備し、次年度の時間割に反映させた。また、生活文化学科の専攻を廃してコース化する計画を進めてきた。
- ・ 「地域と連携した研究推進と外部資金の獲得」については、特に外部資金の獲得を思うように進めることができなかった。
- ・ 「地域社会への学びの場の提供」については、主に以下のような取り組みを行い、地域連携を積極的に進めることができた。
 - ①学内で収穫した筍を使ったコロッケ（たけのこごろごろコロッケ）を開発し、和歌山電鐵（株）の協力のもと、2022年5月28日、試食会とレシピ配布を貴志川線伊太祈曾駅で行った。
 - ②2022年8月29日には、日高川町と包括連携協定を締結した。
 - ③紀の川市と連携し、貴志川線沿線（活性化）事業を実施し、「貴志川線（沿線）活性化（乗客者数増）、学生の課題発見・解決能力の向上」を目標に、2022年11～12月にプレ事業『貴志川線活性化プロジェクト』を開催した。2023年度開講の共通教養科目「プロジェクト実践演習」につなげる計画であり、紀の川市とは2023年度に包括連携協定を締結する予定である。
 - ④2022年12月15日～2023年1月31日まで、和歌山市の委託を受けたトヨタカローラ和歌山株式会社等が行うわかやま城下町バル及び本学でのカーシェア実証実験の協力を行った。
 - ⑤2022年12月18日には和歌山電鐵（株）の依頼で、貴志川線「クリスマスプレゼント電車」において、保育科学生が人形劇や器楽演奏を行った。
- ・ 「学内オンラインシステムの有効活用」については、FD・教学 IR 委員会を中心に集約したデータを有効に活用するために情報共有を進めた。また、FD 研修会において学生ポータルの有効な活用を検討した。さらに、SD 研修等における検討を経て、学内文書のペーパーレス化への試みを準備した。
- ・ 「目標管理および外部評価に基づいた自己点検評価と情報公開の推進」については、自己点検・評価委員会を中心に来年度の認証評価に備える形で規程や組織体制の見直しを進めた。
- ・ 2022年度においては、運営会議の決定が全教職員に周知されないという事態が度々生じてしまった。次年度に向けた大きな課題であり、運営方針に「ガバナンス」の項目を加えることで対応することとした。

来年度の改善計画

2023年度改善計画（運営方針）は以下の通りである。

【ガバナンス】

学務全般の効率化および活性化

【経 営】

経営の安定化に向けた抜本的な組織改革

【 教 学 】

多様なニーズに応じた教育と学生支援

I C Tを利活用した教育の質の向上

【 研 究 】

研究者の研究倫理・コンプライアンス意識の向上

【 地域貢献 】

地域との連携推進と学びの場の提供

【 S D ・ F D 】

オンラインシステムの適切な運用

データ利活用による授業の質の向上

【 自己点検 】

外部評価に基づいた自己点検評価と全教職員の評価活動への参画

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

副学長 伊藤 宏

2) 自己点検・評価委員会

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

自己点検・評価委員会

今年度の改善目標（前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画を含めて記載）

目標：課題改善進捗状況の点検・評価とエビデンスの蓄積

◎ 2021年度自己点検・評価で見出された課題

<基準Ⅰ-A 建学の精神の課題>

- 和歌山県・和歌山市・有田市との連携強化

<基準Ⅰ-B 教育の効果の課題>

- 3方針の見直し

<基準Ⅰ-C 内部質保証の課題>

- 外部ステークホルダー（行政・教育委員会・産業界）からの意見聴取
- 高等学校関係者からの意見聴取
- PDCA サイクルの実質化

<基準Ⅱ-A 教育課程の課題>

- 試験による成績評価

<基準Ⅱ-B 学生支援の課題>

- 根拠資料の蓄積

<基準Ⅲ-A 人的資源の課題>

- 事務規定の整備
- 組織的なSD

<基準Ⅲ-B 物的資源の課題>

<基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の課題>

<基準Ⅲ-D 財的資源の課題>

- 経営改善計画の策定と実行

<基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップの課題>

- 中・長期計画進捗状況の評価と見直し

基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップの課題

- 学長・副学長・学長補佐による連携体制の構築

基準Ⅳ-C ガバナンスの課題

- 情報公開

◎ エビデンスの蓄積

- 学修成果の可視化
- 活動記録の蓄積
- 根拠資料の整理

実施内容

今年度の自己点検・評価委員会の活動において、審議・決定した内容は以下の通りである。（以下、自己点検・評価委員会議事録より）

2022年度 第1回自己点検・評価委員会 議事録

日時：2022年4月25日（月） 17:10～18:15

場所：大会議室

出席者：学長補佐（教務部長・ALO）・宗教部長（保育科長）・学生部長（生活文化学科長）・事務長・生活文化専攻主任・食物栄養専攻主任・保育科主任2名・きょう育の和センター長（図書館長）・キャリアセンター長

欠席者：学長・学生相談センター長

議案

- 1) 2021年度自己点検・評価報告書について
- 2) 認証評価に向けたスケジュールについて
- 3) 内部質保証のためのPDCAサイクルについて
- 4) 2022年度、自己点検・評価の方針について
- 5) 2022年度自己点検・評価報告書（認証評価用）作成計画について

2022年度 第2回自己点検・評価委員会 議事録

日時：2022年6月27日（月） 17:10～18:05

場所：大会議室

出席者：学長補佐（教務部長・ALO）・宗教部長（保育科長）・学生部長（生活文化学科長）・事務長・生活文化専攻主任・食物栄養専攻主任・保育科主任2名・きょう育の和センター長（図書館長）・学生相談センター長・キャリアセンター長

欠席者：学長・副学長（入試部長）

議案

- 1) 2023年度認証評価に向けたスケジュールについて
- 2) 内部質保障ルーブリックについて
- 3) 2022年度の各部の活動目標について
- 4) 課題の進捗状況と中間報告について
- 5) ニーズ調査の実施について
- 6) 基礎学力不足学生、優秀学生への対応一覧様式について

2022年度 第3回自己点検・評価委員会 議事録

日時：2022年9月26日（月） 17:10～18:30

場所：大会議室

出席者：副学長（入試部長）・学長補佐（教務部長・ALO）・宗教部長（保育科長）・学生部長（生活文化学科長）・事務長・生活文化専攻主任・食物栄養専攻主任・保育科主任2名・きょう育の和センター長（図書館長）・学生相談センター長・キャリアセンター長

欠席者：学長

議案

- 1) 自己点検・評価の中間報告について

- 2) 地元企業を対象としたニーズ調査集計結果について
- 3) 企業からの意見聴取の状況について
- 4) 2022 年度卒業生アンケート調査の回答状況について
- 5) 認証評価用資料と集約方法について確認をした。
- 6) 学生代表からの意見聴取の方法について
- 7) 外部評価の方法について

2022 年度 第 4 回自己点検・評価委員会 議事録

日時：2022 年 11 月 28 日（月） 17:00～18:30

場所：大会議室

出席者：学長補佐（教務部長・ALO）・宗教部長（保育科長）・学生部長（生活文化学科長）・生活文化専攻主任・食物栄養専攻主任・保育科主任 2 名・きょう育の和センター長（図書館長）・キャリアセンター長

欠席者：学長・副学長（入試部長）・事務長・学生相談センター長

議案

- 1) 学生代表からの意見聴取の方法について
- 2) 高等学校からの意見聴取の状況について
- 3) 地元企業が求める人材象について（ニーズ調査及び企業からの意見聴取より）
- 4) 内部質保証のための PDCA サイクル（修正版）について
- 5) 外部評価委員会規程について
- 6) 各部署の目標達成状況と 2022 年度活動・評価報告書について
- 7) 認証評価報告書の作成スケジュールについて

2022 年度 第 5 回自己点検・評価委員会 議事録

日時：2023 年 1 月 30 日（月） 17:00～17:45

場所：大会議室

出席者：副学長（入試部長）・学長補佐（教務部長・ALO）・宗教部長（保育科長）・学生部長（生活文化学科長）・生活文化専攻主任・食物栄養専攻主任・保育科主任 2 名・学生相談センター長・きょう育の和センター長（図書館長）・キャリアセンター長・事務長

欠席者：学長

議案

- 1) 学生代表からの意見聴取の方法について
- 2) 高等学校からの意見聴取の状況について
- 3) 外部評価委員会について
- 4) 2022 年度活動・評価報告書と 2022 年度自己点検・評価報告書について
- 5) 2022 年度自己点検・評価報告書（認証評価用）の作成状況について
- 6) 認証評価までの役割分担・スケジュールについて

2022年度 第6回自己点検・評価委員会 議事録

日時：2023年3月13日（月） 13:00～14:40

場所：大会議室

出席者：副学長（入試部長）・学長補佐（教務部長・ALO）・宗教部長（保育科長）・学生部長（生活文化学科長）・生活文化専攻主任・食物栄養専攻主任・保育科主任2名
学生相談センター長・きょう育の和センター長（図書館長）・キャリアセンター長・事務長

欠席者：学長

議案

- 1) 学生代表からの意見聴取の結果について
- 2) 2022年度授業評価アンケート集計結果について
- 3) 2022年度学生生活調査集計結果について
- 4) 外部評価委員会について
- 5) 2022年度活動・評価報告書と2022年度自己点検・評価報告書について
- 6) 2022年度自己点検・評価報告書（認証評価用）の作成状況及び根拠資料について
- 7) 認証評価までの役割分担・スケジュールについて（進捗状況確認）

改善目標の達成状況と評価

今年度、自己点検・評価委員会では、2021年度の自己点検・評価活動で見出され課題の進捗状況について、各部署に中間報告を求め、課題解消に努めた。その結果、年度当初に挙げた改善策の達成状況は以下の通りである。

【2021年度自己点検・評価の課題と改善目標の達成状況】

基準 I-A 建学の精神

- 和歌山県・和歌山市・有田市との連携強化

[達成状況]

きょう育の和センターを中心に和歌山県内市町村との連携を積極的に進めた。以下、今年度新たに行った連携事業を挙げる。

- ・ 和歌山県：「和歌山版 MaaS 実証実験」
- ・ 和歌山市：「カーシェア利用実証実験協力」
- ・ 有田市：2023年度開講「子育て・子育て支援論」での連携
- ・ 日高川町：包括連携協定締結
- ・ 紀の川市：貴志川線沿線（活性化）事業
- ・ 北山村との連携
- ・ 山東地区まちづくり会との連携

基準 I-B 教育の効果

- 3方針の見直し

[達成状況]

教務部と連携し、文部科学省「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン(中央教育審議会 平成28年3月31日)及び、2021年度に実施した卒業生調査及び就職先アンケート調査の結果、並びに今後行った企業のニーズ調査の結果を踏まえた3方針の見直しを行い、学科・専攻会議、教授会、運営会議での組織的審議を経て、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針の全面改定を行った。

基準 I -C 内部質保証

- 外部ステークホルダー(行政・教育委員会・産業界)からの意見聴取

[達成状況]

地元産業界インタビュー調査: キャリアセンターが中心となり、生活文化学科卒業生の就職先10社、保育科卒業生の就職先10所(園)を対象に、本学卒業生に求める資質・能力に関するニーズ調査を行った。さらに、紀陽銀行、ネットヨタ、オークワ、ウィルバーン商事の人事担当者や役職者と面談し、意見を聴取した。

外部評価委員会: 今年度、自己点検・評価委員会が中心となり、外部評価委員会規程を作成し、外部有識者3名(和歌山県関係者1名、地元企業関係者1名、高等教育機関関係者1名)からなる外部評価委員会を立ち上げた。2023年6月には、第1回外部評価委員会を開催する予定である。

- 高等学校関係者からの意見聴取

[達成状況]

入試委員を中心に、学校訪問や高等学校主催説明会等において、高等学校進路担当者等から意見の聴取に努めた。聴取内容は出張報告書を通じて学内で共有を図っている。

- PDCAサイクルの実質化

[達成状況]

今年度は、昨年度定めた「内部質保証の方針」及び「アセスメントポリシー」に基づき、PDCAサイクルの実質化を進めた。まず、年度当初に、前年度の自己点検・評価の結果を元に、運営会議において新年度の運営目標を定めた。この運営会議が定めた方針の下、各学科・専攻・部・委員会・センター等の各部署に年度の活動目標と行動計画に作成を求めると共に、その進捗状況を、自己点検・評価委員会が中心となって把握し、改革・改善を促した。各部署は、今年度行った改革・改善活動を点検・評価し、その結果を「事業活動報告書」としてとりまとめ、自己点検・評価委員会に報告している。さらに、自己点検・評価委員会は、提出された報告書を下に、年度目標の達成状況を点検・評価し、その結果を「自己点検・評価報告書」に取りまとめ、運営会議に報告する流れを確立させた。このPDCAサイクルは、「和歌山信愛女子短期大学

内部質保証のための PDCA サイクル」として視覚化し、学内教職員への周知を図っている。

基準Ⅱ-A 教育課程

- 試験による成績評価

[達成状況]

教務部が中心となり、課題の改善に取り組んだ。まず、講義・演習科目の全てにおいて、定期試験による成績評価を求め、実行した。また、改正された短期大学設置基準が施行されたことに対応し、学則第 13 条の規程を、「単位修得の認定は、試験によるもののほか、本学が認める適切な方法により学修の成果を評価して行う」として改定した。さらに、「シラバス作成のためのガイドライン」の一部を改定し、教職員に周知することで、次年度の授業計画に反映させている。

基準Ⅱ-B 学生支援

- 根拠資料の蓄積

[達成状況]

自己点検・評価委員会が中心となり、年度当初に、全専任教員を対象として、「基礎学力が不足する学生に対して行った補修授業等の支援」及び「進度の速い学生や優秀な学生に対する配慮・支援」の実施記録の保存を求めた。また、年度末には、今年度実施した支援の内容について、自己点検・評価委員会への報告を求め、根拠資料の集約を図った。

基準Ⅲ-A 人的資源

- 事務規定の整備

[達成状況]

事務部を中心に、新たに「文書規程」を整備した。この規程に基づき、成績記録等、事務文書の保管を適切に行う体制を整えた。

- 組織的な SD

[達成状況]

運営会議及び事務部が中心となり、年度当初に本学の SD 方針を「『学内オンラインシステムの有効活用』とし、事務職員による SD 委員会を定期的に開催すると共に、全学的な SD 研修会を 8 月 29 日に FD 研修会と合同で実施した。

基準Ⅲ-D 財的資源

- 経営改善計画の策定と実行

[達成状況]

運営会議が中心となり、2021 年度に策定した「短期大学運営の課題」を基板に、本学の経営実態、財政状況の現状と見通しの分析を行った。加えて、生活文化学科の 2

専攻を廃してコース化することを軸に、今後5年間で経営健全化を目指すとした『経営改善計画』を策定し、理事会での承認を得た。この計画は、次年度以降の短期大学の運営方針に反映させ、本学の経営改善につなげていく。

基準IV-A 理事長のリーダーシップ

- 中・長期計画進捗状況の評価と見直し

[達成状況]

2020年度に策定した『和歌山信愛女学院・和歌山信愛女子短期大学中期計画』では、短期大学の中期目標を『「地域に必要とされ続ける、大学を目指す」及び「地域コミュニティの基盤としての短期大学へ」をコンセプトに、時代の変化に対応した短期大学づくりを推進する。』としている。さらに、この目標を達成するための改善計画として以下の6項目を挙げている。

- (1) 生涯学習の拠点としての教育改革と単位の実質化・質保証
- (2) 募集戦略の充実による定員確保
- (3) 一人ひとりを大切にした学生支援の充実
- (4) 教育・研究における地域連携促進
- (5) 積極的な補助金獲得等による財政基盤の安定化
- (6) ガバナンス強化

昨年度は、この中期計画に基づき、2021年度に短期大学の強み・弱みを客観的に分析し、「短期大学運営の課題」を策定した。この『短期大学運営の課題』を踏まえ、今年度は、中期計画の進捗状況を分析・評価すると共に、今後5年間で経営健全化を目指すとした『経営改善計画』を策定した。

基準IV-B 学長のリーダーシップ

- 学長・副学長・学長補佐による連携体制の構築

[達成状況]

運営会議・教授会での審議に加え、重要な案件がある都度、学長・副学長・学長補佐・事務長等、関係者による打合せ会議を行い、意思疎通の深化を図った。

基準IV-C ガバナンス

- 情報公開

[達成状況]

今年度は、教務部及び事務部入試・広報係を中心に「学校教育法施行規則第172条の2の規程」及び「私立学校法第63条の2の規定」に基づき、情報公開する内容の整理・見直しを行った。その結果を基に、各部署から公開する情報を集約し、本学ウェブサイト「情報公開」にて学内外に公開している。来年度は、本学ウェブサイトを改定し、学内関係者にわかりやすい「情報公開」を目指す。

今年度目標にある『エビデンスの蓄積』の達成状況は以下の通りである。

● 学修成果の可視化

[達成状況]

FD・教学 IR 委員会を中心となり、学修成果の獲得状況を可視化するための各種調査「授業評価アンケート」「DP 達成度調査」「科目到達目標達成度調査」「学修計画と振り返り」「学生生活調査」「卒業生アンケート調査」「地元産業界インタビュー調査」の実施及び指標の収集（「GPA 分布」「単位修得状況」「留年率・退学率・卒業率」「免許・資格取得率」「就職状況」）に努めた。これら調査結果や各種指標は、「教学 IR 報告書」としてとりまとめ、公開する予定である。

● 活動記録の蓄積

[達成状況]

自己点検・評価委員会を中心となり、年度当初に、各部署に活動記録の保管・蓄積を求めた。各部署は、事業活動を行いつつ、根拠資料の作成・保管に努めている。

● 根拠資料の整理

[達成状況]

自己点検・評価委員会を中心に、根拠資料一覧を作成した。現在は、事務部が中心となって各部署から資料を集約し、学長補佐室内に保管場所を設けて、整理にあたっている。

【評価】

概ね、今年度の目標及び課題の改善計画は達成したと評価する。その一方、計画的な SD 及び学生意見を教学運営に反映する仕組みの構築については引き続き、課題を残している。2023 年度は、構成が見直された SD 委員会の活動を点検・評価し、組織的かつ計画的な SD の実施を着実なものとする。また、今年度作成した経営改善計画の進捗状況について点検・評価し、改善を促すことも、今後の課題である。さらに、2023 年度は認証評価を受ける年となる。期日までの必要書類の準備と提出、根拠資料の整備、実地調査への準備と対応を最優先に、2023 年度の自己点検・評価活動に努める。

来年度の改善計画（下記評価基準に基づく、各部署の課題とその改善計画を記載）

基準 I-C 内部質保証の課題と改善計画

本学の内部質保証における課題と改善計画は以下の通りである。

- 学内での情報共有に関すること：運営会議、教授会、自己点検・評価委員会での審議・決定事項を関係部署に迅速に伝わらないという意見が多い。次年度は、会議資料を pdf 化し、会議の前に関係部署に配布して共有化を図るとともに、決定事項を通知する流れを整備し、迅速な情報共有を図る。
- 外部評価の実施：今年度外部評価委員会を組織し、委員を決定したが、委員会の開催と外部評価の実施が課題となっている。学長・副学長及び ALO が、外部評価委員長と連携し、外部評価委員会を開催すると共に、外部評価の着実な執行を図ると共に、外部有識者の意見を本学の自己点検・評価に反映させる仕組みを確立

させる。

- 学修成果の獲得状況を査定した結果を、学生支援につなげる仕組みの確立：学修成果可視化システムにより、学生の学修成果の獲得状況を把握する多くの情報が利用できるようになったが、活用方法が共有化されていない課題がある。次年度は、自己点検・評価委員会及び教務部が中心となり、得られた IR 情報を教職員間で共有し、教育・学生支援につなげる仕組みの確立を図る。
- 認証評価に向けた課題：次年度に受ける認証評価に向け、報告書の作成及び提出、各種根拠資料の整理、現地調査への対応が課題となっている。ALO を中心に、自己点検・評価委員会を通して、全教職員への理解を深め、計画的に準備を進めていく。

2023 年 3 月 31 日

責任者職位・氏名

自己点検・評価委員会委員長（ALO） 芝田 史仁

3) 生活文化学科

生活文化学科全体

学科・専攻・部・委員会・センター等

生活文化学科

今年度の改善目標

- ・ 生活文化学科のコース編成に向けた取り組みとして、学生のニーズに応じた対応を行い、資質の向上を目指す。
- ・ 今日的なジェンダー平等概念の下、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、社会に貢献することのできる真に強く優しい女性を育成する。
- ・ グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。
- ・ 幅広い知識・教養と語学力を備え、あらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力・思考力を備えることを目指す。
- ・ 効率的な会議化を目指す。
- ・ 昨年度の目標の反省を生かし、改善する。
- ・ 学生の地域交流の機会を増やす。

実施内容

以下の内容を生活文化学科で審議し、実施した。

学科会議議事録より

2022 年度 第 1 回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022 年 4 月 20 日（水）16：30～18：30

場所：大会議室

【議案】

1. 今年度の学科の目標（自己点検）
2. 大学改革に向けての取組について（運営会議）（参照 PDF：別紙 1～3）
3. 5 月オープンキャンパスと学校訪問について
4. その他
 - ・ 大学案内が作成進行中であるため、募集要項のアドミッションポリシーについての確認、また、指定校選考について定員に追加変更がないかも確認することが伝えられた。

【報告】

1. 抗原検査キットの取扱い説明（学生への周知）
2. 各専攻での会議の開催や学生に関するトラブル等の報告について
3. 入試部関係（参照 PDF ファイル：別紙 4～7）
 - ① 2022 年度入試結果（別紙 4）
 - ② 2023 年度入試種別と日程（別紙 5, 6）
 - ③ オープンキャンパス日程（別紙 7）

④ 5月以降のオープンキャンパスの運営について(担当決めを専攻会議にて行う)

⑤ 高校訪問、ガイダンス集中日について

⑥ 動画撮影ご協力をお願い

⑦ 募集要項印刷スケジュール

4. 教務部関係

① 今年度の活動方針について

② FDの実施計画について

③ 学生の履修登録及び自己評価の実施状況と今後の指導について報告がなされた。

④ 教養改革(全体)について

5. 進路・就職委員会

① 第1回進路・就職委員会議事録について

② 地域・社会貢献について

③ 学生について(両専攻での情報交換)

2022年度 第2回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022年5月18日(水) 16:35~19:00

場所：大会議室

【議案】

1. 生活文化コース変更に伴う医療事務、医療秘書実務の統一化について

2. 入試部

オープンキャンパス(5月14日)の振り返りについて

3. 教務部

- ・ 教養改革(第2外国語)

- ・ 今年度のFD計画について

4. 学術研究会

- ・ 企画運営委員について

5. 学科目標について

【報告】

1. ボランティア募集

2022年度 第3回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022年6月日(水) 16:36~17:00

場所：大会議室

【議案】

1. 入試部関係

- ・ 7月9日(土)オープンキャンパスについて→(内容は、各専攻で協議)

2. 教務部関係

- ・ 授業評価の実施方法について(課題を出す)

- ・ カリキュラムポリシーの見直し案について
- ・ 基礎演習の内容について（学科専攻共通内容の検討）

【報告】

1. 入試部関係

- ・ オープンキャンパス開催方法について
- ・ 6/16（木）海南大成、海南下津高校見学について
- ・ 高校訪問について
- ・ AO セミナー個別対応について
- ・ その他

大学案内作成業者について、来年度変更予定であることが報告された。

2. 教務部関係

- ・ DP 達成度調査回答の訂正について（特に訂正方法について）
- ・ 共通教養科目群の設置等に伴う学則改正について（現状報告）
- ・ 第1回 FD 研修会について
- ・ オンライン対応授業科目の選定について（現在審議中）
- ・ 補習授業の在り方について（現在審議中）

3. 学生部

- ・ 自動車通学について
- ・ 体育祭・学園祭について
- ・ クラブ活動について

4. その他

- ・ 学生について

2022 年度 第 4 回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022 年 7 月 13 日（水）17：10～17：43

場所：大会議室

【議案】

1. 入試部関係

- ・ 8 月 20 日（土）オープンキャンパスの担当、内容について（詳細は専攻別で審議）

2. 教務部関係

- ・ 学科改編について（詳細は、専攻別で審議）
- ・ 第1回 FD 研修会について（詳細は、専攻別）…ポータル利用の課題を出す。

3. その他

【報告】

1. 入試部関係

- ・ 次年度大学案内のスケジュールについて
- ・ オープンキャンパス参加者事後アンケートについて
- ・ 7 月 22 日（金）大人のオープンキャンパスについて

- ・ 総合型選抜 I 期エントリー人数について
2. 教務部関係
 - ・ DP 達成度調査回答の訂正について。
 - ・ カリキュラムポリシーの見直し案について(専攻会議で再確認する)
 - ・ 各専攻にかかわる学則改正について
 - ・ 基礎演習の内容について
 3. その他
 - ・ 学園祭について (学生部)
 - ・ 学生について

2022 年度 第 5 回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022 年 8 月 17 日 (水) 17:00~18:00

場所：大会議室

【議案】

1. 入試部関係
 - ・ 8 月 20 日(土)、9 月 10 日(土)オープンキャンパスの担当、内容について (詳細は、専攻別で審議)
2. 教務部関係
 - ・ 基礎演習の内容について
 - ・ 2023 年度カリキュラムマップについて (8 月末までに原案作成)
 - ・ AP 改正の方向性について (最終決定 10 月の学科専攻会議)
 - ・ 新コース (2024~)、新資格導入等に関する学則改正について
 - ・ オンライン対応授業科目の選定について
 - ・ 長期履修制度について
3. その他

【報告】

1. 入試部関係
 - ・ 総合型選抜エントリー状況報告
 - ・ 大学案内進捗状況報告と学生モデル選定のお願い
 - ・ 動画、写真等ご協力をお願い
 - ・ 大人のオープンキャンパス報告と振り返りについて
2. 教務部関係
 - ・ 夏季休暇中の教務オリエンテーションと後期受講登録スケジュールについて
 - ・ FD・SD 合同研修会について
 - ・ 集中講義の取り扱いについて
 - ・ 卒業生調査について
 - ・ 配慮を要する欠席を多用する学生への対応について
 - ・ 補習授業の在り方について
 - ・ ディプロマサプリメントについて

3. その他

学生部

後期の自動車通学の台数は61台（新規10台）であり、現状の駐車スペースでは足りない為、文科省で指定されている運動場のスペースを確保しながら、新しく15台分の駐車スペースを設置する。作業は8/29（月）に学生部で行う。

2022年度 第6回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022年9月21日（水）17：00～18：55

場所：大会議室

【議案】

1. 教務部関係

- ・ 生活文化学科全体の教育目的・DPについて

2. 入試部関係

- ・ 4月からのオープンキャンパスでの評価について（各専攻別審議）について

【報告】

1. 入試部関係

- ・ 2022年度入試 現在の志願者の動向について
- ・ 信愛高校見学への対応について
- ・ オープンキャンパスについて
- ・ 高校ガイダンス時アンケートについて

2. 教務部関係（中西先生）

- ・ 紀の国わかやまと世界について
- ・ 紀の国の自然受講希望者の抽選方法について
- ・ 2回分の補講日程について
- ・ オンライン対応授業科目の選定について
- ・ 学則改正について（各専攻会議で協議）
- ・ 基礎演習の内容について
- ・ 新設科目の英文表記について
- ・ 補習授業を実施した場合には記録をしておく
- ・ 社会人学生を対象とした教育・学習支援の充実について
- ・ 子育て支援員研修の指定申請について
- ・ 社会人学生のニーズ把握について
- ・ 授業の相互参観及び第2回FD研修会について

3. その他

- ・ 学園祭について

2022年度 第7回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022年10月19日（水）17：00～18：25

場所：大会議室

【議案】

1. 入試部関係
 - ・ 合格者への通知物について
2. 教務部関係
 - ・ 2024年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて
 - ・ 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実について
3. 宗教部関係
 - ・ 12月21日（水）クリスマスミサについて

【報告】

1. 入試部関係
 - ・ 2023年度の各種イベント計画（入試）について
2. 教務部関係
 - ・ 2023年度カリキュラムマップについて
 - ・ 2024年度入学生用APについて
 - ・ 基礎演習の内容について
 - ・ 新設科目の英文表記及び科目ナンバリングコードについて
 - ・ 学則改正の進捗状況確認（各科専攻にて）
 - ・ オンライン対応授業科目の選定について（各科専攻にて）
 - ・ 授業の相互参観及び第2回FD研修会について
3. 学生部
 - ・ 学園祭について
 - ・ 体育祭について
 - ・ 学生について

2022年度 第8回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022年11月16日（水）17：00～18：05

場所：大会議室

【議案】

1. 教務部関係
 - ・ 2024年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて
2. 特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会の受賞等について

【報告】

1. 入試部関係
 - ・ 2023年度 学校推薦型選抜（指定校）実施要領について
2. 教務部関係
 - ・ クリスマスミサ12月21日（水）の生活文化学科の授業について
 - ・ 授業の相互参観及び第2回FD研修会について
3. その他

各専攻共に、数名の欠席回数過多により成績評価できない科目がある学生がいることが周知された。

2022年度 第9回 生活文化学科会議 議事録

日時：2022年12月14日（水）17：00～18：35

場所：大会議室

【議案】

1. 2024年度入学生における学科DPについて（運営会議より）
2. 教務部関係
 - ・ 短期大学設置基準改正への対応に伴う学則、規程改正について
 - ・ 2023年度シラバスについて
 - ・ 配慮を要する欠席の取り扱いについて
 - ・ 補習授業の在り方について
 - ・ 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実について
3. 入試部
 - ・ 学科・専攻の行事について
4. 教科名称の一部変更について
 - ・ 『医療秘書実務士』に関する科目の名称変更について
5. その他

【報告】

1. 教務部関係
 - ・ 第2回FD研修会（12/19）について
 - ・ DP達成度調査、学修計画と振り返り、学生生活調査の実施時期について
 - ・ 後期授業評価の実施期間について
2. その他
 - ・ 学生へ貴重品管理の周知を引き続き依頼。（学生部より）

2022年度 第10回 生活文化学科会議 議事録

日時：2023年1月18日（水）17：00～18：26

場所：大会議室

【議案】

1. 入試部
 - ・ 入学前ガイダンスについて
2. 学務委員会
 - ・ 卒業式に関わる事項について
 - ・ フードコーディネーター3級の表彰について
3. 教務部
 - ・ 成績発表のスケジュールについて

【報告】

1. 教務部

- ・ 後期授業評価実施時期：原則授業最終回から1週間以内に実施
- ・ 各種変更届出
- ・ DP到達度調査、学修計画と振り返り、学生生活調査の現地期間について
- ・ 2023年度シラバスについて
- ・ オンライン対応授業科目の選定について
- ・ オンライン授業における課題への対応について
- ・ 2022年度FD実践報告書の作成スケジュールについて
- ・ ディプロサプリメントについて
- ・ 配慮を要する欠席の取り扱いについて
- ・ 補習授業の在り方について
- ・ 2023年度時間割作成について

2. 運営委員会の報告

- ・ 学則の改正・単位認定規定の改正について

3. 学生部より

- ・ 延長届を出す場合は、受理した教員が最後まで残ることとする。
- ・ 期末試験の際には、貴重品の管理に気を付けるようにする。

4. 学生について

5. その他

生活文化学科のガイダンスの際に、貴重品の取り扱いについて学生部長よりアナウンスされることになった。

2022年度 第11回 生活文化学科会議 議事録

日時：2023年2月15日（水）16：00～17：35

場所：大会議室

【議案】

1. 教務部

- ・ 2023年度行事計画について
- ・ メディア授業実施に向けた準備について

2. フードコーディネーター協会賞・特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会理事長賞について

3. 入学前ガイダンスについて→（各専攻で審議）

【報告】

1. 入試部

- ・ 入学者について

2. 教務部

- ・ 各種締切等のお知らせ

3. 学生部

- ・ 学生駐車場設営について

4. 学生状況について

2022年度 第12回 生活文化学科会議 議事録

日時：2023年3月15日（水）15：30～18：50

場所：大会議室

【議案】

1. 学生部

- ・ 2年生オリエンテーション(3月31日)
- ・ 視力検査について
- ・ 貴重品の管理について
- ・ 入学式 保護者説明会について

2. 教務部（中西）

- ・ 2年生オリエンテーション（3月31日）について
- ・ 新入生オリエンテーション（4月4日～4月6日）について
- ・ メディア授業実施に向けた準備進捗状況について

3. 学科改変について

- ・ 2024年度学科改編にともなう学科共通コアカリキュラムについて
- ・ 2023年度に改善を目指す課題について

【学科目標についての反省点】

【新年度目標について】

【報告】

1. 新年度の新型コロナウイルスの対応

2. 新年度の土曜日閉門について

3. 教務部

シラバス最終確定日 3月22日

4. 学務委員会

- ・ 入学式について

5. 入試部

- ・ 現在の志願者動向について
- ・ 2023年4月入学生への地域人材育成特別奨学生証の授与について

6. 転専攻について

7. 学生部

- ・ 学内清掃の役割分担と清掃の徹底化

8. その他

2024年度前期自動車通学安全講習が3月27日および3月31日に行われることが連絡された。

改善目標の達成状況と評価

- ・ 「生活文化学科のコース編成に向けた取り組みとして、学生のニーズに応じた対応

を行い、資質の向上を目指す。」の目標については、特別な学生への資質の向上については対応しているが、もっと学びを極めたいと考えている学生への対応が不十分であった。

- ・「今日的なジェンダー平等の理念のもと、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、社会に貢献することのできる真に強く優しい女性を育成する。」の目標については、生活文化専攻では、達成度はまだまだだが概ねできている結果となったが、食物栄養専攻では、達成するにはまだ難しい状況にあった。
- ・「グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。」の目標については、生活文化専攻では、ほとんど問題がなかったが、食物栄養専攻では、栄養士としての学生の必要な実力が不十分であり、育成すべき課題があることを認識した。
- ・「幅広い知識・教養と語学力を備え、あらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力・思考力を備えることを目指す。」の目標については、生活文化専攻において卒業に必要な単位しか取らない学生がいるので、学びの幅を広げる様に指導することが問題となった。食物栄養専攻では、栄養士認定実力試験でAランクの実力を認定される学生が昨年より大幅に増えたが、まだAランク以外の学生もいるのでさらなる指導が必要であった。
- ・「効率的な会議化を目指す。」の目標については、会議前や会議の進展に問題があり、効率よく進展できなかった。
- ・「学生の地域交流の機会を増やす。」の目標については、食物栄養専攻では地域交流に対して積極的に取組んだという報告がされたが、生活文化専攻では、取組に対して呼びかけたが全く応じる学生がいなかったことが報告された。理由としては、学生の地域交流に関する十分な主旨の内容や重要性等が理解されていないことが要因となっているので、これらの問題点について改善が必要となった。

来年度の改善計画（下記評価基準に基づく、各部署の課題とその改善計画を記載）

【教学】

- ①指導過程で学生にとって良い刺激を与えることに努め、成功体験を重ねることにより達成感を得られる教育を目指す。
- ②今日的なジェンダー平等の理念のもと、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、学生一人一人が社会に出て貢献できることを自覚できるような教育を目指す。

③グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。

④幅広い知識・教養および語学力、ならびにあらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力および深い思考力を備え、専門性を高めることを目指す。

【研究】

⑤研究者の研究倫理・コンプライアンス意識の向上に努める。

⑥学生の資質向上を目指して、教員の自己研鑽に努める。

【地域貢献】

⑦学生の地域交流の機会を増やし、地域との交流や地域への貢献の重要性を認識し、積極的に参加できることを目指す。

【その他】

⑧効率的な会議運営を目指す。

⑨生活文化学科のコース編成に向けた取り組みとして、同科の学生・教職員がより交流を深め、互いに高めあえる関係づくりに努める。

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

生活文化学科学科長 西出 充徳

生活文化専攻

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

生活文化学科生活文化専攻

今年度の改善目標（前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画を含めて記載）
--

1. 生活文化・食物栄養専攻を通じた学科での魅力ある構造的な取組を進める
2. 学生一人一人に対する生活文化・食物栄養専攻間での協力的な学生支援を進める
3. 学生主体の地域との様々な活動を深める取組をすすめる

実施内容

専攻会議議事録より

第1回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年4月20日（水）18時30分～19時20分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①教養改革（各専攻）について
- ②5月以降のオープンキャンパスの運営について

【報告】

- ①高校ガイダンスのお願い
- ②学生についての情報交換
- ③ファッションブライダルの授業について

第2回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年5月18日（水）19時05分～19時35分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①6月オープンキャンパスについて
- ②生活文化学科改編について、コース化内容について

【報告】

- ①学生についての情報交換

第3回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年6月22日（水）18時40分～19時30分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①7月9日（土）オープンキャンパスの担当、内容について
- ②学科改編・カリキュラム内容について

【報告】

- ①個人写真撮影のスケジュールについて
- ②後期の調理実習で使用する白衣の採寸時期について
- ③資格試験ドクターズクランクの日程について

④学生の情報交換等

第4回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年7月20日（水）17時46分～19時35分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①8月20日（土）オープンキャンパスの担当、内容について
- ②第1回FD研修会について
- ③学科改編カリキュラムについて

【報告】

- ①一般財団法人全国大学実務教育協会の資格申請について

第5回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年8月17日（水）18時10分～19時20分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①8月20日（土）、9月10日（土）オープンキャンパスの担当、内容について
- ②2023年度カリキュラムマップについて
- ③AP改正の方向性について
- ④2024年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて
- ⑤学則改正について
- ⑥オンライン対応授業科目の制定について
- ⑦2024年度学科改編カリキュラムについて

第6回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年9月21日（水）18時10分～19時20分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①2023年度カリキュラムマップについて
- ②学則改正について
- ③2024年度からのビジネス実践コースにおけるAPの再検討について
- ④オンライン対応授業科目の選定について
- ⑤2024年度からのビジネス実践コースの4ユニットと新設・既設科目、および、目指す資格等についての関係、DP、CPの設定等について（10月の会議でも審議予定）
- ⑥今年度のオープンキャンパスについて
- ⑦大学実務教育協会の資格到達目標達成度評価実施に向けての準備について

【報告】

- ①高校ガイダンス予定について
- ②卒業アルバムのグループ写真の撮影日について

- ③フォーマルスペシャリスト検定の申し込みについて
- ④白衣の購入日について
- ⑤生活文化ゼミ第1回(9/28 3・4限)の内容について

第7回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年10月19日(水) 18時20分～19時40分

場所：小会議室

【議題】

- ①2023年度カリキュラムマップについて
- ②2024年度入学生用APについて
- ③基礎演習の内容について
- ④新設科目の英文表記及び科目ナンバリングコードについて
- ⑤学則改正の進捗状況確認
- ⑥オンライン対応授業科目の選定について
- ⑦授業の相互参観及び第2回FD研修会について
- ⑧2024年度からのビジネス実践コースの4ユニットと新設・既設科目、および、目指す資格等についての関係、DP、CPの設定等について(11月の会議でも審議予定)
- ⑨合格者課題について

【報告】

- ①合格者への通知物について
- ②フォーマルスペシャリスト検定について
- ③ブライダル発表会の日程について
- ④学園祭の各学級の取組等情報交換について

第8回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年11月16日(水) 18時40分～19時40分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①合格者課題について
- ②指定校推薦入試について
- ③2024年度入学生用APについて
- ④新設科目の英文表記及び科目ナンバリングコードについて
- ⑤オンライン対応授業科目の選定について
- ⑥2024年度1年生カリキュラムマップ作成について

【報告】

- ①フォーマルスペシャリスト検定について

第9回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2022年12月14日(水) 18時40分～19時40分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①学費以外にかかる費用について
- ②オンライン授業科目の選定と必要な環境整備について
- ③2023年度カリキュラムマップについて
- ④2024年度学科改編に伴う新カリキュラムマップについて
- ⑤来年度4月のフレッシュマンキャンプ（校外学習）について
- ⑥全米ブライダルコンサルタント協会（ABC協会）認定ブライダルプランナー検定3級の試験実施について

【報告】

- ①2023年度予算書の提出について
- ②2023年度基礎教養科目に追加等に伴う実務教育協会への申請について
- ③学生の情報交換について

第10回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2023年1月18日（水）18時33分～19時40分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①入学前ガイダンス役割分担とタイムスケジュールについて
- ②オンライン対応科目を含め2023年度カリキュラムマップ最終確認について
- ③2023年度科目新設等に伴う実務教育協会への申請について
- ④2024年度ビジネス実践コース各ユニットとの概要、受講推薦科目等、履修モデルの作成について

【報告】

- ①卒業式で前に出るクラス代表学生の選出について
- ②メディカルクラーク表彰者選出について
- ③入試部IV期エントリーについて
- ④休学中の学生について
- ⑤ファッションブライダルの模擬披露宴について

第11回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2023年2月15日（水）17時35分～19時45分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①合格者課題について
- ②2024年度広報向け資料の材料（ビジネス実践コース各ユニットの概要、受講推薦科目、履修モデルの作成等）について
- ③メディア授業実施に向けての課題と準備について
- ④今年度の反省と来年度に向けての課題について

⑤入学者および入学式後の保護者説明会等、新年度に向けての準備について

【報告】

- ①入学前ガイダンス役割分担とタイムスケジュールについて
- ②新年度の「生活文化論」、「生活文化ゼミ」のシラバスについて
- ③クラス代表等卒業式で前に出る学生の指導について
- ④延期試験、再試験対応について

第12回 生活文化専攻会議 議事録

日時：2023年3月15日（水）18時35分～19時35分

場所：2階小会議室

【議題】

- ①2024年度学科改編に向けての今後の準備事項について
- ②掃除の方法について
- ③視力検査について
- ④フォーマル・ブライダル検定等の担当者の選定について
- ⑤認証評価資料分担について
- ⑥専攻としての今年度の反省と来年度に向けての課題について

【報告】

- ①来年度の転科性、転専攻生について

改善目標の達成状況と評価

（前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画達成状況を含めて記載）

- ・前年度自己点検・評価で判明した課題である「学科の教育課程の見直しを行う」という点に関しては、2024年度を目標に学科改編に向け準備を進めている。
- ・前項と同様の課題である「基礎教養科目群及び学科専攻の専門教育科目群が目指す学修成果と教育課程について抜本的な見直しを図る」については、新たな基礎教養科目群の追加や基礎演習の学科共通必須内容の精選をはかるとともに、新たな資格取得（登録販売者）に向けた2023年度から新授業の開設を準備している。
- ・前項と同様の課題である「高校生の今のニーズ把握することで、生活文化学科の改編につなげていく」については、今後の社会情勢や就職事情に鑑み、よりニーズの強い、有用な資格取得にむけた2コース制と各資格取得に向けた計画的学習ができるようなユニットによる授業編成を計画中である。
- ・前項と同様の課題である「学生の基礎学力向上のため、これまで以上に少人数制指導に力を入れる」については、各教員が、検定対策、基礎学力補充等のために個別補充学習指導をさらに充実させてきた。

来年度の改善計画（下記評価基準に基づく、各部署の課題とその改善計画を記載）

基準 I-A 建学の精神の課題と改善計画

- ・学生の資質向上を目指して、教員の自己研鑽に務める

- ・生活文化学科の学生・教職員の一体化に務める

基準Ⅰ-B 教育の効果の課題と改善計画（学科専攻）

- ・学生の資質向上を目指すため、指導する過程において、効果的な刺激を与え、さらに、成功した喜びや、達成感などを多く体験させることを目指す。
- ・学生の地域交流の機会を増やすため、交流の主旨やそのための重要な事項を事前に十分に理解させる。
- ・積極的な地域交流を通して、地域に貢献できる社会活動を育む力を学ばせ、さらに、自らその学びを高めさせることを目指す。

基準Ⅱ-A 教育課程の課題と改善計画

- ・学生一人一人が社会に出て貢献できることを自覚できるような教育をめざし、さらに、社会において重要な戦力となる女性の育成を目指す

基準Ⅱ-B 学生支援の課題と改善計画

- ・卒業に必要な単位しか取らない学生が増えている現状を踏まえ、より、学生が学びの幅を広げたくなるような、より魅力ある授業や工夫した指導を目指す。

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

生活文化専攻主任 勝本 泰弘

食物栄養専攻

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

食物栄養専攻

今年度の改善目標

- ・学生のニーズに応じた対応を行い、資質の向上を目指す。
- ・今日的なジェンダー平等の理念のもと、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、社会に貢献することのできる真に強く優しい女性を育成する。
- ・グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。
- ・幅広い知識・教養と語学力を備え、あらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力・思考力を備えることを目指す。
- ・学生の地域交流の機会を増やす。

実施内容

以下の内容を専攻会議で審議し、実施した。

2022年度 第1回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022年4月20日（水） 18：30 ～ 19：30

場所：大会議室

審議事項

○入試部について

報告事項

○地域・社会貢献について

- ・栄養ワンダー2022について（学科会議で報告）

○学生の社会的活動について

- ・和歌山県栄養士会開催研修への参加推奨について（学科会議で報告）

○学外実習について

- ・給食管理実習Ⅲ
- ・医療秘書実務実習

○栄養士実力認定試験について

- ・2021年度の結果について

○学生について

- ・アレルギーについて
- ・その他

○聖母祭について

- ・役割担当の学生について
- ・設営について

○実習着について

- ・配布について

○その他

- ・ 補充授業について
- ・ 補講について

2022 年度 第 2 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 5 月 18 日（水） 19：00 ～ 19：30

場所：大会議室

審議事項

- 6 月オープンキャンパスについて
- 授業に関する質の担保について
- 管理栄養士国家試験対策講座について

報告事項

- 地域・社会貢献について
 - ・ 栄養ワンダー2022 について
- 学外実習について
 - ・ 給食管理実習Ⅲ
 - ・ 医療秘書実務実習
- 学生について
- その他
 - ・ 実習室の使用について
 - ・ 有休届について

2022 年度 臨時 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 6 月 8 日（水） 17：00 ～ 19：30

審議事項

- 学外実習について
 - ・ 給食管理実習について
 - ・ 医療秘書実務実習について
- 授業の質の担保について
- その他
 - ・ 基礎演習について

2022 年度 第 3 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 6 月 22 日（水） 17：00 ～ 19：30

場所：大会議室

審議事項

- 給食管理実習Ⅲについて
- オープンキャンパスについて
- 授業評価の実施方法について

○基礎演習の内容について

報告事項

○個人写真撮影のスケジュールについて

○地域・社会貢献について

・栄養ワンダー2022 について

○学生について

2022 年度 第 4 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 7 月 20 日（水） 17：45 ～ 19：40

場所：大会議室

審議事項

○オープンキャンパスについて

○学科改編カリキュラムについて

○カリキュラムポリシーの見直しについて

○オンライン対応授業科目の選定について

○学則改正について

○第 1 回 FD 研修会について

○管理栄養士国家試験対策講座について

○授業に関する質の担保について

報告事項

○学外実習について

・給食管理実習Ⅲについて

・医療秘書実務実習について

○地域・社会貢献について

・栄養ワンダー2022 について

○学生について

2022 年度 第 5 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 8 月 17 日（水） 18：10～19：40

審議事項

○オープンキャンパスについて（8/20、9/10）

○2023 年度カリキュラムマップについて

○AP 改正の方向性について

○2025 年度以降における生活文化学科の教育目的・DP について

○学則改正について

○オンライン対応授業科目の選定について

○長期履修制度について

○管理栄養士国家試験対策講座について

○授業に関する質の担保について

報告事項

- 学外実習について
 - ・給食管理実習Ⅲについて
 - ・医療秘書実務実習について
- 地域・社会貢献について
- 学生について

2022 年度 臨時 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 8 月 29 日（月） 13：30～15：50

審議事項

- 2023 年度カリキュラムマップについて
- 授業に関する質の担保について
- オープンキャンパスについて（9/10）

報告事項

- 学外実習について
 - ・給食管理実習Ⅲについて
 - ・医療秘書実務実習について

2022 年度 第 6 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 9 月 21 日（水） 18：55～19：30

審議事項

- 2023 年度カリキュラムマップについて
- 学則改正について
- オンライン対応授業科目の選定について
- 栄養士実力認定試験について
- 管理栄養士国家試験対策講座について
- 2022 年度オープンキャンパスについて
- 卒業研究について

報告事項

- 学外実習について
 - ・給食管理実習Ⅲについて
 - ・医療秘書実務実習について
- 第 2 回 FD 研修会について
- 学生について

2022 年度 第 7 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 10 月 19 日（水） 18：00～19：30

審議事項

- 2023 年度カリキュラムマップについて

- 2024 年度入学生用 AP について
- 基礎演習の内容について
- オンライン対応授業科目の選定について
- 第 2 回 FD 研修会について
- 合格者の課題について
- 授業に関する質の担保について

報告事項

- 合格者の通知物について
- 学外実習について
 - ・給食管理実習Ⅲについて
- 学生について
- その他
 - ・調理実習室の使用について

2022 年度 第 8 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 11 月 16 日（水） 18：10～19：30

審議事項

- 学則改正について

報告事項

- 学外実習について
 - ・校外実習報告会について

2022 年度 第 9 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2022 年 12 月 14 日（水） 18：37～19：30

審議事項

- 学則改正について
- 専攻の行事日程について
- 合格者の課題について

報告事項

- 栄養士実力認定試験について
- 学生について
- その他
 - ・実験・実習に関する令和 5 年度予算要求願書について

2022 年度 第 10 回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2023 年 1 月 18 日（水） 18：30～19：30

審議事項

- 卒業式について
 - ・代表者・表彰者の選出について

- ・キャップ&ガウン作法指導について
- 成績発表日のスケジュールについて
- 入学前ガイダンスについて

報告事項

- 栄養士実力認定試験の結果について
- 学生について

2022年度 第11回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2023年2月15日（水） 17：35～19：30

審議事項

- 入学前ガイダンスについて
- 2023年度行事計画について
- 授業に関する質の担保について

報告事項

- 学生について
- その他
 - ・フードコーディネーター協会理事長賞について

2022年度 第12回 食物栄養専攻会議 議事録

日時：2023年3月15日（水） 18：52～19：36

審議事項

- オリエンテーションについて
 - ・新1年
 - ・新2年
- 今年度の課題と次年度の目標について
- 管理栄養士国家試験対策講座について
- 授業に関する質の担保について

報告事項

- 学生について

改善目標の達成状況と評価

・「学生のニーズに応じた対応を行い、資質の向上を目指す。」の目標については、特別な学生への資質の向上については対応しているが、もっと学びを極めたいと考えている学生への対応が不十分であった。

・「今日的なジェンダー平等の理念のもと、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、社会に貢献することのできる真に強く優しい女性を育成する。」の目標については、達成するにはまだ難しい状況にあった。

・「グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。」の目標については、栄養士としての学生の必要な実力が不十分であり、育成すべき課題があることを認識した。

・「幅広い知識・教養と語学力を備え、あらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力・思考力を備えることを目指す。」の目標については、栄養士認定実力試験でAランクの実力を認定される学生が昨年より大幅に増えたが、まだAランク以外の学生もいるのでさらなる指導が必要であった。

・「学生の地域交流の機会を増やす。」の目標については、地域交流に対して積極的に取り組んだ。

来年度の改善計画

基準Ⅱ-B 学生支援の課題と改善計画

- ・「学生のニーズに応じた対応を行い、資質の向上を目指す。」
良い刺激を与えることや成功した達成感などを多く体験できる教育を行う。
早期に学生の資質に応じた対策を行う。

基準Ⅰ-B 教育の効果の課題と改善計画

- ・「今日的なジェンダー平等の理念のもと、先行き不透明な環境においても、様々な人や企業と英知を共有し協働することにより、社会に貢献することのできる真に強く優しい女性を育成する。」
学生一人一人が社会に出て貢献できることを自覚できるような教育を行う。

基準Ⅰ-B 教育の効果の課題と改善計画

- ・「グローバル化が進展する中で変化の著しいビジネス現場において、戦力として活躍することのできる女性の育成を目指す。」
栄養士としての実力の育成で課題に取り組む。

基準Ⅱ-A 教育課程の課題と改善計画

- ・「幅広い知識・教養と語学力を備え、あらゆる状況に応じて柔軟に力強く対応するための学力・思考力を備えることを目指す。」
栄養士認定実力試験で全員が認定証Aになるように指導する。

基準Ⅰ-A -2 建学の精神の課題と改善計画

- ・「学生の地域交流の機会を増やす。」
参加の主旨や重要性をよく理解させ、積極的に地域交流を通して、地域貢献の社会活動を育む力を学ばせることや自ら学びを高めることを目標とする。

基準Ⅲ-A 人的資源の課題と改善計画

- ・学生の資質向上を目指して、教員の自己研鑽に務める。

2023年3月31日

責任者職位・氏名

食物栄養専攻主任 森岡 美帆

4) 保育科

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

保育科

今年度の改善目標

- ・教育訓練給付金制度（専門実績教育訓練）が導入されたことを広報し、社会人入学者増につなげる。
- ・教職課程「領域」における「領域に関する専門的事項」の対応について、2022年9月末までに文科省に申請する。
- ・養成校としての使命を意識し、質の高い保育者を育成するために、学生一人ひとりに適切な支援を行う。

実施内容

第1回 2022年4月20日（水） 17:10～19:20

審議事項

- 1) 今年度の運営方針について（小笠原）
保育科の募集対策案
- 2) 子育て広場の担当について（大道）
- 3) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 2) 実習関係
- 3) クラス・学生に関して
- 4) 4月27日 交流会後 臨時科内会議開催
 - ・生命保険協会による給付型奨学金制度 受給者選出について
 - ・教職課程「領域」における「領域に関する専門的事項」の対応について
- 5) その他

第2回 2022年5月18日（水） 17:10～19:00

審議事項

- 1) 学術研究会 保育科企画編集委員 選出について（小笠原）
- 2) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部

宗教部

- 2) 実習関係
- 3) クラス・学生に関して
- 4) その他

第3回 2022年6月22日(水) 14:00~16:00

審議事項

- 1) 実習服(キュロットスカート)について(小笠原)
- 2) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 2) 実習関係、現場体験
- 3) クラス・学生に関して
- 4) その他

第4回 2022年7月20日(水) 17:15~18:25

審議事項

- 1) その他

報告事項

- 1) ボランティアについて(大道)
- 2) 准学校心理士について(大道)
- 3) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 4) 実習関係
- 5) クラス・学生に関して
- 6) その他

第5回 2022年8月17日(水) 9:30~10:20

審議事項

- 1) クリスマス・ミサ当日の保育科授業について(小笠原)
- 2) その他

報告事項

1) 各委員会より

入試部

教務部

学生部

宗教部

2) 実習関係

3) クラス・学生に関して

4) その他

第6回 2022年9月21日(水) 9:30~11:30

審議事項

1) 教科目「ボランティア論」参加先について(大道)

2) 社会人対象の「専門実践教育訓練」と「離転職者等職業訓練」の募集内容について(小滝)

3) 2210教室の車椅子の利用について(小笠原)

4) その他

報告事項

1) 各委員会より

入試部

教務部

学生部

宗教部

2) 実習関係

3) クラス・学生に関して

4) 苅北さん秋季卒業式について

5) その他

第7回 2022年10月19日(水) 17:10~19:00

審議事項

1) 入学前ガイダンスについて(入試部)

2) その他

報告事項

1) 音楽学習発表会について

2) 各委員会より

入試部

教務部

学生部

宗教部

3) 実習関係

- 4) クラス・学生に関して
- 5) その他

第8回 2022年11月16日(水) 17:10~18:45

審議事項

- 1) 入学前ガイダンスのスケジュールについて(入試部)
- 2) 和歌山県民間保育園連盟主催の研修会について(小笠原)
- 3) その他

報告事項

- 1) 「ボランティア論」について(大道)
- 2) 子育て広場(体育館)で使用している備品について(小笠原)
- 3) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 4) 実習関係
- 5) クラス・学生に関して
- 6) その他

第9回 2022年12月14日(水) 17:10~19:10

審議事項

- 1) 次々年度(2024年4月入学)入試について(入試部:児嶋)
- 2) 教務部より
 - ・短期大学設置基準改正への対応に伴う学則、規程改正について
 - ・補習授業の在り方について
 - ・配慮を要する欠席の取り扱いについて
- 3) 保育士養成協議会会長賞について(小笠原)
- 4) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 2) 実習関係
- 3) クラス・学生に関して
- 4) その他

第10回 2023年1月18日(水) 15:30~17:20

審議事項

- 1) 来年度保育科行事について(小笠原)
- 2) 2年生レーヌ・アンチエ賞受賞者について(小笠原)
- 3) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 2) 実習関係
- 3) クラス・学生に関して
- 4) その他

第11回 2023年2月15日(水) 16:30~18:30

審議事項

- 1) 来年度入学生のクラス編制について(小笠原)
- 2) 2/4 1年生学生生活調査で複数学生から盗難についての要望があがっていることの対応方針について(小笠原)
- 3) 保育科学年暦について(金谷)
- 4) 今年度保育科の改善目標の振り返りと来年度の改善計画について(小笠原)
- 5) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 2) 実習関係
- 3) クラス・学生に関して
- 4) その他

第12回目 2023年3月15日(水) 15:00~16:40

審議事項

- 1) 保育科来年度の改善計画について(小笠原)
- 2) 保育科保護者説明会について(小笠原)
- 3) 新年度オリエンテーション(新2年生・新入生)について(小笠原)
- 4) その他

報告事項

- 1) 各委員会より
入試部
教務部
学生部
宗教部
- 2) 実習関係
- 3) クラス・学生に関して
- 4) その他

以上

改善目標の達成状況と評価

・2022年度、社会人を対象としたオープンキャンパスの実施や個別相談は7件程あったが、結局、2023年度の社会人入学予定者は、専門実践教育訓練給付金指定講座制度利用2名、離転職者委託訓練指定講座利用2名の計4名となった。

・教職課程「領域」における「領域に関する専門的事項」の変更について、2022年9月に文科省への申請を終え、12月23日付で認定を受けることができた。

・養成校としての使命感を持ち、質の高い保育者を育成するために、常に教員間で学生の情報を共有しながら、一人ひとりのニーズや学力に合わせた指導を実践した。

来年度の改善計画

1. 募集に関して、県内の幼稚園教諭および保育士志望者は、全員本学に入学することを目標とする。
2. 養成校としての使命を意識し、質の高い保育者を育成するため、入学前から卒業に至るまで、学生一人ひとりに適切な支援を行う。

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

保育科長 小笠原真弓

5) 宗教部（宗教委員会）

学科・専攻・部・委員会・センター等

宗教部

今年度の改善目標

- ・ 建学の精神の具現化について考える。
- ・ 命の大切さ、学生生活を支援してくれている方々への感謝の気持ちを育てる。
- ・ 建学の精神の一環として、学生の聖母委員会を中心に募金活動に取り組む。

実施内容

第1回 2022年4月8日（木）15:00～15:45

1. 聖母祭（みことばの祭儀）について
2. 2022年度 本学の運営方針と宗教部改善目標について

第2回 2022年5月12日（木）16:25～17:20

1. 聖母祭（みことばの祭儀）について
2. 聖母委員会（学生）について

第3回 2022年6月16日（木）16:30～17:10

1. 聖母祭（みことばの祭儀）の振り返りについて
2. 聖母委員会について

第4回 2022年8月3日（水）15:30～17:00

1. 後期の全学ミサについて
2. 聖母委員会の活動について

第5回 2022年9月14日（水）10:00～11:35

1. 追悼ミサについて
2. 聖母委員会について

第6回 2022年10月12日（水）16:30～17:25

1. 追悼ミサについて
2. クリスマスミサについて

第7回 2022年11月13日（月）16:30～17:30

1. 学園祭・追悼ミサの振り返り
2. クリスマスミサについて

第8回 2022年12月7日（水）16:45～17:10

1. クリスマスミサについて

第9回 2023年1月11日(水) 16:30~17:20

1. クリスマスマサについて
2. 卒業ミサについて

第10回 2023年2月8日(水) 13:00~13:20

1. 卒業ミサの準備

第11回 2023年3月1日(水) 15:00~15:40

1. 今年度を振り返り、次年度の改善計画について
2. 卒業ミサについて
3. 次年度について

以上

評価

・建学の精神の具現化について、全学ミサやクラスミサ、信愛教育Ⅰ・Ⅱの授業や学長講話を拝聴することで理解を促すことができた。

・コロナ禍の影響を受けながら、自分自身の命を守るとともに他者にも目を向け、共に生きることの大切さを実感できた。また、学生生活を支援してくれている人たちがいて日々の生活が送れていることに気づきを得られたと思う。

・今年度、聖母委員会(学生)を2回開催。委員長・副委員長を中心に学園祭に於いて、映画「マリア」の鑑賞会を実施。募金活動についても、学園祭および待降節の期間行い、集まった募金はカリタスジャパンに入金した。次年度は聖母委員(学生)が主体的に行う活動の機会をさらに増やしていきたい。

・次年度も今年度の活動目標を継続する。

来年度の改善計画

・建学の精神の具現化について考える。

・命の大切さ、学生生活を支援してくれている方々への感謝の気持ちを育てる。

・建学の精神の一環として、学生の聖母委員を主体とした宗教行事や募金活動を実施する。

2023年3月31日

責任者職位・氏名

宗教部長 小笠原 眞弓

6) 教務部（教務委員会、FD・教学 IR 委員会）

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

教務部（教務委員会、FD・教学 IR 委員会）

今年度の改善目標（前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画を含めて記載）
--

【教学】 多様な学びを可能とする教育と学生支援

- 教養改革の具体化
- 多様なメディアを利用した授業の充実
- 基礎学力が不足する学生を対象とした教育を組織的に行う体制の整備
- 長期履修制度の検討
- 感染症と共にある学修支援の向上
- 『Google Classroom』と『学生ポータル』による教学支援の充実（継続）
- 学修成果の可視化と教学情報の提供（継続）

【地域貢献】 地域社会への学びの場の提供

- 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実
- 履修証明プログラムの検討

【SD・FD】 学内オンラインシステムの有効活用

- 学生ポータルの活用方法に関する研修と情報提供
- FDのテーマ：授業改善に生かす学生ポータルの活用法

【自己点検】 目標管理および外部評価に基づいた自己点検評価と情報公開の推進

- 教学情報の公開（継続）

実施内容

今年度、教務部会議において審議し、実施した活動は以下の通りである。（以下、教務部会議議事録より）

2022年度 第1回 教務部会議 議事録

日時：2022年4月13日（水） 17:00～19:00

場所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、金谷、大道、宮下、榎本、小滝

欠席者：なし

書記：小滝

議案

- 1) 今年度の活動方針について
- 2) FDの実施計画について
- 3) 学生の履修登録及び自己評価の実施状況と今後の指導について
- 4) 教養改革について

2022年度 第2回 教務部会議 議事録

日時：2022年5月11日（水） 17:10～19:30

場所：1217教室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、金谷、大道、榎本

欠席者：宮下

書記：中西

議案

- 1) 教養改革について
- 2) 3つのポリシーの見直しについて
- 3) 今年度のFD計画について
- 4) オンライン対応授業科目の選定方針について
- 5) 基礎演習の内容について
- 6) 補習授業の在り方について
- 7) 長期履修制度について

2022年度 第3回 教務部会議 議事録

日時：2022年6月15日（水） 16:00～18:30

場所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、金谷、大道、榎本

欠席者：宮下

書記：森岡

議案

- 1) DP達成度調査回答の訂正について
- 2) 授業評価の実施方法について
- 3) 学則改正について
- 4) カリキュラム・ポリシーの見直し案について
- 5) 第1回FD研修会について
- 6) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 7) 基礎演習の内容について（継続審議）
- 8) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 9) 長期履修制度について（継続審議）

2022年度 第4回 教務部会議 議事録

日時：2022年7月13日（水） 17:00～19:00

場所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、金谷、大道、榎本

欠席者：宮下

書記：榎本

- 1) DP達成度調査回答訂正状況について
- 2) カリキュラム・ポリシーの見直し案について
- 3) 学則改正について
- 4) 第1回FD研修会について

- 5) 前期期末試験時間割について
- 6) 卒業生調査について
- 7) ディプロマサプリメントについて
- 8) 基礎演習の内容について（継続審議）
- 9) 授業評価の実施方法について
- 10) 受講登録における夏期集中講座の扱いについて
- 11) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 12) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 13) 長期履修制度について（継続審議）

2022年度 第5回 教務部会議 議事録

日 時：2022年8月10日（水） 15:00～17:30

場 所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、金谷、榎本、大道

欠席者：宮下

書記：大道

議案

- 1) 夏期休暇中の教務オリエンテーションについて
- 2) FD・SD 合同研修会について
- 3) 集中講義の取り扱いについて
- 4) 基礎演習の内容について（継続審議）
- 5) 卒業生調査について
- 6) 配慮を要する欠席を多用する学生への対応について
- 7) 2023年度カリキュラムマップについて
- 8) AP 改正の方向性について
- 9) 2025年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて（継続審議）
- 10) ディプロマサプリメントについて（継続審議）
- 11) 学則改正の進捗状況確認（継続審議）
- 12) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 13) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 14) 長期履修制度について（継続審議）

2022年度 第6回 教務部会議 議事録

日 時：2022年9月14日（水） 16:00～18:15

場 所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、金谷、大道、榎本

欠席者：宮下

書記：岡井

議案

- 1) 紀の国の自然受講希望者の抽選方法について
- 2) 月曜日『紀の国わかやまと世界』科目の補講日について
- 3) 2023年度カリキュラムマップについて
- 4) 基礎演習の内容について（継続審議）
- 5) AP改正の方向性について
- 6) 2025年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて（継続審議）
- 7) ディプロマサプリメントについて（継続審議）
- 8) 学則改正の進捗状況確認（継続審議）
- 9) 新設科目の英文表記及び科目ナンバリングコードについて
- 10) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 11) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 12) 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実について
- 13) 授業の相互参観及び第2回FD研修会について

2022年度 第7回 教務部会議 議事録

日時：2022年10月12日（水） 16:00～18:15

場所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、金谷、大道、榎本

欠席者：宮下

書記：勝本

議案

- 1) 2023年度カリキュラムマップについて
- 2) 2024年度入学生用APについて
- 3) 2024年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて（継続審議）
- 4) 基礎演習の内容について（継続審議）
- 5) 新設科目の英文表記及び科目ナンバリングコードについて
- 6) 学則改正の進捗状況確認（継続審議）
- 7) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 8) 授業の相互参観及び第2回FD研修会について
- 9) 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実について
- 10) ディプロマサプリメントについて（継続審議）

2022年度 第8回 教務部会議 議事録

日時：2022年11月9日（水） 17:00～19:15

場所：大会議室

出席者：芝田、中西、森岡、小滝、大道、榎本、金谷

欠席者：勝本、岡井、宮下

書記：金谷

議案

- 1) クリスマスマサ時（12/21）の生活文化学科の授業について
- 2) 配慮を要する欠席の取り扱いについて
- 3) 2024年度入学生用 AP 【入学前に学習しておくことが期待される内容】について
- 4) 2024年度以降における生活文化学科の教育目的・DPについて（継続審議）
- 5) 新設科目の英文表記及び科目ナンバリングコードについて
- 6) 学則改正の進捗状況確認（継続審議）
- 7) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 8) 授業の相互参観（11/28～12/23）及び第2回 FD 研修会（12/19）について
- 9) ディプロマサプリメントについて（継続審議）
- 10) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 11) 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実について

2022年度 第9回 教務部会議 議事録

日 時：2022年12月7日（水） 16:00～18:45

場 所：大会議室

出席者：芝田、中西、勝本、森岡、岡井、金谷、大道、榎本、小滝

欠席者：宮下

書記：小滝

議案

- 1) 短期大学設置基準改正への対応に伴う学則、規程改正について
- 2) 2023年度シラバスについて
- 3) 2022年度 FD 実践報告書の様式について
- 4) 第2回 FD 研修会（12/19）について
- 5) 今後のセシリアの使用について
- 6) 各種変更届出について
- 7) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 8) ディプロマサプリメントについて（継続審議）
- 9) DP 達成度調査、学修計画と振り返り、学生生活調査の実施時期について
- 10) 後期授業評価の実施期間について
- 11) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 12) 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実について

2022年度 第10回 教務部会議 議事録

日 時：2023年1月11日（水） 16:00～18:30

場 所：大会議室

出席者：芝田、勝本、森岡、岡井、小滝、大道、金谷、榎本、宮下

欠席者：中西

書 記：宮下

議案

- 1) 前回からの確認事項
- 2) 2023 年度シラバスについて（継続審議）
- 3) オンライン対応授業科目の選定について（継続審議）
- 4) 2022 年度 FD 実践報告書の作成スケジュールについて
- 5) ディプロマサプリメントについて（継続審議）
- 6) 配慮を要する欠席の取り扱いについて
- 7) 補習授業の在り方について（継続審議）
- 8) 後期期末試験時間割について
- 9) 2023 年度時間割作成について
- 10) 子育て支援員研修指定申請について

2022 年度 第 11 回 教務部会議 議事録

日 時:2023 年 2 月 8 日(水) 13:30～15:00

場 所:大会議室

出席者: 芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、大道、金谷、榎本

欠席者: 宮下

書 記: 中西

議案

- 1) 全体的な確認事項
- 2) DP 達成度調査、学修計画と振り返り、学生生活調査について
- 3) 2023 年度シラバスについて
- 4) 2023 年度学生生活のてびきについて
- 5) 2023 年度行事計画について
- 6) オンライン授業実施に向けた準備について
- 7) 成績の保護者への通知方法について(継続審議)
- 8) 各種申請・変更届出について
- 9) 2022 年度教務部活動の評価と 2023 年度に向けた課題について

2022 年度 第 12 回 教務部会議 議事録

日 時:2023 年 3 月 8 日(水) 15:30～18:30

場 所:大会議室

出席者: 芝田、中西、勝本、森岡、岡井、小滝、大道、金谷、榎本

欠席者: 宮下

書記: 森岡

議案

- 1) 全体的な確認事項
- 2) 2023 年度シラバスについて
- 3) カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて
- 4) 2 年生オリエンテーションのスケジュールについて

- 5) 新入生オリエンテーションについて
- 6) 新入生・新任教職員が A ポータル及び Google Classroom を利用するために必要な準備について
- 7) メディア授業実施に向けた準備について
- 8) 学生生活調査を踏まえた 2022 年度教務部活動の評価と 2023 年度に向けた課題について

改善目標の達成状況と評価（前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画達成状況を含めて記載）

【教務部改善目標の達成状況】

[改善目標] 教養改革の具体化

[達成状況] 学科横断的なりべラルアーツ教育の充実を目標に、カリキュラムの検討を行った。教務部会議において、4 領域「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」「地域を支える力」からなる新たな共通共用科目群の教育課程を起案し、教授会、運営会議の審議を経て、承認された。

[改善目標] 多様なメディアを利用した授業の充実

[達成状況] 多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる科目の選定を行った。また、「メディア授業実施のガイドライン」及び「メディア授業受講のためのガイドライン」を整備し、2023 年度生活文化専攻新入生を対象に、事前の登録により、自宅からの双方向型オンライン学習が可能となるメディア授業を実施する。

[改善目標] 基礎学力が不足する学生を対象とした教育を組織的に行う体制の整備

[達成状況] 基礎学力が不足する学生への支援を組織的に行う体制について、各学科・専攻より意見を聴取し、教務部会議内で検討を行った。結果、組織的に対応するのは困難とし、従来通り、各教員による個別対応により、学生支援を行うとした。

[改善目標] 長期履修制度の検討

[達成状況] 長期履修制度導入への課題について、教務部内での検討を行ったが、結論を得ず、次年度への継続課題となった。

[改善目標] 感染症と共にある学修支援の向上

[達成状況] 新型コロナウイルス感染症に罹患あるいは罹患した恐れのある学生への対応について、「配慮を要する欠席の取り扱いについて（内規）」の改正を中心に検討を行った。結果、2023 年度より、この規程に基づく欠席への配慮のうち、補充授業の実施を 1 科目につき年 1 回限りとし、ワクチン摂取による体調不良は対象外とするなど、脱コロナを見据えた規程改正および対応方針の改正を起案し、教授会・運営会議での審議を経て、承認された。

[改善目標] 『Google Classroom』と『学生ポータル』による教学支援の充実
 [達成状況] 昨年度に引き続き、『Google Classroom』は教務委員の教員によるクラスへの情報発信と、学生からの個別相談への対応に活用し、『学生ポータル』は、学修成果可視化システム『Assessor』と合わせ、教務委員の事務職員による情報発信と各種調査の実施、学生の学修成果獲得状況の把握に活用するなど、教学支援を行う体制を整えることができた。

[改善目標] 学修成果の可視化と教学情報の提供
 [達成状況] 学生の学修成果の獲得状況を査定するため、各種アンケート調査（授業評価、学生生活調査、DP 達成度調査、科目到達目標達成度調査、学修計画と振り返り、卒業生調査（2019 年度卒業生））を実施した。また、その結果を教学 IR 報告書として作成し、教学情報の提供に努めた。

[改善目標] 社会人学生を対象とした教育・学修支援の充実
 [達成状況] 社会人学生に対して聞き取り調査を行い、社会人学生のニーズ把握を行った。その結果、社会人学生が同じ社会人の学生との情報交換の場を求めていることがわかった。次年度も引き続き、社会人学生への支援策を検討することとなった。

[改善目標] 履修証明プログラムの検討
 [達成状況] 来年度より開講する共通教養科目「子育て・子育て支援論」を軸に、「子育て支援員研修」の開講を検討し、「子育て支援員研修規程」を起案した。この規程は運営会議での審議を経て承認されるとともに、和歌山県に指定申請の手続きを行った。来年度より、子育て支援員基本研修及び専門研修（地域子育て支援コース）として開講する。この研修では、社会人を科目等履修生制度で受け入れ受講可能にしている。

SD・FD：学内オンラインシステムの有効活用

[改善目標] 学生ポータルの活用方法に関する研修と情報提供

FD のテーマ： 授業改善に生かす学生ポータルの活用法

[達成状況] 2 回の FD 研修会と、1 回の授業の相互参観を行い、学生ポータルの活用方法に関する研修と情報提供を行った。各研修会の概要は以下の通りである。

○ 第 1 回 FD・SD 合同研修会

日時：8 月 29 日（月） 16：00～17：30

場所：1309 多目的コンピュータ室

テーマ『授業改善に生かす学生ポータルの活用法』

講師：株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所 桑木 康宏 氏

研修の目的：① 導入したシステムで何をできるかを知る

② 蓄積したデータを利用してアセスメントワークショップに

取り組んでみる

出席： 教員 25 名 事務職員 10 名

欠席： 教員 2 名

○ 第 2 回 F D 研修会

日時： 2022 年 12 月 19 日（月） 17:00～18:30

場所：1309 多目的コンピュータ室

研修の到達目標：A-ポータルの授業分析・授業評価結果分析の機能を活用し、授業改善に生かすことができる。

参加者 教員 24 名 事務職員 1 名

欠席者 教員 3 名

[改善目標] 教学情報の公開（継続）

[達成状況] 事務部入試・広報係と連携し、「学校教育法施行規則第 172 条の 2 の規程」及び「私立学校法第 63 条の 2 の規定」に基づき、情報公開する内容の整理・見直しを行った。その結果を基に、各部署から公開する情報を集約し、本学ウェブサイト「情報公開」にて学内外に公開した。

【2021 年度自己点検・評価の課題と改善目標の達成状況】

基準 I -B 教育の効果

- 育成を目指す学修成果が、今の地域・社会のニーズに合致しているのか、エビデンスに基づく検証が必要である。来年度は、行政や教育委員会からの意見聴取、高校教育現場や地元産業界を対象としたニーズ調査を実施し、点検を行う。さらには、生活文化学科及び保育科の教育課程の見直しを行う予定である。

[達成状況]

生活文化学科が 2024 年度にコース制に移行するのを見据え、生活文化学科の教務委員を中心に、新コースのカリキュラムについて見直しを行った。また、保育科では、免許法改正時の再課程認定留意事項対応のため、2023 年度より教科に関する科目を領域の専門的事項に関する科目に変更するのに合わせ、幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程の見直しを行った。保育科教務委員を中心に学則改正案を起案し、運営会議での審議を経て承認された。

- 地域・社会のニーズを把握し、本学の 3 方針の妥当性について、再度点検する必要がある。今年度実施した卒業生アンケート調査、就職先アンケート調査の結果及び今後行うニーズ調査の結果を踏まえ、3 方針の見直しを行う。

[達成状況]

2021 年度に実施した卒業生アンケート調査、就職先アンケート調査及び今年度キャリアセンターが行った企業のニーズ調査の結果を踏まえつつ、文部科学省のガイドラインに基づく本学の 3 方針の見直しを行った。教務部内で、新たな教育課程編

成・実施の方針及び入学生受け入れの方針を起案し、教授会・運営会議での審議を経て承認された。

- 教育課程編成・実施の方針において、文部科学省のガイドラインが示す、教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方等が示されていない。2022年度中の改訂を目指す。

[達成状況]

文部科学省のガイドラインに基づき、本学の教育課程編成・実施の方針の抜本的な見直しを行った。教務部会議において、「Ⅰ教育課程編成の方針」「Ⅱ教育課程実施の方針」「Ⅲ学修成果の評価」の3部から成る新たな方針案を起案し、教授会・運営会議における審議を経て、承認される。

- 入学者受け入れの方針において、卒業認定・学位授与の方針との対応関係が不明瞭になっている。2022年度中の改訂を目指す。

[達成状況]

文部科学省のガイドラインに基づき、本学の入学者受け入れの方針と、本学の卒業認定・学位授与の方針及び学力の3要素「主体性・多様性・協同性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」との対応関係を精査した。その結果、教務会議において「Ⅰ教育目的」「Ⅱ求める学生像」「Ⅲ入学者選抜の基本方針」の3部から成る新たな方針を起案し、教授会・運営会議での審議を経て承認される。

基準Ⅱ-A 教育課程

- 本学の3方針、各学科・専攻の教育課程が育成を目指す学修成果が、現代社会や地域のニーズに合致しているのかを検証し、改善に取り組んでいく必要がある。今年度実施した卒業成調査、就職先アンケート調査の結果及び今後行うニーズ調査の結果を踏まえ、3方針の見直しを行うと共に、基礎教養科目群及び学科・専攻の専門教育科目群が目指す学修成果と教育課程について抜本的な見直しを図る。

[達成状況]

教務部を中心に、文部科学省「「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン」(中央教育審議会 平成28年3月31日)及び、2021年度に実施した卒業成調査及び就職先アンケート調査の結果、並びに今後行った企業のニーズ調査の結果を踏まえた3方針の見直しを行い、学科・専攻会議、教授会、運営会議での組織的審議を経て、教育課程編成・実施の方針及び入学者受け入れの方針の全面改定を行った。

- 今年度は、講義・演習科目の一部に試験による評価を行っていない科目も見られた。来年度は講義・演習科目は例外なく期末試験を行うように、「シラバス作成

のためのガイドライン」を通じて全教員に通知し、徹底を図る。

[達成状況]

教務部が中心となり、課題の改善に取り組んだ。まず、講義・演習科目の全てにおいて、定期試験による成績評価を求め、実行した。一方、改正された短期大学設置基準が施行されたことに対応し、学則第13条の規程を、「単位修得の認定は、試験によるもののほか、本学が認める適切な方法により学修の成果を評価して行う」として改定した。さらに、「シラバス作成のためのガイドライン」の一部を改定し、教職員に周知することで、次年度の授業計画に反映させている。

- 測定した学修成果を学内で共有し、教育改善につなげる仕組みが全学的なものになっていない。また、学外への公表方法も組織的に共有化されていない。今後は、全体会議等を通じて内部質保証の方針、アセスメントポリシーへの学内理解を深めるとともに、「教学 IR 報告書」を通じて学修成果の獲得状況を教職員が共有し、その結果を公表することで教育改善につなげる仕組みを構築する。

[達成状況]

4月1日の全体会議において、本学の「内部質保証の方針」「アセスメント・ポリシー」を全教職員に配布した。また、機関レベル・教育課程レベル・教職員レベルにおける本学の内部質保証の在り方を、「和歌山信愛女子短期大学内部質保証のためのPDCA サイクル」として視覚化し、全教職員に配布した。さらに、「授業評価」「学生生活調査」「卒業生調査」の集計結果を速報として教職員に配信するとともに、「DP 達成度調査」「科目到達目標達成度調査」「学修計画と振り返り」の結果など、学生の学修成果の獲得状況を示す各種指標と合わせて「教学 IR 報告書」としてまとめ、分析と共に報告して、教職員間の共有化を図った。

基準Ⅱ-B 学生支援

- 学習成果可視化システム Assessmentor を通じて学生個々の学習成果の獲得状況を把握できるようになったが、担任等が把握した結果を学内で共有できていない。教務部を中心に、Assessmentor を通じて、課題のある学生をいち早く見だし、その情報を学科・専攻内で共有する手順を明確にし、学内共有を図る。

[達成状況]

「Assessmentor」を通じて得られた情報を「教学 IR 報告書」を通じて教職員間の共有化を図る流れは確立できたが、個々の学生の情報を共有化するまでには至っていない。次年度の課題として、学生ポータルにある学生サポートメモの機能を周知し、全教職員が気になる学生についての情報をいち早く把握し、対応にあたる仕組みの構築を図る。

- Google Classroom、学生ポータル、サイボウズ、学内無線 LAN 環境と教育や学務に ICT を活用できる環境が整ったが、学生・教職員がまだ、その環境を十分に活用できていないのが現状である。学生ポータルの使用方法の見直しを行い利用に

ついて再検討すると共に、ICT の活用法に関する情報を積極的に教職員に提供し、活用技術及び学生への指導力向上を図る。

[達成状況]

「授業改善に生かす学生ポータル活用法」をテーマに、2回のFD研修会を行った。研修を通じて、「授業評価の分析機能」「授業分析」「マップ分析」により、学生ポータル及び「Assessmentor」を通じて得られた情報を授業改善に活かす方法について、教職員の理解と技能向上に努めた。

- 非常勤教員との専任教員が意見を交換する機会が少ない。FD研修会への非常勤教員の参加を積極的に促し、意見交換の場を設ける。

[達成状況]

FD研修会には非常勤教員の参加は任意としたが、参加した非常勤教員はいなかった。次年度も引き続き課題とし、非常勤職員のFDについて検討する。

- 学生の基礎学力向上のため、これまで以上に少人数制の指導について力を入れる。

[達成状況]

教務部としては、学科・専攻毎に行っている少人数制の指導について、時間割の調整や使用教室の配置などを通じて支援を行ってきた。

- 基礎学力が不足する学生への補習授業の実施は、教科担当者の裁量にゆだねている。今後は、教務部や学科・専攻会議を通じて、組織的に補習を計画する仕組みを検討する。

[達成状況]

基礎学力が不足する学生への支援を組織的に行う体制について、各学科・専攻の教員より意見を徴収しつつ、教務部会議内で検討を行った。結果、組織的に対応するのは困難とし、従来通り、各教員による個別対応により、学生支援を行うとした。

- 社会人入学生特有の課題に対応できていない。社会人学生のニーズを把握し、学生支援につなげる仕組みの構築が不可欠である。

[達成状況]

社会人学生に対して聞き取り調査を行い、社会人学生のニーズ把握を行った。その結果、社会人学生が同じ社会人の学生との情報交換の場を求めていることがわかった。次年度も引き続き、社会人学生への支援策を検討することとなった。

基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

- Google Classroom、学生ポータル、サイボウズ、学内無線LAN環境と教育や学務にICTを活用できる環境が整ったが、学生・教職員がまだ、その環境を活用仕切れていないのが現状である。ICTの活用に関する情報を積極的に教職員に提供

し、活用技術に加えて学生への指導力向上を図る。

〔達成状況〕

「授業改善に生かす学生ポータル の活用法」をテーマに、2 回の FD 研修会を行った。研修を通じて、「授業評価の分析機能」「授業分析」「マップ分析」により、学生ポータル及び「Assessor」を通じて得られた情報を授業改善に活かす方法について、教職員の理解と技能向上に努めた。

【評価】

今年度の目標および、昨年度判明した課題の改善計画については概ね達成したと考える。しかし、学生ポータル の情報を学生支援につなげる仕組みの構築や非常勤教員の FD 参加、社会人学生への支援、長期履修生制度など、解消されていない課題も残されている。これらの課題は、次年度も引き続き教務部内で審議し、対応について検討していきたい。

来年度の改善計画（下記評価基準に基づく、各部署の課題とその改善計画を記載）

基準Ⅰ-C 内部質保証の課題と改善計画

- IR 機能の強化が課題であり、新たに設けた IR 室の役割を明確化すると共に、配置した専任教員の定期的な研修機会を確保する。
- GPA に基づく、教育の質を保証する仕組みの構築が課題となっており、GPA の具体的な数字を、進級判定又は進級判定の基準として設け、当該判定を行う制度の構築及び、学外実習参加資格の基準とするなど、授業科目履修者に求められる成績水準の設定を検討する。

基準Ⅱ-A 教育課程の課題と改善計画

- 地域のニーズに応じた専門教育の充実が課題となっており、生活文化学科の 2024 年度コース化を見据え、新コースのカリキュラム最終検討、学則改正、教育課程編成・実施の方針の改定、カリキュラムマップの改定、人員配置計画の立案を行う。また、保育科では、高校生のニーズを把握し、学科内に新たな進路を指せる新コースの設置を視野に検討を開始する。
- 2023 年度より開設する共通教養科目群のカリキュラムと目指す学修成果について、学生及び教職員の理解向上と、教養教育の効果を測定し、判定する仕組みの構築が課題となっている。共通教養科目の学修成果を査定し、地域に貢献できる能力を持った人材として認定する副専攻プログラムの構築を目指す。
- 情報処理演習を全学必修化した が、さらなる情報教育の高度化が課題となっている。情報モラルに関する教育や、課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）、情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）、情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）を含む科目として、「基礎演習」の必修化を視野に、数理・データサイエンス・AI に関する授業科目の高度化を図

る。

- 学生の学修の幅を広げる教育課程の工夫が課題となっており、新設する 2024 年度開設予定の生活文化学科の新コースにおいて、食物栄養コースからビジネス実践コースへのコース変更を弾力化する仕組みを検討する。
- オープンな教育リソースの活用が課題となっており、オンラインで提供した公開講座をベースに、講義の教材等としての利用又は自主学习ツールとしての活用が期待できる教育リソースの提供を検討する。
- 学生生活調査の結果より、生活文化専攻において、インターンシップ科目や学外実習科目の充実が課題となっている。長期インターンシップ（2 週間以上のインターンシップ）の導入を視野に、内容の充実方法を検討する。
- 学生生活調査の結果より、食物栄養専攻において、実践に役立つ授業の充実が課題となっている。専門科目間のつながりを明確化し、実践に役立つものとする。
- 学生生活調査の結果より、保育科では、選択科目の充実が課題となっている。2023 年度入学生より、専門の選択科目が増加するが、時間割における配置の工夫など、学生が履修しやすい環境を整備する。
- 2022 年度は、学生生活調査や学生代表との面談を通じて学生の意見聴取に努めたが、本学の教学運営に学生の参画を恒常的に促す仕組みの構築が課題となっている。総務委員と教職員代表者による定例会議を設置・開催を目指すと共に、2 年生や社会人による TA 又は SA 制度導入を検討する。
- 開講科目の大多数が、アクティブラーニングを取り入れた授業を実施しているが、シラバスにおいて、一部実施していないとする科目がある。学生の主体的学習を促すため、シラバス作成のためのガイドラインを改定し、原則として全ての科目でアクティブラーニングを取り入れた授業を行うよう、非常勤を含む全教員に求める。

基準Ⅱ-B 学生支援の課題と改善計画

- 学生生活調査の回答率低下が課題となっている。教務ガイダンスにおける入力指導を徹底し、全学科・専攻で 90%以上の回答率を目指す。
- 新型コロナウイルス感染症が 2 類から 5 類に移行することを見据え、脱コロナ後の授業展開が課題になっている。授業中の換気や教室入退室時のアルコール消毒など、引き続き感染症対策を心掛けると共に、学内でのマスク着用は学生の判断に任せることを教職員に周知・徹底する。グループワークにおいても、喚起や大声で話すのを控えるなどで対応し、マスク着用は不要であることを、教職員に周知する。一方で、不安を感じる学生に寄り添う支援の充実を図る。
- 学生の多様な学びを可能にする仕組みの構築が課題となっている。長期履修制度の導入検討や、社会人学生への支援充実、メディア授業の着実な運用を通じて学生の多様な学びを支援する。
- 入試選抜における多面的・総合的な評価と、入学後の多様な学生の能力を伸長する取組との連携が課題となっている。基礎演習や外国語科目等において、ライセ

ンス利用入学者の能力を伸長する取組等、評価結果と連携できる授業内容について検討する。

- 学修歴の携帯性・利便性の向上や大学事務の効率化が課題となっている。卒業証明書・修了証明書・成績証明書等のデジタル化について検討する。
- 『Google Classroom』と『学生ポータル』による教学支援の充実が課題となっている。学生ポータルの学生サポートメモを活用し、学生支援につなげる仕組みの構築を図る。

基準Ⅲ-A 人的資源の課題と改善計画

- 非常勤教員の FD が課題となっている。非常勤教員への聞き取り調査を実施し、学内の F D 活動に参画できる仕組みを検討する。
- 個々の教員の取り組みを全学的な FD につなげる仕組みの構築が課題になっている。毎年、全専任教員に提出を求めている FD 実践報告書をベースに、教員が自分の授業や指導の業績を記録するティーチング・ポートフォリオの導入を検討する。

基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の課題と改善計画

- 教室へのプロジェクター配備や無線 LAN、Google Classroom の導入など、ハード面、ソフト面での環境は充実してきたが、ICT を活用した教育の組織的推進が課題となっている。I C T を利活用した質の高い教育を実現するための全学的な計画を策定し、技術支援・教育支援を行う体制を整備する(担当部署を明確にする)。さらに、学生へのタブレット配布(または購入)を検討し、I C T を活用した双方向型授業の実施とシラバスへの明記を促すと共に、自主学习支援ツール(学生のアクセス状況が把握できる e-ラーニング)の仕組みを検討する。

2023 年 3 月 31 日

責任者職位・氏名

教務部長 芝田 史仁

7) 入試部（入試委員会）

学科・専攻・部・委員会・センター等

入試部（入試委員会）

今年度の改善目標

- ・ 定員割れ状況を脱する、あるいは充足率を改善するために、近年出願の減っている選抜制度の改革・置き換えを検討する。
 - ・ 社会人向けの制度をどのように広報すればターゲットに届くのか、他校への情報収集を含めて方策を検討する。同時に、大人（保護者・社会人・高校教員）向けのイベントを企画し、様々な志願者（ステークホルダー）に対応する。
 - ・ 動画コンテンツの充実に加え、学生をどのように動画において登場させるのかを模索する。
 - ・ 有田市に新設計画のある専門学校の設置法人への接触を引き続き試み、既存の県内校とも連携した対応、あるいは協力体制の構築を加速する。
 - ・ 好評の各種講座を継続・ブラッシュアップすると共に、高校内で行われる保護者向け講演会などの受注獲得を目指す。
- 県南部や大阪南部など、現在進学者が少ないながらもターゲットとしているエリアへの広報・浸透を強化する。

実施内容

以下の内容を入試部で審議し、実施した。

○奨学金制度の新設・運用

沖縄県および九州島嶼部からの受験生獲得のため、「沖縄・九州地方特別奨学生制度」を新設した。また、優秀な学生の獲得、遠隔地および本学卒業生の女孫息女姉妹からの出願を目的に昨年度から設けている3種の奨学金制度を今年度も積極的に活用し、各高等学校における学力上位層の志願者を獲得できた。下記にその人数を示す。

- ・ 地域人材育成特別奨学生 15名
- ・ 遠隔地奨学生制度 1名
- ・ ファミリーシップ選抜 12名

初年度の各20人、15人、6人からいずれも減少したが、従来から他学科専攻に比べてより広域かつ、多彩な高等学校から志願者を集めていた保育科の不振が影響していると考えられる。

○オープンキャンパスの実施

今年度のオープンキャンパスは台風の影響やコロナウイルス対応など、大きな障害は無く4月から9月まで滞りなく開催された。

- ・ 2022年4月16日（土）
対面実施（来場27組）
- ・ 2022年5月14日（土）
対面実施（来場33組）
- ・ 2022年6月4日（土）

対面実施（来場 52 組）

- ・ 2022 年 7 月 9 日（土）

対面実施（来場 60 組）

- ・ 2021 年 8 月 20 日（土）

対面実施（来場 55 組）

- ・ 2021 年 9 月 10 日（土）

対面実施（来場 35 組）

特筆すべき取り組みとして、7 月 22 日（金）19：30～21：00（個別相談希望への対応のために 17：30 より会場）に保護者および社会人志願者を対象としたナイトオープンキャンパスを開催した。これは、通常よりも短期大学のアカデミックな部分や、夜間ならではの光の装飾や、簡易プロジェクションマッピングを用いた非日常感を演出した。その結果、通常のオープンキャンパスには仕事の都合上参加できなかった保護者や、高校生に気兼ねしていた社会人の来場があり、8 組 15 人程度の来場ながら全体の満足感や手応えは大きく、ブルーオーシャンとなる可能性を得ることができた。

○学外ガイダンス等への参加

高等学校内外の 174 ガイダンスに申し込みを行い、167 件参画した（コロナウイルス蔓延の影響による中止 3 件、希望者なし等によるキャンセル 4 件）

また、ガイダンス業者を通さない各種（受験対策・専門）講座は 2022 年度も好評であり、前年度実施の 4 高等学校（和歌山北高校西校舎、和山工業高校、市立和歌山高校、有田中央高校）は原則継続受注ができています。また、年度内に複数校に案内を行った結果、次年度 3 校程度は出前講座を追加受注する見込みである。既に決定したものとしては、担当する教員の授業組み立てまで参画する予定である。

○高校訪問の実施

2022 年度の高校訪問は指定校推薦の依頼、オープンキャンパスを含む各種のイベント告知など、和歌山県・大阪府南部・奈良県および三重県の和歌山県との県境エリア高等学校合計 76 校（定時・通信課程を含む）への訪問を実施した。

○入学者選抜の実施

募集要項の計画に沿って実施したが、志願者が無く実施されなかった選抜があった。その内訳は下記の通りである。

- ・ 総合型選抜（A0）Ⅴ期
- ・ 一般選抜Ⅱ期・Ⅲ期
- ・ 学校推薦型選抜（書類型）Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期
- ・ 大学入学共通テスト利用選抜Ⅲ期・Ⅳ期

これらの入学者選抜実施により、保育科（60 名出願／59 名受験／58 名合格／57 名入学／前年度 72 名入学）、生活文化学科食物栄養専攻（54 名出願／50 名受験／50 名合格／49 名入学／前年度 40 名入学）、生活文化学科生活文化専攻（38 名出願／

37名受験／37名合格／34名入学／前年度33名入学)、計140名(前年度145名)が入学した。

評価

- ・ 受験生が高校1・2年生であった頃の接触状況および反応により、2023年度当初の見込みは(生活文化専攻【微増】33～38人、食物栄養専攻【微減～現状維持】33～38人、保育科【減】63～68人、計129～144人)との予測行っていた。しかし、夏休み時期までの保育系志願者の反応の鈍さ、生活文化専攻を志願した生徒が食物栄養専攻へと転向するケースが複数あり、予測とは違う結果(生活文化専攻【現状維持】、食物栄養専攻【増】、保育科【激減】、入学総数は予測上限寄りの結果)となった。この結果については、保育系への世間的なイメージの悪化を含めた減少トレンドを甘く見積もり過ぎたこと、景気の先行き不安による資格系への回帰マインドが、生活文化専攻の増加予測を食物栄養専攻へ向けさせたものと考えられる。
- ・ 2022年3月22日に一部生放送で配信した第2回オンラインオープンキャンパスは約1年間で視聴回数1875回、動画分析による視聴者層は明確に18～24歳の女性であることが判明しており、期待した通り年間を通じて広報効果を発揮したと考えている。なお、第1回オンラインオープンキャンパスは約2年間の視聴回数が1386回、13～17歳の女性が視聴者との分析が出ており、今後のオンラインオープンキャンパス、あるいは動画広報におけるコンテンツ作りにはこの差異を分析し、活用していくこととする。
- ・ 短大の公式YouTubeチャンネルにおいて「ちょこっと動画ブログ」を精力的にアップすることにより動画コンテンツの充実を図った。その中で、学生を積極的に登場させることを試みた。
- ・ 好評の各種講座の継続・ブラッシュアップに取り組んだ。高校内で行われる保護者向け講演会などを積極的に受注、獲得した。
- ・ 県外の志願者獲得に向けて、沖縄県のガイダンスに参加するとともに、同県内の高校を訪問しニーズや可能性についてリサーチを行った。

来年度の改善計画

2023年度改善計画は以下の通りである。

- ・ 新たな志願者獲得を目指すため、沖縄県および九州島嶼部へのアプローチを強化する。併せて、沖縄県内の四年制大学への編入枠の獲得を目指す。
- ・ 社会人向けの制度をターゲットに有効に届けるための具体的な方策を検討し実施していく。社会人募集の活性化、特にハローワーク関連の制度を積極的に広報すると同時に、大人(保護者・社会人・高校教員)向けのイベントを積極的に試みる。
- ・ 動画コンテンツの一層の充実を図ることに加え、SNSをフル活用して高校生や保護者、高校教員等に本学の教員や学生、キャンパスの魅力を発信していく。
- ・ かねてより検討してきた県内の専門学校との連携強化に向けて、具体的な協定締結作業に入り、協力体制の構築を進める。

- ・ 小中学生へのアプローチを積極的に試みる。夏休みの講座開講や、自由研究のネタ提供など、若年層から分野志願者を育成していくことを考える。
- ・ 県南部や大阪南部など、現在進学者が少ないながらもターゲットとしているエリアへの広報・浸透を強化する。

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

入試部長 伊藤 宏

8) 学生部（学生委員会）

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

学生部

今年度の改善目標

- ・ 学内での文具等の販売
- ・ アメニティの充実（継続目標）
- ・ パウダールームの設置
- ・ 手ごろな価格のランチメニューの追加と内容の充実
- ・ アイスの自動販売
- ・ ICTの更なる活用（各HRでの同時授業など）
- ・ プロジェクターの多重放映による学生への配慮
- ・ 学生証のICT化
- ・ 女子短期大学らしい環境づくり（フラワーガーデンの増設など）
- ・ 学食のカフェ化

実施内容

以下の内容を生活文化学科で審議し、実施した。

学生部会議議事録より

2022年度 第1回 学生部会議議事録

日時：2022年 4月 6日（水）17：10～19：00

場所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 2022年度 学生部 今年度の目標
2. 学生委員の選出について
3. 健康診断実施計画について
4. 昼食時の放送と食堂見回りについて
5. その他

【報告】

1. 自動車通学申請に関して
2. 掃除器具の配置と購入について
3. その他

2022年度 第2回 学生部会議議事録

日時：2022年 5月 11日（水）17：10～19：30

場所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 健康診断役割分担について
2. 阪和地区月曜懇談会について

3. 自己点検評価資料の資料作成について

4. その他

学生の健康診断証書について

【報告】

1. 掃除用具の数量と配置について

2. その他

2022年度 第3回 学生部会議議事録

日時：2022年6月15日（水）16：30～18：50

場所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 学園祭・体育祭について

2. 自動車通学スケジュール2022年度後期用について（五十嵐先生）

3. 和歌山労働局による学生アルバイト（ブラックバイト）実地調査について（真砂）

4. 掃除道具について（渡辺）

【報告】

- ・ 進入口カーブのところに、カーブミラーを追加で設置し、これまでのミラーもサイズを大きくした。
- ・ 5月25日、学友会監査の為、決算書の承認を各クラスの総務委員に、予算書の承認を西出先生からもらい提出された。
- ・ クラブ（サークル）を再開する方向となった。Photoサークルが活動しているが、その他に活動出来るものはないか検討された。
- ・ お昼の黙食は守れているか、放送は行われているか確認がなされた。
- ・ イノシシに注意する。
- ・ 中庭のベンチのペンキ剥がれを学務員に清掃してもらい再設置している。

2022年度 第4回 学生部会議議事録

日時：2022年7月13日（水）17：10～18：30

場所：1307(視聴覚)教室

【議題】

1. 学園祭・体育祭の進行状況について

2. 自動車通学の安全に関して

【報告】

1. 後期の自動車通学の申し込み

2022年度 第5回 学生部会議議事録

日時：2022年8月10日（水）15：00～16：00

場所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 自動車通学学生駐車場の設営について
2. 新型コロナウイルス抗原キットの準備について
3. その他

【報告】

1. 学園祭・体育祭の進行状況
2. その他
「学生カーシェアの実証実験についての協力」
「新型コロナウイルスについて」

2022年度 第6回 学生部委員会議事録

日時：2022年9月14日（水）9：40～11：15

場所：1307(視聴覚)教室

【議題】

1. 学園祭・体育祭について
2. 学園祭・体育祭に関しての学生提案内容の検討
3. 学生のマナー向上について

【報告】

1. 自動車教習に関して

2022年度 第7回 学生部会議議事録

日時：2022年10月12日（水）17：30～19：30

場所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 学園祭についての進捗状況と問題とその対応
2. 体育祭についての進捗状況と問題とその対応
3. 学生のマナー向上の進捗状況と問題点
4. その他

【報告】

1. 自動車通学の送迎について
2. クラス委員について
3. トイレのマナーについて
4. 田伏先生より、「令和4年度私立短期大学学生指導担当者研修会」の資料について報告がなされた。

2022年度 第8回 学生部会議議事録

日時：2022年11月9日（水）17：30～19：30

場所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 学園祭・体育祭の課題について

2. バイク通学について

3. その他

【報告】

1. その他

2022 年度 第 9 回 学生部会議議事録

日 時：2022 年 12 月 7 日（水）17：00～18：30

場 所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 文部科学省調査「学生生活実態調査」について
2. きょう育の和センター主催の自動車シェアに関わる学生部について
3. 教育の清掃、及び貴重品の自己管理について
4. 入学前ガイダンス実施に伴う、自動車通学の配布資料について

【報告】

- ・ 学園祭で申し出のあった募金は、クリスマス献金と一緒にカリタスジャパンに送る。
- ・ 保育 2A の学生で事故によるけがでエレベーター使用の依頼があった際には掲示で知らせる。
- ・ 来年度（2023 年度）の健康診断の日程が決定。
- ・ 来年度の学生健康診断内容として、視力と聴力検査を実施。聴力検査は学生委員会の教員に担当を依頼したい。
- ・ 体育祭と学園祭の DVD を図書館に置き、図書館内でのみ鑑賞可能とする。
- ・ ミューズの液体ハンドソープを購入。固形石鹸がなくなった所から交換していく。
- ・ アートスペースにてクリスマスイルミネーションを設置。昼の 1 時間のみ点灯。
- ・ 食堂のサントリー自販機が年明けに撤退する。

2022 年度 第 10 回 学生部会議議事録

日 時：2023 年 1 月 11 日（水）17：10～18：40

場 所：1307(視聴覚)教室

【議案】

1. 自動車通学の講習会日程について
2. 延長届について
3. その他

【報告】

1. その他

期末試験時の盗難防止のため、試験時には学生各自の荷物はロッカーまたは教室の後方に置くこととした。保育科については、教務部と協議の上、実施する。

2022 年度 第 11 回 学生部会議議事録

日 時：2022 年 2 月 10 日（水）13：30～16：00

場 所：1307(視聴覚)教室

1. 2023 年度健康診断（レントゲン・眼科・内科）について（田伏）
2. 学生駐車場の設営について
3. その他
 - ・ 体育祭と学園祭の日程について
 - ・ 学生の手引きについて

【報告】

1. 自動車通学の申請について
2. 掃除分担表について

2022 年度 第 12 回 学生部会議議事録

日 時：2023 年 3 月 8 日（水）13：25～16：30

場 所：1307(視聴覚)教室

【議 案】

1. 自己点検・評価委員会に活動評価報告書について
2. 自動車通学について
3. 新入生オリエンテーション
4. 健康診断：眼科検診について（田伏）
5. 新型コロナウイルスの対応
6. その他
 - ・ 掃除分担表
 - ・ 学友会予算の本年度決算書案および来年度予算書案（五十嵐）
 - ・ 掃除用具確認

【報 告】

1. その他

改善目標の達成状況と評価

- ・ 「学内での文具等の販売」の目標については、少量ではあるものの学内で販売が行われていることが学生達に周知されていないことや販売品の数が十分でないことが指摘された。
- ・ 「アメニティの充実（継続目標）」の目標については、現在取組が進んでおり今年度の取組目標としては、一部達成できた。
- ・ 「パウダールームの設置」の目標については、学校側に提案を行っているが予算などの問題もあるため達成できていない。
- ・ 「手ごろな価格のランチメニューの追加と内容の充実」の目標については、具体的な提案を食道側に実施を行い、学食メニューの充実化を目標とする。
- ・ 「アイスの自動販売」の目標については、取り組んだが、電気代等の観点から、現段階では達成不可能であることがわかった。
- ・ 「ICT の更なる活用（各 HR での同時授業など）」の目標については、実施できていない。

- ・「プロジェクターの多重放映による学生への配慮」の目標については、達成が出来た。
- ・「学生証の ICT 化」の目標については、実施できていない。本学の IT 化の現状から考えて難しい。
- ・「女子短期大学らしい環境づくり（フラワーガーデンの増設など）」の目標については、達成できている。階段付近などに装飾品が飾られ、花壇なども少しずつではあるが整備された。また、クリスマスシーズンなどにはイルミネーションなども準備され、目標は達成された。
- ・「学食のカフェ化」の目標については、食堂の床について内装工事が行われ、カフェのイメージ雰囲気が作られ、目標は達成した。

来年度の改善計画

- ・「学内での文具等の販売」今年度取組に対する来期での改善としては、学生用品の拡充、学生用品が販売されていることについての案内を目標とした。
- ・「アメニティの充実（継続目標）」今年度取組に対する来期での改善としては、今年度の取組目標としては、一部達成できているが、さらに充実出来るように取組むことを目標とした。
- ・「パウダールームの設置」今年度取組に対する来期での改善としては、学校側と交渉を引続き行うことを目標とする。
- ・「手ごろな価格のランチメニューの追加と内容の充実」今年度取組に対する来期での改善としては、具体的な提案を行う事を目標として学食メニューの充実化を目標とした。
- ・「ICT の更なる活用（各 HR での同時授業など）」今年度取組に対する来期での改善としては、今後も教務と相談し、引き続き取り組むことを目標とする。
- ・「学生証の ICT 化」今年度取組に対する来期での改善としては、引続き取組を続けることを目標とする。
- ・「女子短期大学らしい環境づくり（フラワーガーデンの増設など）」今年度取組に対する来期での改善としては、達成はできているがさらに学習しやすい環境となることを目標とする。
- ・「学生トイレの改善（便座、音姫、荷物置場）」について、学生生活の調査などからの学生の最も多い要望に応えるためとして目標とした。
- ・「学生駐車場の改善」について、学生生活調査などの学生からの要望に応えるためとして目標とした。
- ・「学生ホールの充実（寛ぎ空間）」を設けることを目標とした。

2023 年 3 月 31 日

責任者職位・氏名

学生部長 西出充徳

9) 事務部 (SD 委員会)

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

事務部 (SD 委員会)

今年度の改善目標 (前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画を含めて記載)
--

学生への学修支援の継続的持続

大学運営の事務に関する体制の維持

短期大学施設の維持管理

継続的な校内環境の維持管理

継続的な SD 教育の推進

実施内容

【学生への学修支援の継続的維持】

<ul style="list-style-type: none"> ・教務係による授業履修状況の助言「学生ポータル」の活用、離転職者等職業訓練学生への助言

<ul style="list-style-type: none"> ・庶務係による奨学金制度、修学資金貸付、傷害保険等の相談
--

<ul style="list-style-type: none"> ・会計係による高等教育の修学支援新制度等の相談

<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアセンターによる就職相談
--

<ul style="list-style-type: none"> ・保健室による学生健康管理および相談
--

<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書による学習に必要とされる書籍の助言

【大学運営の事務に関する体制の維持】

<ul style="list-style-type: none"> ・事務朝礼（月曜、金曜）及び全体朝礼（水曜）への出席
--

日々の学校行事（事務的な行事も含む）の確認を行い、事務職員間の連絡体制を継続して構築している。

<ul style="list-style-type: none"> ・SD 委員会実施

部会事項等の運営的注意点や報告を事務職員全体で確認している。

SD 委員会議事録

令和 4 年 4 月 19 日、令和 4 年 5 月 17 日、令和 4 年 6 月 21 日

令和 4 年 7 月 20 日、令和 4 年 8 月 19 日、令和 4 年 9 月 15 日

令和 4 年 10 月 27 日、令和 4 年 11 月 24 日、令和 4 年 12 月 15 日
--

令和 5 年 1 月 26 日、令和 5 年 2 月 21 日、令和 5 年 3 月中止
--

【短期大学施設の維持管理】

<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備更新

<ul style="list-style-type: none"> ・通学路カーブミラー増設
--

【継続的な校内環境の維持】

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームファイブリットファン、網戸
--

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染症対策

【継続的な SD 教育の推進】

- ・会議決定事項の周知
- ・文部科学省等からの通知をサイボウズの掲示板にて配信
- ・平成 30 年度より「教務必携」をメール等にて配信

改善目標の達成状況と評価

(前年度自己点検・評価で判明した課題の改善計画達成状況を含めて記載)

- ・事務部の目標は持続管理的要素が多く継続課題となる。
- ・教務係：シラバス管理、時間割編成と掲示、授業スケジュールの管理、休講・補講への対応と学生への周知、ポータルによる学生の出欠管理、補講計画の策定、掲示板やポータル、Google Classroom を通じて休講・補講等、各種授業情報の伝達、履修登録、期末・追・再試験準備と管理、成績登録・通知などの業務を行っている。
- ・庶務係：奨学金や傷害保険事務、各種学生の証明書手続および発行の業務を行っている。
- ・会計係：高等教育の修学支援新制度等の窓口相談、学納金の延納に関する相談業務を行っている。
- ・キャリアセンター：キャリアガイダンスやキャリアコンサルティング、および履歴書作成指導・筆記試験対策指導・面接指導・模擬面接などの指導を行っている。
- 保健室：様々な学習上の悩みを持った学生に対し、担任、学生相談室と連携して学生支援を行っている。
- ・図書館：図書館リクエストアンケート調査やブックハンティング等のイベントを行い学生の利用向上を図り、試験期間や実習に必要なとされる書籍の助言、紹介を行っている。

来年度の改善計画 (下記評価基準に基づく、各部署の課題とその改善計画を記載)

基準Ⅱ-B 学生支援の課題と改善計画

- ・学生への学修支援の継続的持続
- ・タブレットの導入を検討する。

基準Ⅲ-A 人的資源の課題と改善計画

- ・事務職員の仕事の配分を見直し事務補佐委員の勤務条件や配置を検討する。
- ・少人数での事務対応
- ・決裁の電子化

基準Ⅲ-B 物的資源の課題と改善計画

- ・タブレットを用いたオンライン授業を経験している高校生の受入れに対応し、タブレットの導入を今後検討する。

基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の課題と改善計画

- ・Google Classroom、学生ポータル、サイボウズを整備し教職員が活用に関する情報を積極的に教職員に提供し、活用技術に加えて学生への指導向上を図る。

基準Ⅲ-D 財的資源の課題と改善計画 (運営会議・事務部)

- ・経費支出については教職員による会議資料等の電子化を行い、学生に対しての電子化を検討しペーパーレスを図る。また、光熱水費削減、守衛の委託費削減を行うための

土曜日閉門を実施していく。

2023年 3 月 31 日

責任者職位・氏名

事務長 郭 安紀彦

10) 学務委員会

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

学務委員会

今年度の改善目標

- ・工夫しながら（動画配信等）コロナ禍における式典（卒業式・入学式）を進めていく。
- ・式典のスムーズな進行のため、学生部・宗教部・教務部等と連携を図る。
- ・公開講座、コンソーシアム和歌山関係事業はきょう育の和センターと連携をとり実施していく。

実施内容

以下の内容を学務委員会で審議し、実施した。

第1回 学務委員会 議事録

日時：2022年4月6日(水) 15:30～16:25

場所：大会議室

審議事項

○2022年度学務委員会の取り組みについて

- ・今年度の目標

○入学式について

- ・改善点

○公開講座について

○その他

- ・コンソーシアム和歌山について

第2回 学務委員会 議事録

日時：2022年6月1日(水) 16:20～17:50

場所：大会議室

審議事項

○公開講座について

第3回 学務委員会 議事録

日時：2022年7月6日(水) 16:30～17:25

場所：大会議室

審議事項

○公開講座について

第4回 学務委員会 議事録

日時：2022年8月17日(水) 15:00～16:00

場所：大会議室

審議事項

○公開講座について（テーマ再検討）

第5回 学務委員会 議事録

日時：2022年9月21日（水） 11：30～11：50

場所：大会議室

審議事項

○公開講座について

第6回 学務委員会 議事録

日時：2022年11月2日（水）17：00～18：00

場所：大会議室

審議事項

○2022年度卒業式について

○2023年度入学式について

○公開講座について

○その他

・キャップ&ガウンについて

第7回 学務委員会 議事録

日時：2022年12月12日（月） 17：40～18：30

場所：大会議室

審議事項

○今年度の卒業式について

○新年度入学式について

○公開講座について

第8回 学務委員会 議事録

日時：2023年1月10日（火） 17：00～19：00

場所：小会議室

審議事項

○公開講座について

○卒業式について

第9回 学務委員会 議事録

日時：2023年2月1日（水） 9：00～10：20

場所：大会議室

審議事項

- 卒業式について
- 入学式について

第10回 学務委員会 議事録

日時：2023年2月7日（火） 17:00～18:00

場所：大会議室

審議事項

- 卒業式関連について
 - ・キャップ&ガウンの着用について
 - ・表彰等の学生代表者との連絡方法について

第11回 学務委員会 議事録

日時：2023年3月15日（水） 10:00～11:40

場所：大会議室

審議事項

- 卒業式について
 - ・反省点および今後の課題について
- 入学式準備について
- 自己点検について
 - ・今年度の振り返りと課題
 - ・次年度の目標

改善目標の達成状況と評価

- ・「工夫しながら（動画配信等）コロナ禍における式典（卒業式・入学式）を進めていく。」について、キャップ&ガウン、代表者作法のマニュアルを作成し、学生、全教職員と共有した。フォトスポットを作成し、多くの学生が、記念撮影を実施した。設置が1ヶ所のため待ち時間が生じていた。
- ・「式典のスムーズな進行のため、学生部・宗教部・教務部等と連携を図る。」について、体調不良（嘔吐）対応マニュアルが作成されていなかった。保護者のために会場の立て看板があった方がよかった。
- ・「公開講座、コンソーシアム和歌山関係事業はきょう育の和センターと連携をとり実施していく。」について、公開講座を2023年2月1日にYouTube動画配信し、視聴回数と視聴者数（2023年3月15日現在）は、視聴回数：556回、ユニーク視聴者数：363人であった。公開講座の担当者を確認することから、実施まで時間を要した。公開講座の講演者を早めに決定しておく必要がある。

来年度の改善計画

基準 I -A 建学の精神の課題と改善計画（運営会議・学科専攻・宗教部・きょう育の和センター・学務委員会）

- ・コロナ後の式典のあり方を検討していく。
- ・フォトスポットを充実させていく。
- ・宗教部、教務部、学生部等と連携、協働を図り、式典をスムーズに進行させる。
- ・キャップ&ガウン、代表者等の作法マニュアルを更新していく。
- ・きょう育の和センターへ引き継ぐ業務（公開講座）を円滑に移行する。

2023年3月31日

責任者職位・氏名

学務委員長 森岡 美帆

11) 図書館（図書館委員会）

学科・専攻・部・委員会・センター等

図書館

今年度の改善目標

1 利用促進

数値目標：貸出冊数の増加

- ・ブックハンティングの実施
- ・シラバス参考書コーナーの充実
- ・絵本参考対象年齢の表示
- ・教職員による推薦図書
- ・県立図書館「図書館ウォッチング」への参加（新規）

2 資料管理

資料管理を徹底する。

- ・装備の見直し
- ・請求記号の見直し
- ・遡及データチェック、遡及データの見直し

実施内容

第1 図書館委員会

1 第1回 図書館委員会：2022年4月13日（水）15:15～15:55

(1) 今年度の図書館活動について（今年度の改善目標・行動計画）

○学生・教職員のニーズを把握し、資料を充実し、図書館の利用促進を図る。

数値目標：貸出冊数の増加

〈具体策〉

- ・ブックハンティングの実施
- ・シラバス参考書コーナーの充実
- ・絵本参考対象年齢の表示
- ・教職員による推薦図書の導入
- ・木のおうち 移動図書館（月1回開催）→木のおうちスタッフ、事務長に確認する。

○資料管理を徹底する。

- ・装備の見直し
- ・請求記号の見直し
- ・遡及データチェック、遡及データの見直し

(2) 図書館利用促進に向けての企画について

○ブックハンティング

- ・6月26日（土）に実施する方向で検討。

○SNS等による定期的な情報発信

- ・Twitterの更なる活用 情報発信
- ・学生ポータルに図書館情報をアップする。（楠木先生担当）

○閲覧室へのアクリル板設置

感染対策を図りながら利用者数の増を目指す。

2 第2回 図書館委員会（メール審議）：2022年4月20日（水）

（1）図書館利用促進に向けての企画について

・新企画

県立図書館が実施している「図書館ウォッチング」に参加する。

3 第3回 図書館委員会：2022年5月27日（金）15:30～16:15

（1）ブックハンティング

・6月25日（土）に実施

・学生募集（方法・期間）

10人程度 一人10冊 100冊以内 予算 15～16万円

・募集案内作成（楠木先生）

・募集期間：募集案内作成～6月22日（水）

・学生ポータルでも周知・フォームで申し込み

（2）新企画 「図書館ウォッチング」（県立図書館）への参加

・実施日時は、平日の10:00～16:00

希望者を募って参加する。

（3）教職員による推薦図書

・サイボウズのメッセージで依頼（楠木先生）

・期間 6月8日（水）～7月20日（水）

（4）学生図書委員会

6月1日（水） 12:50～13:10 図書館 学生ポータルで連絡

4 第4回 図書館委員会（メール審議）：2022年6月27日（月）

・「図書館ウォッチング」について

夏休み中の9月2日（金）10:00～（90分程度） 実施する。→ 了承

5 第5回 図書館委員会（メール審議）：2022年12月2日（木）

・「わかやま絵本大賞2023」の展示・参加呼びかけ → 了承

6 第6回 図書館委員会（メール審議）：2023年3月8日（水）

・「図書館利用規程」の改正

開館時間 「土曜日9:00～13:30」を削除

休館日 「土曜日」を追加

→ 了承

第2 活動報告（利用促進）

1 ブックハンティング

2022年6月25日実施

参加：保育1年2名・食物1年2名・食物2年1名 計5名

75 冊選書 (112,922 円)

2 シラバス参考書コーナー

シラバスに紹介されている参考書で購入可能な資料は全て購入、非売品は寄贈依頼して、展示した。

また、今年度中に改訂版や新版が出版された資料も可能な限り、購入した。

3 絵本参考対象年齢の表示

図書記号 (画家の名前) A~R まで完了。残り S~Z と別置分。

4 教職員による推薦図書

9 名の教職員に協力いただき、関係のある資料も含め 67 冊展示。

5 本のリクエスト

12 冊のリクエストがあり購入した。(学生 11 人、教員 1 人)

6 県立図書館「図書館ウォッチング」への参加 (新規)

2022 年 9 月 2 日実施

参加：食物 1 年 2 名・食物 2 年 1 名 計 3 名 (内 2 名当日欠席)

7 「わかやま絵本大賞 2023」展示・参加呼びかけ (新規)

2022 年 12 月 19 日~2023 年 1 月 31 日実施

参加：保育 1 年 7 名・保育 2 年 5 名・食物 1 年 1 名・卒業生 1 名

その他 3 名 計 17 名

第 3 活動報告 (資料管理)

1 装備の見直し

新規購入分は全てコーティング。

遡及分はデータの見直しをしながら、カバーなどの汚損部分を補強・修理し、都度、処分するかテープで張り付けるかしている。

遡及分は絵本 A~R までと 0 門のみ完了。

2 請求記号の見直し

絵本 A~R までと 0 門のみ完了

3 遡及データチェック、遡及データの見直し

絵本 A~R までと 0 門のみ完了

評価

学生一人当たりの貸し出し数は、次表のとおりである。遠隔授業がなかったこと、実習用の一括貸出の期間を延長したこと等により、貸出総数は前年度比 13%増加した。また、学生一人当たりの図書貸出数も前年比 15%増加した。

	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学生貸出総数	1701	1731	2059	1431	1826	2067
うち視聴覚資料	312	271	13	0	0	1

学生一人当たり図 書貸出数（冊）	4.1	4.3	5.3	4.1	6.2	7.1
---------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

適切な選書・廃棄システムにより、教育・研究に必要な書籍などの資料を収集し、管理した。

来館した学生が必要とした資料（絵本を含む）が未所蔵の場合、可能な限り購入し、次回来館時や次年度の学生のために備えた。

図書館内に授業に関する図書のコーナーを設け、担当教員から指定を受けた授業関連図書を別置している。

ブックハンティングの再開や「図書館ウォッチング」への参加、「わかやま絵本大賞」への参加など、新規の企画を実践した。

木のおうちへの移動図書館については、コロナ禍で参加人数制限を行い、返却が困難であるため、木のおうちからの貸出希望はなかった。

一般資料の遡及データの見直しよりも、絵本の参考対象年齢シール付けを優先させた。

絵本の参考対象年齢シールを付ける際に、絵本の遡及データの見直しや請求記号・装備の見直しをしている。

絵本の参考対象年齢シールを付けることにより、学生が実習時必要とする絵本選びの参考になり、今まで手にしなかった絵本を手にする機会も増え、貸出が伸びた。

来年度の改善計画

利用促進については、展示の充実、ブック・ハンティング、図書館ウォッチング等の活動を本年度同様引き続き実施していく。

来年度、共通教養科目「基礎演習」の指導内容において、「図書館の利用」が必修事項となった。授業において司書が詳しく説明し、有効に利用するよう指導する。また、卒業研究においても、必要な資料のリクエストを促し、積極的な利用促進を図っていく。

資料の管理に関しては、蔵書規模に応じた廃棄を進めていく。本学図書館の蔵書収納可能数が約 66,000 冊のところ、蔵書数は約 64,000 冊である。年間約 800 冊～1,000 冊の購入および寄贈があるため、増加分に対する廃棄を進めていく。

2023年3月28日

責任者職位・氏名

図書館長 小滝 正孝

12) きょう育の和センター

学科・専攻・部・委員会・センター等

きょう育の和センター

今年度の改善目標

感染症対策を徹底した学生への学びの場の提供及び地域社会への貢献

実施内容

第1 きょう育の和センター 会議

1 第1回 きょう育の和センター会議：2022年4月11日（月）13:20～14:00

(1) 2022年度 改善目標について

感染症対策を徹底した学生への学びの場の提供

(2) 行事計画について

- ・地域・社会貢献 「木のおうち」「子育て広場」
- ・産学官連携 「和歌山版 MaaS 実証実験」
「ひろば活動を通じた連携」
- ・学生支援 「木のおうち」「子育て広場」の開放
「ボランティア案内」
「教育研究奨励金の公募」

2 第2回 きょう育の和センター会議：2022年5月10日（火）メール審議

(1) ボランティア募集 和歌山市障害者卓球大会

3 第3回 きょう育の和センター会議：2022年5月17日（火）メール審議

(1) タケノコごろごろコロッケ 試食会・レシピ配布について

5月28日（土） 10:00～13:00 伊太祁曽駅前スペース 120食

(2) 報道への資料提供について

4 第4回 きょう育の和センター会議：2022年7月4日（月）

(1) 和歌山電鐵貴志川線イベントスタッフ募集について

まず保育科学生を募集する。

(2) 年金広報コンテスト（厚労省）について

学生ポータルで周知

(3) 来年度のプロジェクト実践演習について

今年度の検討課題とする。

5 第5回 きょう育の和センター会議：2022年10月7日（金）10:50～

(1) 貴志川線活性化に向けた和歌山電鐵・紀の川市の取組への連携について
プレ事業について

(2) 来年度事業について

プロジェクト実践演習に位置付けられるか検討する。

6 きょう育の和センター選定委員会：2022年7月4日（月）13:30～14:50

2022年度研究助成について

(1) 地域志向研究奨励金

- ・ 「北山村の農産物を利用した成人病の改善、及び加工品の開発について」
研究代表者 西出充徳
- ・ 「教育施設へのアクセシビリティ：背景・状況・構造を考究する」
研究代表者 渡辺直人

助成の可否：2件とも可

(2) 実践的教育プログラム

- ・ 「学生のための面接練習カード制作」
研究代表者 山本桂子

助成の可否：可

7 きょう育の和センター選定委員会：2022年11月16日（月）13:30～14:50

2022年度研究助成について

(1) 実践的教育プログラム

- ・ 「和歌山ジビエの研究」
研究代表者 芝田史仁

助成の可否：可

第2 取組内容

1. 地域・社会貢献

(ア) 「木のおうち」の実施

月	組数	子供数	学生数	実施日
4月	36	39	0	13, 18, 20, 25, 27日 新規0
5月	55	60	35	9, 11, 16, 18, 23, 25, 30日 新規14
6月	87	103	14	1, 6, 8, 13, 15, 20, 22, 27, 29日 新規21
7月	38	44	8	4, 6, 11, 13日 新規6
8月	47	52	29	17, 22, 24, 29, 31日 新規4
9月	64	68	8	5, 7, 12, 14, 21, 26, 28日 新規11
10月	73	79	39	3, 5, 12, 17, 19, 24, 26, 31日 新規12
11月	66	82	18	7, 9, 14, 16, 21, 28, 30日 新規8
12月	47	53	0	5, 7, 12, 14, 19日 新規8
1月	30	31	2	11, 16, 18日 新規2
2月	67	77	0	6, 8, 13, 15, 20, 22, 27日 新規8
3月	38	41	0	6, 8, 13, 15日 新規0
計	648	729	153	71日 新規94組

(イ) 「子育て広場」の実施

実施日	親数	子供数	学生数	場所
5/14	10	12	12	体育館
6/4	24	31	20	体育館
7/9	10	10	7	木のおうち
8/20	9	11	7	木のおうち
9/10	8	8	8	木のおうち
11/5	21	20	11	体育館
12/24	12	10	8	木のおうち
1/14	19	9	8	木のおうち
計	104	111	81	

(ウ) 「令和4年度わかやま子ども学総合研究センター公開研究集会」の実施

(和歌山信愛大学との共催)

- ・2023年3月4日(土) 13:00~16:00 於: 和歌山信愛大学
- ・テーマ「わかやまの子どもの現状と課題について考える」
- ・行政説明 「最近の教育の現状と課題」 和歌山県教育庁 川口教育支援課長
「最近の児童福祉の現状と課題」 和歌山県 鈴木子ども未来課長
- ・分科会
 - 第1 「不登校・いじめ・ゲーム依存」
 - 第2 「児童虐待・子育て支援・ヤングケアラー等」
 - 第3 「障害児支援・特別支援教育」
 - 第4 「教科指導・クラス運営等」
- ・参加者 84人(うち遠隔参加25人) 関係者・学生39人 計123人

(エ) 「山東まちづくり会」への協力

- ・「たけのこゴロゴロコロッケ」の試食会・レシピ配布 2022年5月28日(土)
地域貢献活動(貴志川線活性化と地域の農産物の普及)のため、「たけのこゴロゴロコロッケ」の普及に取り組んだ。これを契機に、山東まちづくり会から様々な取組への協力依頼があり、定期的に懇談会を実施することとなった。

・懇談会(第1回)

日時: 2022年9月24日(土) 場所: 地域交流拠点 まんなか
出席者: 本学3名、山東まちづくり会: 4名、貴志川線未来をつくる会: 2名
和歌山市: 1名 計 14名

今後の取組について

- ・たけのこイベントの共催
- ・食育活動(山東ふれあい食堂)への協力(食育の講演)
- ・学生ボランティアの活動(ボランティア活動証明書発行)

- ・ふれあい食堂講座 第1回
2022年12月1日(木) 19:00~20:00 地域交流拠点「まんなか」
演題「食事を楽しみましょう」 講師 森岡
参加者 25名
- ・ふれあい食堂講座 第3回
2022年3月23日(木) 19:00~20:00 地域交流拠点「まんなか」
演題「食事バランスガイドで簡単チェック♪」 講師 森岡
参加者 12名

2. 産学官連携

(ア) 和歌山県他 「和歌山版 MaaS 実証実験」

- ・「学生からのヒアリング」

「地域社会学」受講の学生11名に対して、本実証実験についてレクチャーの後、ヒアリングを行った。(5月)

- ・「カーシェア実証実験受入れ」

2022年12月15日~2023年1月31日、使用可能時間10時~18時(土曜のみ17時まで)

シェアカー：C+pod(シーポッド)

説明会：2022年12月12日(月)12:50~13:15

説明会参加：学生10人

利用者：7人(学生、教職員)、利用回数15回

(イ) 和歌山市 「ひろば活動を通じた連携」

木のおうち、子育て広場に同じ(再掲)。

(ウ) 紀の川市・和歌山電鐵株式会社 「貴志川線活性化プロジェクト」

和歌山電鐵株式会社・紀の川市と連携し、貴志川線の乗客数増を目指し、たま駅長に継ぐ新たなコンテンツを学生のアイデアで創出するプロジェクトを実施する。本年度は、プレ事業と位置づけ、2023年度は、共通教養科目「プロジェクト実践演習」の授業として取り組んでいく。本年度は、プレ事業を実施した。

- ・貴志川線活性化プロジェクトテーマ「貴志川線に日本一の〇〇をつくる」

- ・説明会：2022年11月9日(水)10日(木) 授業終了後各1時間

参加学生 2名

- ・フィールドワーク沿線探索：2022年11月12日(土) 12時~16時

参加学生 2名

- ・プレ企画会議：2022年12月11日(日) 10時~12時 於：紀の川市観光交流拠点「喜楽里」 参加学生1名

(エ) ALL ARIDA 協議会 「なれ鮓文化の伝承とインバウンド誘客」

有田市観光協会、有田市等の連携協議会であるALL ARIDA協議会が行う「なれ鮓」によるインバウンド誘客及びなれ鮓文化の伝承に協力する。

本年度は、事業展開の検討を行った。

・ 検討会：2023年3月15日（水） 14：00～15：15 於：本学

本学教職員 6名 有田市 6名

(オ) 和歌山市「和歌山市地域フロンティアセンター紹介」

説明会：2022年10月24日（月）13：00～13：15

参加学生：6名

3. 学生支援

(ア) 「木のおうち」「子育て広場」の開放

「ボランティア論」「地域子育て子育て支援論」「卒業研究」の授業で学生の活動を受け入れた。計178人

「ボランティア論」81人（再掲）、「地域子育て子育て支援論」54人「卒業研究」15人、「日本語演習」26人「食育実践演習」2人

(イ) ボランティア案内

依頼のあったボランティア活動への参加者

	実施日	活動名	参加者数
1	5/28	タケノコごろごろコロケ試食会・レシピ配布	30人
2	6/11	和歌山市障害者卓球大会(準備)	5人
3	6/12	和歌山市障害者卓球大会(準備)	25人
4	11/1	同和運動推進月間「該当啓発」	1人
5	11/6	貴志川線まつり	6人
6	11/13	和歌山市ジャズマラソン	1人
7	11/19	和歌山県人権フェスタ	0人
8	11～12	貴志川線活性化プロジェクト	2人
		計	70人
		(以下は、授業の一環での参加)	
9	随時	こ・はうす きしがわ	5人
10	8/7	ふれあいの郷・夏の夕べ(夏祭り)	中止
11	11/3	四季の郷 子どもの活動支援	8人
12	12/18	貴志川線クリスマス電車ボランティア	16人
		計	31人

(ウ) 教育研究奨励金の公募・採択

・ 地域志向研究奨励金への横暴2件受け付け、採択。

① 「北山村の農産物を利用した成人病の改善、及び加工品の開発について」

② 「教育施設へのアクセシビリティ：背景・状況・構造を考究する」

・ 実践的教育プログラムへの応募2件受け付け、採択。

① 「学生のための面接練習カードの制作」

② 「和歌山ジビエの研究」

評価

1. 地域・社会貢献

(ア) 「木のおうち」の実施

和歌山市との協定のもと市の保育士2名の週2回派遣を受け実施した。コロナ禍で上限組数を設けた開催であったが、感染対策を徹底し、活動の場の提供に努めた。予約は毎回上限まで達し、本事業に対する地域ニーズの高さが見られた。

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、予約システムのポータルサイト「こくちーず」を活用し、上限10組で実施した。

参加者が固定する傾向にあり、新規利用者が参加できにくいという声が多く寄せられたため、12月から予約上限を毎月3回（子育て広場を含む。）までとした。

学生にとっては、保育プログラム等の実践の場として活用できた。

(イ) 「子育て広場」の実施

和歌山市より2名の保育士の派遣を受け保育科学生及び教員と協働して実施した。土曜日開催のため、父親や兄弟の参加も見られた。

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、予約システムのポータルサイト「こくちーず」を活用し、体育館では上限20組、木のおうちでは上限10組で実施した。

学生にとっては、保育プログラム等の実践の場として活用できた。

(ウ) 「令和4年度わかやま子ども学総合研究センター公開研究集会」の実施

(和歌山信愛大学との共催)

遠隔参加も含めて、教育関係者、福祉関係者、学生など多様な参加を得た。実施時期が学年末であり、学校関係者は多忙な時期である。実施時期の検討を要する。

(エ) 「山東まちづくり会」への協力

「タケノコごろごろコロッケ」を機に連携が進み、定期的に懇談会を持つこととなった。山東まちづくり会が、食を通じた地域住民の触れ合いの場となる「ふれあい食堂」を計画しており、その準備学習として、本学教員が2回食育の講演を行った。来年度から、山東まちづくり会が、「ふれあい食堂」を実施する予定であり、引き続き協力を行っていく。

2. 産学官連携

(ア) 和歌山県「和歌山盤 MaaS 実証実験」

「カーシェア実証実験」を学生と教職員に周知し協力した。シェアカー利用の希望はあったが、WEB登録が上手くいかず、利用できない学生も多かった。また、充電時間を要するため、短い時間での利用に適さなかった。

(イ) 和歌山市「ひろば活動を通じた連携」

(「木のおうち」「子育て広場」に同じ。再掲)

(ウ) 紀の川市・和歌山電鐵株式会社との「貴志川線活性化プロジェクト」

学生2名の参加であったが、貴志川線沿線で移動カフェをするというアイデアが

出され、実施に向けたワークショップを行った。来年度、「プロジェクト実践演習」として取り組む準備が整った。同演習の開講が9月であるため、紀の川市との連携協定締結は、次年度に持ち越すこととなった。

(エ) ALL ARIDA 協議会 「なれ鮎文化の伝承とインバウンド誘客」

本年度は、幅広い事業展開のアイデアを共有した。来年度からはアイデアを収れんし、食に関することに加え、テーマとストーリーを組み立てるのに協力していく。

(オ) 和歌山市「和歌山市地域フロンティアセンター紹介」

説明会参加者が少なかった。学生自らが主体的にボランティア活動に取り組めるようボランティア情報の取得に向け、周知に努める必要がある。

3. 学生支援

(ア) 「木のおうち」「子育て広場」の開放

「ボランティア論」「地域子育て子育て支援論」「卒業研究」の授業で学生の活動を受け入れた。(再掲)

(イ) ボランティア案内

コロナ禍であり、ボランティアの募集数が限られたものとなった。来年度は、ボランティア先の開拓に努め、活動の場を増やしていく予定である。

(ウ) 教育研究奨励金の公募

地域志向研究奨励金について、引き続き地域に貢献する研究を募っていく。

来年度の改善計画

コロナ禍ではあり、活動には多くの制限がかかったが感染対策を整備したうえで、できる限りの活動を行った。なかでも、地域貢献活動や公開講座を契機に、地域からの協力依頼が2件あった。今後も、地域活動の拠点窓口として、本学の有する学習資源を積極的に地域に広報し、本学の認知度を高め、活動の場を広げていきたい。

学生の学修に関しては、貴志川線活性化プロジェクトとしてプレイベントを行い、来年度の展開をシミュレーションすることができた。来年度は、共通教養科目「プロジェクト実践演習」として、取り組んでいく予定である。また、ボランティア活動の依頼も増加してくることが予想され、周知とコーディネートを実施していく予定である。

2023年3月29日

責任者職位・氏名

きょう育の和センター長 小滝正孝

13) キャリアセンター（進路・就職委員会）

運営会議・学科・専攻・部・委員会・センター等

キャリアセンター

今年度の改善目標

- WEBによる就職活動に対する支援の充実。
- 就職活動の円滑化のため、学生のキャリア支援システム（キャリアタス UC）の利用促進を図る。
- キャリタス UC やサイボウズを有効に利用し、教職員間の連携を強化する。
- 卒業生への就職支援の充実を図る。

実施内容

次の内容を進路・就職委員会で情報を共有したうえで審議し、承認・実施した。

- 第1回 2022年4月18日（月）
 1. 2021年度就職率
 2. 2022年度キャリアセンター運営計画
 3. 今年度の学内企業説明会
 4. 紀陽銀行学校推薦
 5. 2022年度和歌山信愛女子短期大学 運営方針
 6. 今年度の改善取り組み（キャリアセンター）
 7. その他
- 第2回 2022年5月23日（月）
 1. 紀陽銀行学校推薦者の選考
 2. わかやま対面型 WEB 合同企業説明会
 3. その他
- 第3回 2022年9月14日（水）
 1. 内定状況（8月末）
 2. 夏季集中公務員試験対策講座実績
 3. 2022年度ニーズ調査集計結果（自己点検評価委員会）
 4. その他
- 第4回 2022年12月12日（月）
 1. 内定状況
 2. 進路決定届
 3. ハローワーク和歌山出張相談
 4. 認証評価スケジュール
 5. 紀陽銀行学校推薦
 6. 懸念事項
- 第5回 2023年3月1日（水）
 1. 内定状況
 2. 2023年度キャリアセンター運営計画（案）
 3. その他

【具体的な取り組み内容】

- 2022 年度キャリアセンター運営計画の承認
 - (1) 就職支援業務
 - (ア) ガイダンス
 - ① 公務員試験・編入学ガイダンス ② 就職ガイダンス
 - (イ) 各種対策
 - ① 公務員試験対策講座 ② 編入学試験対策講座（小論文）
 - ③ 一般常識試験・SPI 基礎能力検査対策他 ※新型コロナウイルス感染拡大状況による
 - (2) 個別面談（相談）等の支援業務
 - (ア) 履歴書・エントリーシート・模擬面接ほか就職・進学に関する全般
 - ① キャリアセンターによる個別面談 ② ハローワーク和歌山出張相談
 - (イ) 学外合同説明会・Uターンフェア会場での学生支援
 - (3) 学内合同企業説明会の開催
※新型コロナウイルス感染拡大状況による
 - (4) 情報提供業務
 - (ア) 求人情報等の提供 (イ) 進学・編入学情報の提供
 - (5) 渉外・求人開拓業務
 - (ア) 求人申請用紙・大学案内の発送 (イ) 企業回り・求人開拓
 - (ウ) 地元経営団体との交流
 - (6) インターンシップ関連業務
 - (ア) 「インターンシップⅠ」の授業サポート、インターンシップ関連事務作業
 - (イ) 「インターンシップⅡ」における学生サポート
※いずれの科目も生活文化専攻の授業科目である
 - (ウ) 上記授業以外のインターンシップ参加希望学生に対するサポート
 - (7) その他
 - (ア) 紀陽銀行学校推薦
 - (イ) 外部ステークホルダーからのニーズ調査
- 合同企業説明会（学内・学外・WEB）の開催
 - (1) 【企業研究型：栄養士職】2022年4月23日（土）
 - (2) 【対面型WEB：一般職】2022年5月28日（土）※和歌山労働局主催
 - (3) わかやま交流会へ参加（学外）2022年12月14日（水）※和歌山県主催
（和歌山大学、和歌山信愛大学、和歌山信愛女子短期大学、近畿大学）
- 紀陽銀行学校推薦
学校推薦希望者（生活文化学科生活文化専攻3名、保育科1名）に対して
学内選考試験を実施し、4名の学校推薦を承認。
- 生活文化専攻1年生への「夏季わかやまインターンシップ」参加支援
2022年6月～9月 参加学生数11名
- 公務員試験ガイダンスの開催

学科専攻ごとに 2022 年 7 月に実施

- 夏季集中公務員試験対策講座の開催（講師：伊藤先生、勝本先生）
2022 年 8 月 30 日（火）・9 月 6 日（火）・9 月 8 日（木） 参加学生数 17 名
- 各科専攻の担任・副担任との情報共有の徹底
キャリア支援システム（キャリアタス UC）・サイボウズの活用
- 地元産業界へのニーズ調査の実施及び集計結果の情報共有
実施期間：2022 年 5 月～2022 年 9 月
対象：保育科、生活文化学科就職先対象事業所：各 10 件
- 就職・採用活動情報の収集の合理化と WEB による面談予約制の導入
就職・採用活動が早期化することが見込まれる中、情報収集の合理化や学生の
情報活用を利便化するために、民間業者が運用するキャリア支援システム（キャリ
タス UC）を活用し、利用促進を図っている。また、WEB による面談予約制を導入
している。
- WEB 選考（面接等）への支援
学内にてパソコン、通信環境、場所（教室）を準備し、WEB 選考における受験対
策を踏まえた支援を行っている。
- ZOOM による WEB 面談の導入
希望する学生が学外からでも確実に相談を受けられるように、ZOOM による WEB
面談を取り入れている。
- 卒業生への就職支援の拡充
キャリアセンター委員情報共有グループをサイボウズに作成し、メッセージ機能
を活用して情報共有の効率化を進めた。

改善目標の達成状況と評価

- 新型コロナウイルスの影響は様々な環境面で残っているが、求人数には増加傾向
がみられた。内定率は 2022 年 2 月末時点で、生活文化専攻 100%、食物栄養専攻
92.6%、保育科 94.1%となっている。
- 学生へキャリア支援システム（キャリアタス UC）の WEB 面談予約機能の利用を促し、
利便性の向上と多くの面談機会の創出に努めた。ただし、学生の利用頻度にバラ
つきがあるため、今後も継続して周知する必要がある。
- 学内で受ける WEB 選考等への支援（パソコン、通信環境、場所等）を行い、さらに
ZOOM による個別 WEB 面談を導入することで、支援の充実を図った。
- 栄養士職の学内合同企業説明会を、4 社が順に登壇する企業研究会の形式で実施し
た。一般職については、和歌山労働局主催の WEB を活用した対面式合同企業説明
会に後援として参画し、学生への情報発信の充実を図った。
- 和歌山県内企業を中心に、本学の DP に基づいたニーズ調査を実施し、その集計結
果をキャリア支援だけでなく、学科専攻毎の教育活動の改善においても活用する
こととした。
- サイボウズに「キャリアセンター委員情報共有グループ」を作成し、メッセージ
機能を利用して情報共有をスピーディーに行うことができるようになった。卒業

生の支援に関する情報についても共有し、支援に活用している。

来年度の改善計画

- 生活文化学科食物栄養専攻においては、一年次後期から二年次前期にかけて、キャリアガイダンスにあたるカリキュラムの不足が窺えるため、就職活動開始に向けて準備不足が起こらないよう計画的にガイダンスを実施する。
- 学生のキャリア支援システム（キャリアタス UC）の利用頻度にまだばらつきがみられ、提出が必須である「進路決定届」等の入力の上進にも差が生じているため、今後は周知方法等の工夫を施して対応する。

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

キャリアセンター長 前田 圭一

14) 学生相談センター

学科・専攻・部・委員会・センター等

学生相談センター

今年度の改善目標

総合的な学生支援と専門的な学生支援の連携・協働

実施内容

1. 相談対応

非常勤心理士によるカウンセリングを毎週月、火、水、木曜日に実施。また、支援上必要な場合は、担任、保健室と連携し学生支援に取り組んだ。

評価

1. 相談対応数

①学生対応数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実数	6	7	10	7	4	5	9	9	5	6	3	3
延べ件数	17	21	41	19	8	12	22	22	17	10	7	8
インターク	0	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0

②保護者対応数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実数	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

2. 相談内容別来談学生数

①就学上の問題

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実数	1	2	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0

②進路・将来

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実数	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0

③対人関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④心理・精神

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
実数	5	5	7	6	4	5	7	7	5	6	3	3

来年度の改善計画

来年度より、カウンセリング機能を外部委託とするため、委託会社と定期的な意見交換の場を設け連携と体制の強化に努める。また、今までカウンセラーに一任されていた相談対応について新たに様式を定め標準化を図る。具体的には、インテーク記録、学生同意書、フェイスシート、個人カルテを作成する。学内の教職員、学外の専門機関との連携についてもセンター内ミーティングにて協議の結果、原則学生の同意を得たうえで情報の共有と支援の協力を積極的に求めていくこととする。

2023年 3月 31日

責任者職位・氏名

 学生相談センター長 桑原徹也

第 4 章 定員充足の状況と学生募集の見通し

2023年度入試では、2022年度入試に比較し受験者数・合格者数の総数に差は無いが、2022年度が特異なほど合格者の辞退が少なかったことにより、最終入学者は5人減となった。

2023年度入試状況

学科・専攻（定員）	志願者		受験者		合格者		入学者	
生活文化学科・生活文化専攻（40）	38	92	37	87	37	87	34	83
生活文化学科・食物栄養専攻（50）	54		50		50		49	
保 育 科（80）	60		59		58		57	
合 計（170）	152		146		145		140	

※総合型選抜（A0）のみ、エントリー者を志願者として計上

参考までに、下記に昨年度の入試状況を掲載しておく。

2022年度入試状況（参考）

学科・専攻（定員）	志願者		受験者		合格者		入学者	
生活文化学科・生活文化専攻（40）	34	74	34	74	34	74	33	73
生活文化学科・食物栄養専攻（50）	40		40		40		40	
保 育 科（80）	73		72		72		72	
合 計（170）	147		146		146		145	

受験生が高校1・2年生であった頃の接触状況および反応により、2023年度当初の見込みは（生活文化専攻【微増】33～38人、食物栄養専攻【微減～現状維持】33～38人、保育科【減】63～68人、計129～144人）との予測行っていた。しかし、夏休み時期までの保育系志願者の反応の鈍さ、生活文化専攻を志願した生徒が食物栄養専攻へと転向するケースが複数あり、予測とは違う結果（生活文化専攻【現状維持】、食物栄養専攻【増】、保育科【激減】、入学総数は予測上限寄りの結果）となった。

この結果については、保育系への世間的なイメージの悪化を含めた減少トレンドを甘く見積もり過ぎたこと、景気の先行き不安による資格系への回帰マインドが、生活文化専攻の増加予測を食物栄養専攻へ向けさせたものと総括している。

2023年度はオンラインオープンキャンパスの年間広告効果を引き続き維持するために4月に第3回オンラインオープンキャンパスを実施し、以降5～9月までに各1回のオープンキャンパス、7月に2回目のナイトオープンキャンパス、三者面談時期に被せたオーダーメイド型のオープンウィーク、社会人にターゲットを絞った相談会、従来

からある個別相談会など、全方位の志願者向けイベントを予定している。

2024年4月入学生（2023年度実施入試）においては、募集のための様々な取り組みが功を奏したとしても、新型コロナウイルスによって食い止められていたと考えられる県外流出への心理的抵抗感が、5月以降の5類への変更により薄れ、ある種の反動による県外流出の加速を予測している。

特に教育・保育系はただでさえ模試等の分析では不人気分野であり、一層のパイ減少が見込まれる中、直近12月～3月までの高等学校内進路ガイダンスにおいて本学よりも大阪の専門学校、あるいは保育・教育系4年制大学の方が受講人数を上回るケースが頻発しており、最大限の警戒と覚悟を持って学生募集活動に当たるものである。

また、生活文化学科の改組、特にビジネス実践コース（現：生活文化専攻）については過去の高校生との接触履歴や反応がリセットされ、予測見込みが困難であることから受験生へのニーズ訴求、効果的な見せ方の早期確立を目指す。

食物栄養コース（現：食物栄養専攻）については今年度入試と同程度の反応を得ているが、その手ごたえを実数として確実に積み上げていくことを目標とする。

第 5 章 短期大学及び法人の収支決算書の概要と評価

1) 短期大学

過去3年間の事業活動収支の状況 (短期大学分)

(単位：千円)

	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入計	532,239	449,205	426,125
事業活動支出計	526,488	491,111	481,702
事業活動収支差額	5,751	△ 41,906	△ 55,577

過去3年間の事業活動収支(短期大学分)の状況は、上記に示すとおり2021年度は5,751千円、2021年度は△41,906千円、2022年度は△55,577千円となった。2021年度以後大幅な支出超過となっている。このような支出超過の原因は、入学定員未充足による学生納付金の減少が大きく影響している。教育・研究水準の維持継続のために必要な予算は確保しつつ、経常的経費の支出は、効率化を図るとともに経費圧縮を継続的に実施しできるだけ早期に経営状況の改善し、健全な状況を維持・向上させたい。

2022年度の資金収支と事業活動収支の状況 (短期大学分)

資金収支

(単位 千円)

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	差異
学生生徒等納付金収入	307,880	309,270	1,390
手数料収入	3,980	5,416	1,436
寄付金収入	7,400	8,921	1,521
補助金収入	80,080	83,791	3,711
付随事業・収益事業収入	2,480	4,933	2,453
受取利息・配当金収入	600	785	185
雑収入	800	12,903	12,103
<収入の部合計>	403,220	426,019	22,799
支出の部	本年度予算額	本年度決算額	差異
人件費支出	305,780	311,161	5,381
教育研究経費支出	88,250	86,577	△ 1,673
管理経費支出	25,380	25,060	△ 320
施設関係支出	440	199	△ 241
設備関係支出	1,720	1,491	△ 229
<支出の部合計>	421,570	422,567	997
収支差額	△ 18,350	1,531	19,881

事業活動収支

(単位 千円)

教育活動収入の部	本年度予算額	本年度決算額	差 異
学生生徒等納付金	307,880	309,270	1,390
手数料	3,980	5,416	1,436
寄付金	7,400	8,921	1,521
経常費等補助金	80,080	83,791	3,711
付随事業収入	2,480	4,933	2,453
雑収入	800	12,903	12,103
<教育活動収入計> (A)	402,620	425,235	22,615
教育活動支出の部	本年度予算額	本年度決算額	増 減
人件費	305,780	313,534	7,754
教育研究経費	137,850	136,135	△ 1,715
管理経費	29,380	29,004	△ 376
<教育活動支出計> (甲)	473,010	478,673	5,663
教育活動収支差額・・・①	△ 70,390	△ 53,438	16,952
教育活動外収入の部	本年度予算額	本年度決算額	差 異
受取利息・配当金	600	785	185
<教育活動外収入計> (B)	600	785	185
教育活動外支出の部	本年度予算額	本年度決算額	差 異
<教育活動外支出計> (乙)	0	0	0
教育活動外収支差額・・・②	600	785	185
経常収支差額・・・③ (①+②)	△ 69,790	△ 52,654	17,136
特別収入の部	本年度予算額	本年度決算額	差 異
その他の特別収入	0	105	105
<特別収入計> (C)	0	105	105
特別支出の部	本年度予算額	本年度決算額	差 異
資産処分差額	0	3,029	3,029
<特別支出計> (丙)	0	3,029	3,029
特別収支差額・・・④	0	△ 2,924	△ 2,924
基本金組入前当年度収支差額 ⑤ (③+④)	△ 69,790	△ 55,578	14,212
基本金組入額合計・・・⑥	△ 27,530	0	27,530
当年度収支差額 ⑦ (⑤+⑥)	△ 97,320	△ 55,578	41,742
事業活動収入計 (A) + (B) + (C)	403,220	426,125	22,905
事業活動支出計 (甲) + (乙) + (丙)	473,010	481,702	8,692
事業活動収支差額	△ 69,790	△ 55,578	14,212

上記に示すとおり、2022年度の資金収支差額当初予算では大幅な支出超過となる見込であったが、今年度決算において経常的経費の支出を見直し、効率化を図り資金収支支出の圧縮に務めた。

2) 法人全体

過去3年間の事業活動収支の状況 (法人分)

(単位:千円)

	2020年度	2021年度	2022年度
事業活動収入計	1,908,294	1,852,406	1,844,877
事業活動支出計	2,113,592	2,093,271	2,109,198
事業活動収支差額	△205,297	△240,864	△264,321

過去3年間の事業活動収支(短期大学分)の状況は、上記に示すとおり2021年度は△205,297千円、2021年度は△240,864千円、2022年度は△264,321千円となった。2020年度、2021年度ともに大幅な支出超過となっている。大幅な支出超過の原因は、幼稚園を除く各部門の入学定員未充足による学生納付金の減少が大きく影響している。

早期に財務の健全化を図るため、各部門の財務状況と合わせて近郊の学校の定員数の変更など社会情勢の変化等を理事会で情報共有し、現在の定員数、教職員数、人件費、学納金等が適正であるかなどを検討している。

18歳人口の動向を踏まえた入試改革による入学定員の充足率アップ、学納金及び経常費補助金等の計画的な見直しによる収入増、収入・支出の適正化、定年規程の適切な運用による人件費等の削減を柱に健全化を進めている。

学納金については、経営に係る財務的な視点と学納金の園児・生徒・学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、本学院の将来の発展を目的とする施設・設備の充実を考慮するとともに、近隣他校における学納金の設定状況を勘案したうえで、運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点にもとづき、定期的に見直している。

また大学は収入面で完成年度(令和4年度)までは経常費補助金の交付は無かったが、令和5年度から経常費等補助金の交付により収入が増加する。一方で令和4年度完成年度退職者と令和5年度採用教職員の差額による人件費削減により収支が大きく改善される。資金収支は令和5年度から、事業活動収支においては令和8年度から収入超過となる見通しであり、法人全体の財務健全化の助けとなると期待できる。

これらの方策を総合的に実施することにより、学校法人の財務健全化の実現を目指す。

第 6 章 短大の中期事業計画（経営改善計画）

I. 経営目標と経営改善計画・達成目標

1) 経営目標

2025 年度までに黒字に転換する。

2) 経営改善計画

① 学費見直しによる収益率の向上

【概要】

人件費及び物価の上昇に対応して、学費を短大規模に見合う額に見直し、収益率を改善する。

【具体的計画】

2024 年度入学生の学費より、入学金を 5 万円値上げし、25 万円にする。また、授業料及び教育充実費・実験実習費を合わせて平均 12 万円程度値上げする（以下詳細を示す）。

納付金	現 在	変更後	差 異
入学金（1 年のみ）	200,000	250,000	50,000
教育充実費	210,000	240,000	30,000
授業料	716,000	786,000	70,000
実験実習費	66,000 81,000	90,000 (授業料に)	24,000 9,000
その他諸経費	16,000	16,000	0
合計	1,208,000 1,223,000	1,382,000	174,000 159,000

② 生活文化学科改編による募集力向上と人件費抑制

【概要】

2024 年度入学生より、生活文化学科の 2 専攻（生活文化専攻と食物栄養専攻）を廃止し、コース制（ビジネス実践コースと食物栄養コース）にすることで、募集力向上と共に、教員の構成を見直し、人件費を抑制する。

【具体的計画】

生活文化学科のコース制を廃止し、生活文化専攻をビジネス実践コースとする。さらに、出口（就職先）の見える 4 つのユニットで学ぶカリキュラムを明示し、高校生に分かりやすい広報で、募集力を向上させる。

また、コース制に移行することで、学科で必要な教員数が 8 から 5 に、必要な教授数が 4 から 2 に削減される。現在 5 年以内に定年を迎える 60 代教授が 6 名いるため、教授比率を見直すことで、人件費抑制に繋げることができる。

【到達目標】

2024 年度以降のビジネス実践コースへの入学者数を、通信制高校からの入学者数を合わせて、予測より 10 名以上増加させる。

③ 通信制高校を対象とした募集の拡充と学習環境の整備

【概要】

18歳人口減少の中、生徒数の増加が見込まれる通信制高校への募集を拡充させ、入学者増を目指す。

【具体的計画】

- ・ 2023年度より、生活文化専攻を中心に、自宅など教室以外での学修を可能とするカリキュラムを充実させる（卒業に必要な単位62単位中、30単位まで、オンラインによる受講を可能に）。さらに、2024年度からの新コースにおける募集の目玉とする。
- ・ 通信制高校への指定校推薦人数を拡充する。
- ・ 信愛高校通信制クラスと連携した入学前教育を充実させると共に、指定校推薦枠を設ける。

【到達目標】

2024年度までに通信制高校からの入学者数を現在より5名以上増加させる。

④ 社会人を対象とした募集の拡充と学習環境の整備

【概要】

社会人が学びやすい環境を整備すると共に、社会人を対象とした募集を拡充することで、社会人の入学者増を目指す。

【具体的計画】

- ・ 生活文化学科食物栄養専攻及び保育科を専門実践教育訓練指定講座に（2022年度より実施済）
- ・ 社会人をターゲットとした広告媒体を活用し、社会人への露出を増やす。
- ・ 社会人を対象としたオープンキャンパスを実施する。

【到達目標】

2025年度には食物栄養コース及び保育科で、現在よりも社会人入学生数を合計10人増、2027年度までには、合計15人増を目指す。

⑤ 遠隔地を対象とした募集の拡充

【概要】

沖縄・奄美地方など関西エリアへの志向が強い遠隔地をターゲットとした募集を拡充することで、入学者増を目指す。

【具体的計画】

- ・ 2022年度後半から、沖縄・奄美地方におけるガイダンスを業者に依頼中。
- ・ 2022年度内に、沖縄・奄美地方におけるガイダンスに参加し、主だった高校を訪問して本学の周知を図る。
- ・ 2023年度よりオンラインを最大限に活用し、該当エリアの高校生や高校教員への接触を増やす。

【到達目標】

2024年度入試において、全学科で2～3名の入学者を獲得し、2025年度入試以降で

は常時 5 名以上の入学者を獲得してく。

II. 現状分析

1) 学生募集の見通し

- ・ 県内全日制・定時制高校の卒業生数（女子）は、2017 年の 4,378 人が、2021 年には 3819 人まで減少し、2022 年度は 3600 人前半になる見通し（5 年間の減少率は 17.4%）。今後の 5 年間ではやや持ち直すが、その後急激な減少が予想される。
- ・ 通信制高校の卒業生数は、この 5 年間で大きな変化は無く、信愛高校の通信制を加え、今後上昇することが期待される。
- ・ 和歌山市による 4 年生大学誘致の結果、県内全日制・定時制高校卒業生（女子）の 4 年制大学進学率は 2018 年 39.8%から 2021 年 47.8%まで上昇。
- ・ 短期大学進学者率（女子）は、2018 年 10.0%から 2021 年 7.7%まで減少。実数で 2021 年には 303 人まで減少。
- ・ 圏内の通学圏内にある高校から短期大学への進学者数は 2018 年 335 人から 2021 年 229 人まで減少し、今後 5 年間は 200 人台前半に留まる見通し。
- ・ 本学の入学者数は、2020 年より定員割れの状態が続いており、2022 年に保育科定員を 80 名に削減したが、定員充足率は 85.3%と厳しい状態である。
- ・ このまま無策で放置した場合、今後 5 年間、8 割前後の定員充足率に留まる見通し。

学生募集における見通し

学科・専攻名		2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
生活文化学科 生活文化専攻	入学定員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
	入学者数	43	68	42	42	33					
	(内 社会人)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)					
	入学定員充足率(%)	107.5%	170%	105%	105%	82.5%					
生活文化学科 食物栄養専攻	入学定員	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
	入学者数	45	32	28	34	40					
	(内 社会人)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)					
	入学定員充足率(%)	90%	64%	56%	68%	80.0%					
保育科	入学定員	100	100	100	100	80	80	80	80	80	80
	入学者数	99	100	79	73	72					
	(内 社会人)	(2)	(3)	(3)	(3)	(4)					
	入学定員充足率(%)	99%	100%	79%	73%	90.0%					
全学	入学定員	190	190	190	190	170	170	170	170	170	170
	入学者数	187	200	149	149	145	137	139	149	149	149
	入学定員充足率(%)	98.4%	105.3%	78.4%	78.4%	85.3%					
	収容定員	380	380	380	380	360	340	340	340	340	340
	収容数	402	385	351	295	291	282	276	288	297	298
	前年比率		107.0%	74.5%	100.0%	97.3%					
	県内短大進学者に占める 本学進学者の割合	42.6%	51.9%	44.6%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%
通学圏内短大進学者に 占める本学進学者割合	55.8%	69.2%	57.3%	65.1%	65.1%	65.1%	65.1%	65.1%	65.1%	65.1%	
全日制・定時制 前年度卒業生進路	前年度女子卒業生数(前 値比)	4378	4234	4190	3922	3819	3615	3659	3912	3914	3926
			96.7%	99.0%	93.6%	97.4%	97.4%	94.7%	101.2%	106.9%	100.1%
	大学(前年比)	1742	1799	1917	1875						
			103.3%	106.6%	97.8%						
	短大	439	385	334	303	295	279	283	302	302	303
			87.7%	86.8%	90.7%						
	短大(通学圏内)	335	289	260	229	223	211	214	228	229	229
	短大(紀南)	104	96	73	69						
専修学校(専門課程)	961	875	890	836							
		91.1%	101.7%	93.9%							
就職率	17.9%	18.3%	17.4%	14.4%							
通信制高校 前年度卒業生進路	前年度女子卒業生数	86	99	92	96						
	大学等	16	7	18	19						
	専門学校	12	20	11	10						
	就職	17	28	22	15						
	その他	41	44	41	52						

2021年度通
学圏内学生
本学進学率
より推定2021年度
データより
2021年度
データより2021年度学
校基本調査
より2021年度進
学率より推定紀南との比率
より推定

(赤字は推定値)

2) 経営の見通し

- ・ 定員充足率の低下に伴い、2021年度より経営収支は支出超過の状態に。
- ・ 2022年度は収容定員充足率80.8%に対し、約7000万近くの支出超過予算を計上。
- ・ このまま放置すると、3年間で3億円を上回る支出超過が見込まれる。
- ・ 学費を改正しない場合、定員を充足しても赤字になる見通し。

自己点検・評価報告書 2022

自己点検・評価委員会

年度	学生数													収支差額 (千円)				
	入学定員 (人)	入学者数(人)						収容定員	収容数(人)		入学定員充足率		収容定員充足率		学費変更無し		学費値上げ (入学金+50千、授業料等120千)	
		対策無し	対策あり						対策無し	対策あり	対策無し	対策あり	対策無し	対策あり	対策無し	対策あり	対策無し	対策あり
			予測	生文改革増分	通信入学増分	社会人増分	関西以外増分											
2018	190	187					380	402		98.4%		105.8%		30897				
2019	190	200					380	385		105.3%		101.3%		102919				
2020	190	149					380	351		78.4%		92.4%		5750				
2021	190	149					380	295		78.4%		77.6%		-41905				
2022	170	145					360	291		85.3%		80.8%		-69790				
2023	170	137	143		3	3	340	282	288	80.8%	84%	83.1%	84.8%	-112417	-103158	-112417	-103158	
2024	170	139	156	5	5	5	2	340	276	299	81.8%	92%	81.3%	88.1%	-107488	-71993	-83844	-45459
2025	170	149	174	5	5	10	5	340	288	330	87.5%	102%	84.6%	97.0%	-90066	-25249	-48097	23009
2026	170	149	174	5	5	10	5	340	297	347	87.5%	102%	87.5%	102.2%	-75107	2055	-31972	52441
2027	170	149	179	5	5	15	5	340	298	353	87.8%	105%	87.6%	103.8%	-74286	10593	-31064	61915

年度	収入				支出 事業活動支出 (千円) (人件費比率 0.64で推定)	収入内訳						人件費支出見積もり		
	事業活動収入 (千円)		学費値上げ増分 (入学金+50千、 授業料等120千)			補助金 (千円/学生)		補助金 (千円)		学生納付金 (千円)		人件費 (千円)	教員 (9000千 円/人)	職員 (6000千 円/人)
	対策 無し	対策 あり	対策 無し	対策 あり		対策 無し	対策 あり	対策 無し	対策 あり	対策 無し	対策 あり			
2018	539814				508917	190		76527		415475		408796	27	22
2019	625868				522949	199		76574		412298		337995	25	18
2020	532238				526488	324		113899		368283		335415	25	18
2021	449205				491110	339		100027		312935		319685	24	18
2022	403220				473010	275		80080		307880		305780	25	15
2023	375083	384342			487500	318	316	89762	91250	274432	280534	312000	24	16
2024	365950	401444	23644	26534	473438	317	310	92609	92715	268414	291803	303000	23	16
2025	383372	448188	41969	48259	473438	315	264	94551	86919	279895	322604	303000	23	16
2026	398330	475493	43136	50386	473438	318	218	101508	75800	289751	340596	303000	23	16
2027	399152	484030	43222	51322	473438	316	201	105535	71003	290292	346222	303000	23	16

(赤字は推定値)